Panasonic

取扱説明書

デジタルカメラ/
レンズキット / ダブルズームレンズキット / ボディ

品番 DMC-G2K/DMC-G2W
DMC-G2

本書では、本機の操作方法を説明しています。
別冊の「パソコン接続編 取扱説明書」、「付属ソフトについてのお知らせ」もあわせてお読みください。

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- **ご使用前に「安全上のご注意」(6～9ページ)を必ずお読みください。**
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

保証書別添付

VQT2S29-1

安全上のご注意

はじめに

準備

基本

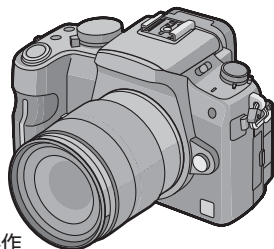
応用・撮影

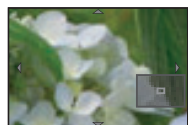
応用・再生

他の機器との接続

その他 Q&A

大切な瞬間を 楽しく カンタンに 撮る・撮る

P45

おまかせで撮る
(P45)
- 光るボタンを押すだけのカンタン操作
- カメラが自動でシーンを判別
「インテリジェントオートモード」

タッチパネルを使って撮る
(P52、76、77、78)
- ピントを合わせたい被写体を直接タッチ操作
「タッチ追尾」、「タッチフォーカスエリア選択」、
「タッチシャッター」など

マニュアル操作で撮る
(P80、95)
- 手動でピントや露出を合わせる
「マニュアルフォーカス」、「マニュアル露出」など

動画を撮る
(P109)
- 動画ボタンを押すだけのカンタン撮影
- 被写体を追いかけて自動でキレイ
「追っかけフォーカス」
- ハイビジョン動画を長時間撮影
「AVCHD Lite」(1280×720画素)

各機器にSDカードスロットがある場合は、カードを直接スロットへ!

- SDHCメモリーカード(別売)
→SDHCメモリーカード対応機器および
SDXCメモリーカード対応機器で使用できます。
- SDXCメモリーカード(別売)
→SDXCメモリーカード対応機器でのみ使用できます。

見る・残す LUMIX（ルミックス）

見る P157

● テレビで見る

SDカード　AVケーブル

HDMIミニケーブル（別売）

残す P162

付属のソフトウェア
「PHOTOfunSTUDIO 5.0 HD Edition」を使って…

● 画像をパソコンに保存　● 画像をDVDに書き込む
● 複数の画像をパノラマ合成
● お好みの音楽や効果を付けてスライドショーを作成
● パソコンで画像をメール送信
● パソコンで画像を直接操作してプリント

SDカード　USB接続ケーブル

● ハードディスク・BD/DVDレコーダーで保存
※詳しくは、各機器の取扱説明書をお読みください。

SDカード　AVケーブル

● ご家庭のプリンターで手軽にプリント
（PictBridge（ピクトブリッジ）対応のプリンター）
● お店でカードを渡してプリント
● 画像に日付を入れてプリント（P170）

SDカード　USB接続ケーブル

もくじ

はじめに

準備

基本

応用·撮影

→「安全上のご注意」を必ずお読みください（6～9ページ）

応用・再生

他の機器との接続

その他・Q & A

安全上のご注意 （必ずお守りください）

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ **誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。**

	危険	「死亡や重傷を負うおそれが大きい内容」です。
	警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
	注意	「傷害を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■ **お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。（次は図記号の例です）**

	してはいけない内容です。		実行しなければならない内容です。

⚠危険

バッテリーチャージャー※/ACアダプターは、本機専用のバッテリーにのみ使用する（※以降は、「チャージャー」と表記）

液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、けがをする原因になります。

バッテリーは、正しく使う

指定以外の充電器で充電すると、液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、けがをする原因になります。

- 専用のチャージャー/ACアダプターで充電する

バッテリーパック※は、誤った使いかたをしない（※以降は、「バッテリー」と表記）

液もれ・発熱・発火・破裂の原因になります。

- 指定外のものは使わない
- 分解や加工（はんだづけなど）、加圧、加熱（電子レンジやオーブンなどで）しない

- 水などの液体や火の中へ入れたりしない
- 炎天下（特に真夏の車内）など、高温になるところに放置しない
- 端子部（⊕・⊖）に金属を接触させない
- バッテリーの液もれが起こったら、お買い上げの販売店にご相談ください。液が身体や衣服についたら、水でよく洗い流してください。液が目に入ったら、失明のおそれがあります。すぐにきれいな水で洗い、医師にご相談ください。

⚠警告

異常・故障時には直ちに使用を中止する

異常があったときには、バッテリーを外す

- 煙が出たり、異常なにおいや音がする
- 映像や音声が出ないことがある
- 内部に水や異物が入った
- 電源プラグが異常に熱い
- 本体やチャージャー/ACアダプターが破損した

そのまま使うと火災・感電の原因になります。

・チャージャー/ACアダプターを使っている場合は、電源プラグを抜いてください。

・電源を切り、販売店にご相談ください。

電源コードは、誤った使いかたをしない

火災・感電・ショートの原因になります。

- 加工しない・傷つけない
- 熱器具に近づけない
- 無理に曲げない・ねじらない・引っ張らない
- 束ねたりしない
- 傷んだら使わない
- 差し込みがゆるい電源コンセントには使わない
- たこ足配線や定格外(交流100 V～240 V以外)で使わない
- ぬれた手で抜き差ししない

電源プラグは、正しく扱う

火災・感電・ショートの原因になります。

- 定期的に乾いた布でふく(ほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因になります)
- 根元まで確実に差し込む
- 接点部周辺に金属類(クリップなど)を放置しない

分解、改造をしない

分解禁止

内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。

内部に金属物を入れたり、水などの液体をかけたりぬらしたりしない

ショートや発熱により、火災・感電・故障の原因になります。

- 機器の近くに水などの液体の入った容器や金属物を置かないでください。
- 特にお子様にはご注意ください。

⚠警告

乗り物の運転中に使わない

事故の誘発につながります。

- 歩行中も、周囲や路面の状況に十分注意する

運転者などに向けてフラッシュを発光しない

事故の誘発につながります。

メモリーカードは乳幼児の手の届くところに置かない

誤って飲み込むと、身体に悪影響を及ぼします。

- 万一、飲み込んだら、すぐ医師にご相談ください。

電源を入れたまま長時間、直接触れて使用しない

本機の温度の高い部分に長時間、直接触れていると低温やけど※の原因になります。長時間ご使用の場合は、三脚などをお使いください。

※血流状態が悪い人（血管障害、血液循環不良、糖尿病、強い圧迫を受けている）や皮膚感覚が弱い人などは、低温やけどになりやすい傾向があります。

可燃性・爆発性・引火性のガスなどのある場所で使わない

火災や爆発の原因になります。

- 粉じんの発生する場所でも使わない

雷が鳴ったら、触れない

接触禁止

感電の原因になります。

- 本体やチャージャー/ACアダプターには、金属部があります。

ショルダーストラップは肩に掛けて使う

けがや事故の原因になります。

- 首に掛けての使用はしない

ショルダーストラップを乳幼児の手の届くところに置かない

誤ってショルダーストラップを首に巻きつけ、事故につながるおそれがあります。

⚠注意

フラッシュ発光部およびAF補助光は、至近距離（数cm）で直接見ない

誤って発光した場合、視力障害などの原因になることがあります。

フラッシュを人の目に近づけて発光しない

視力障害などの原因になることがあります。

- 乳幼児を撮影するときは、1 m以上離してください。

フラッシュの発光部分を直接手で触らない・ごみなどの異物が付いたまま使わない・テープなどでふさがない

やけどの原因になることがあります。

発光熱によって煙などが出る原因になることがあります。

- 発光直後は、しばらく触らないでください。

病院内や機内では、病院や航空会社の指示に従う

本機からの電磁波などが、計器類に影響を及ぼすことがあります。

次のような場所に放置しない

火災や感電の原因になることがあります。

- 異常に温度が高くなるところ（特に真夏の車内やボンネットの上など）
- 油煙や湯気の当たるところ
- 湿気やほこりの多いところ

次のときは、バッテリーを取り出す

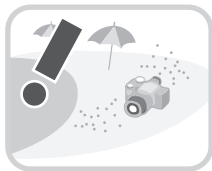
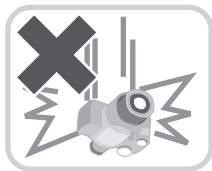
バッテリーを入れたまま放置すると、絶縁劣化やろう電などにより、火災の原因になることがあります。

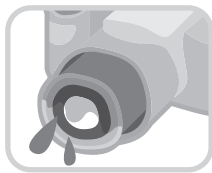
- 長期間使わないとき
- お手入れのとき

レンズを太陽や強い光源に向けたままにしない

集光により、内部部品が破損し、火災の原因になることがあります。

ご使用の前に

■ 本機の取り扱いについて…

- 本機を落としたり、ぶつけたりして、強い振動や衝撃を与えないでください。また、本機に強い圧力をかけないでください。
  誤動作や、画像が記録できなくなる、またはレンズや液晶モニター、外装ケースが破壊される可能性があります。
- 下記の場所では、故障などの原因になることがありますので、特にお気をつけください。
  ・砂やほこりの多いところ
  ・雨の日や浜辺など水がかかるところ
- レンズ部や端子部を汚れた手で触らないでください。
  また、レンズやボタンのすき間から液体や砂、異物などが入らないようにお気をつけください。
- 本機は防水構造ではありません。万一水や海水がかかったときは、柔らかい乾いた布でふいてください。
  正常に動作しない場合は、お買い上げの販売店または修理ご相談窓口にお問い合わせください。
- デジタルカメラボディのマウント内に手を入れないでください。センサー部は精密機器ですので故障、破損の原因になります。

■ つゆつきについて(レンズやファインダー、液晶モニターがくもるとき)…

- つゆつきは、温度差や湿度差があると起こります。レンズや液晶モニターの汚れ、かび、故障の発生原因になりますのでお気をつけください。
- つゆつきが起こった場合、電源を[OFF]にし、2時間ほどそのままにしてください。周囲の温度になじむと、くもりが自然に取れます。

■ 事前に必ずためし撮りをしてください

大切な撮影(結婚式など)は、必ず事前にためし撮りをし、正常に撮影や録音されていることを確かめてください。

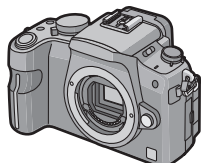
■ 撮影内容の補償はできません

本機およびカードの不具合で撮影や録音されなかった場合の内容の補償についてはご容赦ください。

■ 著作権にお気をつけください

あなたが撮影や録音したものは、個人として楽しむ以外は、著作権法上権利者に無断では使用できません。個人として楽しむ目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでお気をつけください。

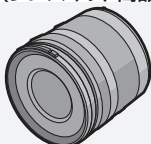
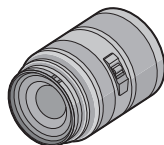
■ 「使用上のお願い」も、あわせてお読みください(P193)

同梱品

デジタルカメラボディ
（本文中では**本体**と表記します）

付属品をご確認ください。

記載の品番は2010年3月現在のものです。変更されることがあります。

DMC-G2W（ダブルズームレンズキット商品）に付属

DMC-G2K（レンズキット商品）に付属

DMC-G2K（レンズキット商品）に付属	DMC-G2W（ダブルズームレンズキット商品）に付属
□ **交換レンズ**（H-FS014042） LUMIX G VARIO 14–42 mm/ F3.5–5.6 ASPH./MEGA O.I.S. （本文中では**レンズ**と表記します）	□ **交換レンズ**（H-FS045200） LUMIX G VARIO 45–200 mm/ F4.0–5.6/MEGA O.I.S. （本文中では**レンズ**と表記します）
□ **レンズフード** VYC1009	□ **レンズフード** VYC0986
□ **レンズキャップ** VYF3201 （お買い上げ時は交換レンズに装着されています）	□ **レンズキャップ** VYF3201 （お買い上げ時は交換レンズに装着されています）
□ **レンズリアキャップ** VFC4315 （お買い上げ時は交換レンズに装着されています）	□ **レンズリアキャップ** VFC4315 （お買い上げ時は交換レンズに装着されています）
□ **レンズ収納袋** VFC4456	□ **レンズ収納袋** VFC4430

同梱品（つづき）

バッテリーパック DMW-BLB13 （本文中では**バッテリー**と表記します） ●充電してからお使いください。	**USB 接続ケーブル** K1HA08AD0003
バッテリーチャージャー/AC アダプター DE-A49A （本文中では**チャージャー**と表記します）	**ボディキャップ** VKF4385 （お買い上げ時はデジタルカメラボディに装着されています）
電源コード K2CA29A00023	**CD-ROM** ●パソコンにソフトウェアをインストールしてお使いください。
AVケーブル K1HA08CD0020	**ショルダーストラップ** VFC4538
	タッチペン VGQ0C14

- **カードは別売です。**
- 別売品については171ページを参照してください。
- 電源コードキャップおよび包装材料は商品を取り出したあと、適切に処理をしてください。
- 小物部品については乳幼児の手の届かないところに適切に保管してください。
- 本書ではDMC-G2KおよびDMC-G2Wに同梱の交換レンズ14–42 mm/F3.5–5.6を用いて説明をしています。
- 付属品をなくされたときは、お買い上げの販売店または修理ご相談窓口（P210～212）にお問い合わせください。

各部の名前

■ デジタルカメラボディ

ドライブモードレバー
- □ ：単写(P49)
- ⧉ ：連写(P70)
- ⧉ ：オートブラケット(P72)
- ⏱ ：セルフタイマー(P74)

フラッシュ発光部(P63)

レンズロックピン

セルフタイマーランプ(P74)/AF補助光ランプ(P134)

モードダイヤル(P43)

シャッターボタン(P44、45)

電源表示ランプ(P45)

インテリジェントオート
iA ボタン(P45)

動画ボタン(P44、109)

ショルダーストラップ取付部(P24)

DCケーブル扉(P178)

フラッシュOPEN（オープン）レバー(P63)

センサー

レンズ取り外しボタン(P22)

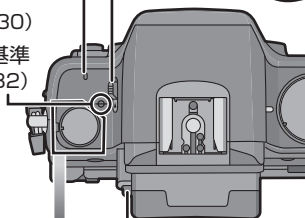
マウント

レンズ取り付けマーク(P21)

マイク(P110、130)

撮影距離基準マーク(P82)

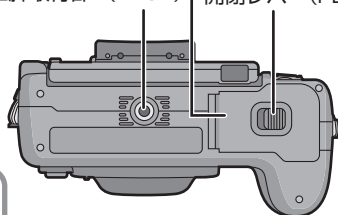
視度調整ダイヤル(P42)

カード/バッテリー扉(P28)

三脚取付部※(P197)

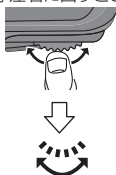
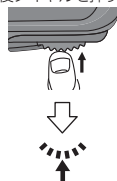
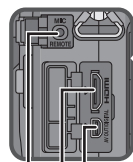
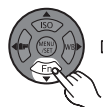
開閉レバー(P28)

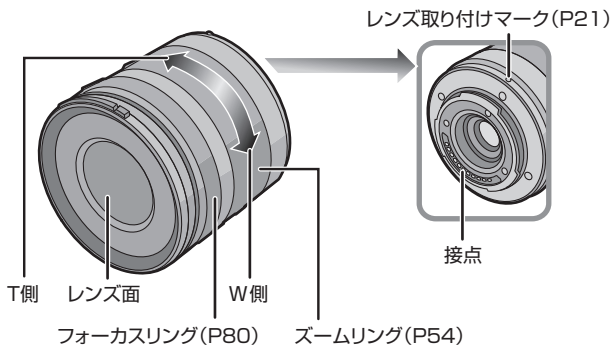
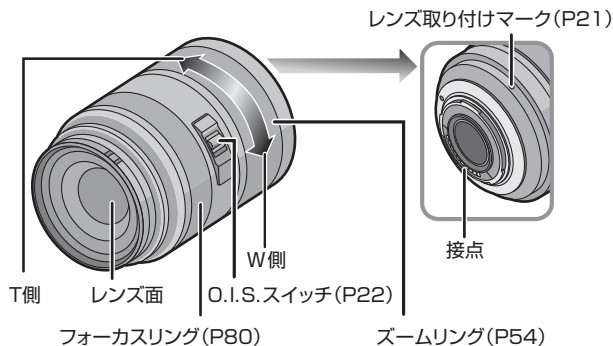
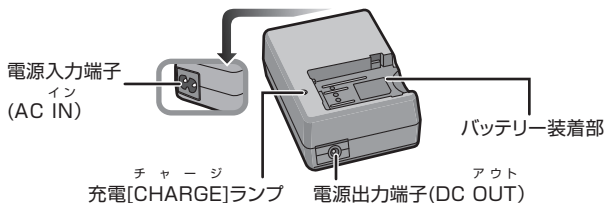
オートフォーカスモードダイヤル
- ⧉ ：顔認識([⧉])(P76)
- ⧉ ：追尾AF([⧉])(P77)
- ▦ ：23点([▦])(P78)
- ▣ ：1点([▣])(P78)

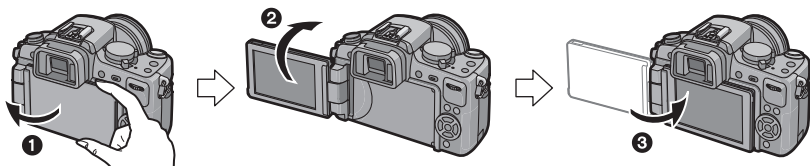
MF AFC AFS

フォーカスモードレバー(P45、49、50、75、80、109)

※三脚を使用する場合は、本機を取り付けた状態で三脚が安定していることを確認してください。

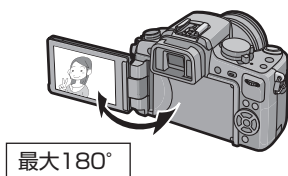
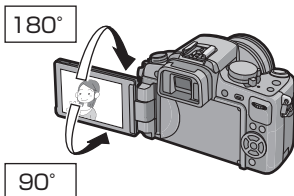
各部の名前（つづき）

後ダイヤル
(P53、57、58、69、94、95、115、142、150)
本書では、後ダイヤルを右図のように説明しています。
後ダイヤルの操作方法については、19ページをお読みください。
例:左右に回すとき
例:後ダイヤルを押すとき
ホットシュー
(P173、177)
アイカップ(P194)
[LVF/LCD]ボタン
(P42)
再生ボタン
(P56、59、140、157、158、159)
電源スイッチ(P30)
[AF/AE LOCK]ボタン(P83)
[Q.MENU]ボタン
(P34、47、76、78、81)
[DISPLAY]ボタン
(P56、60、97)
[MENU/SET]ボタン(P30)
消去(P59)/
プレビューボタン(P97)/
フリッカー軽減機能(P115)
ファインダー
(P42、60、180)
アイセンサー(P42)
[AV OUT/DIGITAL]端子
(P157、162、165、167)
[HDMI]端子
(P158、159)
タッチパネル/液晶モニター
(P17、40、56、60、180)
[MIC/REMOTE]端子(P176、177)
MIC
REMOTE
HDMI
AV OUT/DIGITAL
カーソルボタン
上下左右の選択
本書では、カーソルボタンを下図のように、または、▲/▼/◀/▶で説明しています。
例:▼(下)ボタンを押すとき
ISO
MENU /SET
WB
Fn
または ▼を押す
▲(上)/ISO(P89)
◀(左)/フィルムモード(P91)
▼(下)/ Fn (P132)
▶(右)/ WB(P85)
以下のメニューを割り当てることができます。
[フォーカスエリア選択]/[画像横縦比]/
[クオリティ]/[測光モード]/[超解像]/
[暗部補正]/[EX光学ズーム]/[ガイドライン表示]/
[記録枠表示]/[残枚数/残時間切換]

■ 同梱レンズ

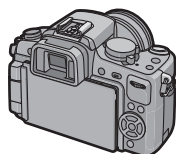
H-FS014042(LUMIX G VARIO 14−42 mm/F3.5−5.6 ASPH./MEGA O.I.S.)

H-FS045200(LUMIX G VARIO 45−200 mm/F4.0−5.6/MEGA O.I.S.)

■ バッテリーチャージャー/ACアダプター(P25、178、179)

液晶モニターを回転させる

お買い上げ時、液晶モニターは収納状態になっています。
液晶モニターを下図のようにして液晶面を表にします。

❶ 液晶モニターを開く
（最大180゜開きます）
❷ レンズ方向に180゜回転させる
❸ 元の位置へ閉じる

液晶モニターの回転範囲

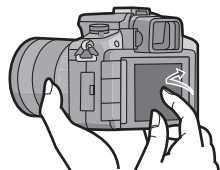
■ 左右開き方向

■ 前後回転方向

- レンズ方向に180゜まで回転します。
- 手前に90゜まで回転します。

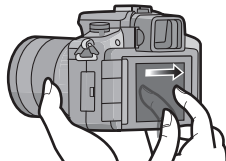
お知らせ

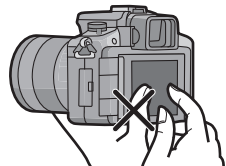
- **液晶モニターは十分開いてから回転させ、無理な力を加えないようお気をつけください。故障の原因になります。**
- 液晶モニターの周囲を持つと、液晶モニターにムラが発生しますが、故障ではありません。また、撮影画像や再生画像にも影響はありません。
- 液晶モニターを使用しないときは、汚れや傷防止のため液晶モニターを内側に収納しておくことをおすすめします。

タッチパネルの使いかた

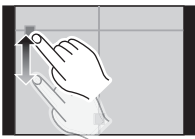
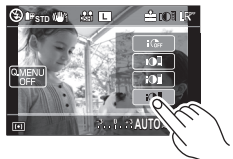
本機のタッチパネルは圧力を感知するタイプです。
指で液晶モニター(タッチパネル)を直接タッチして操作できます。

■ タッチする

タッチパネルを押して離す動作です。
アイコンや画像を選択するときなどに使います。
- 複数のアイコンを同時にタッチすると、正常に動作しない恐れがありますので、アイコンの中央付近をタッチしてください。

■ ドラッグする

タッチパネルを押したまま動かす動作です。
表示している画像の範囲を変更したり、スライドバーを操作して画面を切り換えるときなどに使います。
- 選択するアイコンを間違えたときは、そのまま他のアイコンまでドラッグして指を離すと、そのアイコンを選択できます。

お知らせ

- 液晶モニター消灯時、タッチパネルは動作しません。
- 市販の保護シートをはり付けて使用している場合や、反応しにくいと感じるときは、**少し強めにタッチしてください**。
- 市販の液晶保護シートをご使用になる場合は、その注意書きに従ってください。
(液晶保護シートの種類によっては、視認性や操作性が損なわれる場合があります)
- 本機を持つ手がタッチパネルを押さえていると、タッチパネルは動作しません。
- ボールペンなどの先のとがった硬いもので押さないでください。
- 爪を立てて操作しないでください。
- 液晶モニターが指紋などで汚れた場合は、乾いた柔らかい布でふいてください。
- 液晶モニターを強い力でこすったり、押したりしないでください。

タッチペンについて

指で操作しにくい場合など、細かな作業にはタッチペン(付属)が便利です。
- 付属のタッチペン以外は使わないでください。
- 乳幼児の手の届くところに置かないでください。

タッチパネルの使いかた（つづき）

タッチ操作でできること

タッチパネルを使って、ピントを合わせたい被写体をタッチしてAFエリアを移動させたり、アイコンをタッチして直接設定を変更するなど、撮影時や設定時の操作がより簡単に行えます。
以下はタッチ操作でできることの一例です。

撮影時	
 タッチ追尾（P47、77） タッチ1点AF（P78） 顔認識時タッチ1点AF（P76） タッチマルチAFエリア選択（P78） タッチMFアシスト拡大（P80）	 **タッチシャッター（P52）** 写真撮影時に、タッチした被写体にピントを合わせて自動的にシャッターを切ります。

撮影時		再生時
 ガイドライン位置移動（P61） ヒストグラム位置移動（P62）	 タッチクイックメニュー（P34） LCD撮影情報画面タッチ操作（P34）	 画像再生（P56） 再生ズーム（P58）

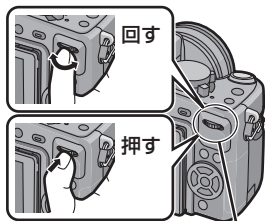
お知らせ

- 右図のようなガイドが画面に表示されているときは、カーソルボタンの▲/▼/◀/▶と[MENU/SET]ボタンでも操作することができます。
  ▲/▼/◀/▶：　項目の選択や、数値の設定などを行います。
  [MENU/SET]：設定内容の決定や、メニューの終了を行います。
- メニュー項目はタッチ操作で設定できません。カーソルボタンまたは後ダイヤルを使って設定してください。（P32）
- ファインダー使用時、タッチ操作はできません。カーソルボタンまたは後ダイヤル（P19）を使って設定してください。

後ダイヤルを操作する

後ダイヤルは左右方向に回す操作と押して決定する操作との2とおりあります。

回す： 各種設定時には、項目の選択や、数値の設定などを行います。

押す： 各種設定時には、設定内容の決定や、メニューの終了など、[MENU/SET] ボタンと同じ操作を行います。

後ダイヤル

撮影・再生画面での操作の例

	回す	押す
撮影時	プログラムシフト(P53)、絞り(P94)、シャッタースピード(P94)の調整など	露出補正操作への切り換え(P69)など
再生時	マルチ(カレンダー)再生(P57)、再生ズーム(P58)	1画面再生(マルチ再生中)、ズームしたまま画像送り(再生ズーム中)への切り換え

お知らせ

- 動画撮影中に後ダイヤルを操作すると、ダイヤル操作音が記録されますのでお気をつけください。

本機に使用可能なレンズ

本機は、マイクロフォーサーズ TM システムのレンズマウント規格に準拠した専用レンズ(マイクロフォーサーズマウント)を使うことができます。撮影シーン、目的に合わせてレンズを選択してください。

■ マイクロフォーサーズマウント

マイクロフォーサーズシステムのレンズマウント規格のことです。新たに開発されたデジタルカメラ専用交換レンズのマウントです。

■ お使いのレンズ機能について

- レンズの種類によって縦位置検出機能(P41)、手ブレ補正(P126)、クイックAF(P133)、コンティニュアスAF(P133)などの使用できない機能があります。
- お使いのレンズの絞り値によって、フラッシュ撮影可能範囲などが異なります。
- 撮影の前にお使いのレンズでためし撮りをして確認してください。
- マウントアダプター(別売：DMW-MA1)を使用することで、フォーサーズ TM マウント規格のレンズを使用することもできます。なお、マイクロフォーサーズマウント規格レンズはフォーサーズマウント規格のカメラでは構造上ご使用になれません。マイクロフォーサーズマウント規格カメラ専用です。

本機に使用可能なレンズ（つづき）

- Mマウントアダプター、Rマウントアダプター（別売：DMW-MA2M、DMW-MA3R）使用時は、ライカMマウント、ライカRマウントの交換レンズを使用することができます。
  - ・お使いのレンズによっては、実際にピントの合う距離とレンズの距離表示が多少ずれる場合があります。
  - ・ライカレンズ用マウントアダプター使用時は、[レンズ無しレリーズ](P138)を[ON]に設定してください。
- 使用するレンズの焦点距離は、2倍換算になります。
  （50 mmレンズを使用した場合は、100 mmレンズ相当になります）

本機で使用できる交換レンズと、オートフォーカス / 自動絞り動作（2010年3月現在）
（○：使用可能、△：一部機能・性能に制限あり、×：使用不可能）

レンズの種類		写真撮影時		動画撮影時	
		オートフォーカス	自動絞り動作	オートフォーカス	自動絞り動作
マイクロフォーサーズマウント規格レンズ	DMC-G2KおよびDMC-G2Wに同梱の交換レンズ（H-FS014042）、（H-FS045200）	○（[AFS]、[AFC]）	○	△※4、5	△※7
	その他マイクロフォーサーズマウント規格レンズ※3				
	HD動画対応マイクロフォーサーズマウント規格レンズ（LUMIX G VARIO HD）	○（[AFS]、[AFC]）	○	○※4	○
フォーサーズマウント規格レンズ※1	コントラストAF対応フォーサーズマウント規格レンズ	△（[AFS]）	○	△※6	△※7
	コントラストAF非対応フォーサーズマウント規格レンズ	△※8（[AFS]）	○	△※6、8	△※7
ライカマウント規格レンズ※2	ライカ用交換レンズ	×	×	×	×

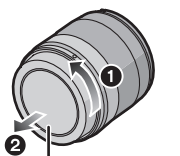
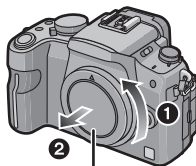
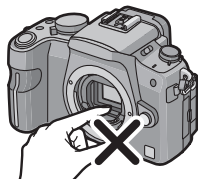
※1 本機で使用するにはマウントアダプター（別売：DMW-MA1）が必要です。
※2 ライカレンズ用マウントアダプター（別売：DMW-MA2M、DMW-MA3R）が必要です。
※3 ご使用のマイクロフォーサーズレンズによっては、動作しない場合があります。
　　レンズ動作については、ホームページでご確認ください。
※4 動画撮影時は、[AFS]、[AFC]（P50）のどちらに合わせても連続的にピントを合わせ続けます。
※5 HD動画対応マイクロフォーサーズマウント規格レンズに比べて、追従性能が劣ります。
　　また、オートフォーカスの動作音が記録される場合があります。
※6 シャッターボタン半押し時のみ、オートフォーカスが働きます。
　　この時、オートフォーカスの動作音が記録される場合があります。
※7 絞りの動作音が記録される場合があります。
※8 ご使用のレンズにより、AF性能には差があります。詳しくは、ホームページでご確認ください。

対応レンズの最新情報は、カタログ/ホームページなどをご覧ください。
http://panasonic.jp/support/dsc/

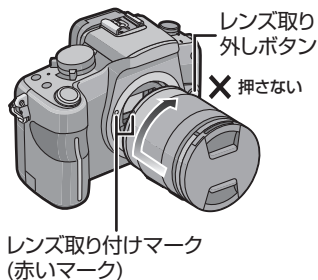
レンズを付ける・取り外す

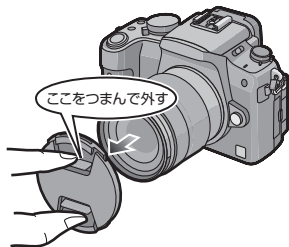
- 電源が[OFF]になっていることを確認する。
- フラッシュを閉じる。

本体にレンズを付ける場合

1 レンズリアキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外す

- マウント内に指を入れないでください。

2 本体とレンズのレンズ取り付けマーク(赤いマーク)を合わせて、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回す

- レンズを付けるときは、レンズ取り外しボタンを押さないでください。
- レンズを本体に対して傾いた状態で付けようとすると、本体のレンズ取付部を傷つける恐れがありますのでお気をつけください。
- レンズが正しく付いていることを確認してください。

3 レンズキャップを外す

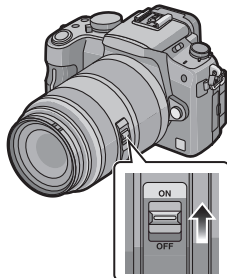
- レンズキャップを外して撮影してください。

■ 手ブレを補正するために

DMC-G2KおよびDMC-G2Wに同梱の交換レンズには、手ブレ補正機能があります。

- DMC-G2KおよびDMC-G2Wに同梱の交換レンズ14–42 mm/F3.5–5.6には、O.I.S.スイッチがありません。手ブレ補正の設定は撮影メニューで行ってください。(P126)
- DMC-G2Wに同梱の交換レンズ45–200 mm/F4.0–5.6には、O.I.S.スイッチがあります。

O.I.S.スイッチのあるレンズをご使用の場合は、レンズのO.I.S.スイッチを[ON]にすることで手ブレ補正機能が働くように設定することができます。

- 撮影メニューの[手ブレ補正](P126)で、手ブレ補正のモードを切り換えることができます。お買い上げ時は、[MODE1]に設定されています。
- 三脚を使用するときは、手ブレ補正を[OFF]にすることをおすすめします。[OFF]に設定すると、画面に[((✋))OFF]が表示されます。

[DMC-G2Wに同梱の交換レンズ45–200 mm/F4.0–5.6 装着時]

本体からレンズを取り外す場合

1 レンズキャップを付ける

2 レンズ取り外しボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に止まるまで回して外す

- 本体の内部にごみやほこりが付着するのを防ぐために、必ずボディキャップを付けてください。
- レンズの接点を傷つけないように、必ずレンズリアキャップを付けてください。

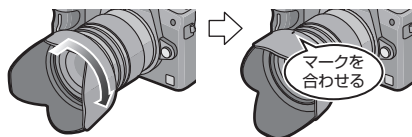
お知らせ

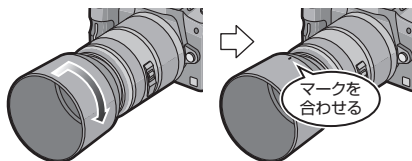
- レンズの交換は、ごみやほこりの少ない場所で行ってください。ごみなどが付着した場合は、193ページをお読みください。
- 電源を[OFF]にしているときや持ち運びするときは、レンズ面の保護のため、レンズキャップを付けてください。
- **ボディキャップ、レンズキャップ、レンズリアキャップの紛失にお気をつけください。**

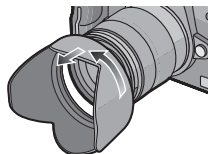
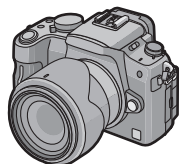
レンズフードを付ける

日差しの強い中、逆光時のゴーストやフレアを軽減します。余分な光をさえぎり、より美しく撮れます。
- 電源が[OFF]になっていることを確認する。
- フラッシュを閉じる。

DMC-G2KおよびDMC-G2Wに同梱の交換レンズ14–42 mm/F3.5–5.6に付属しているレンズフード(花型)を取り付ける場合

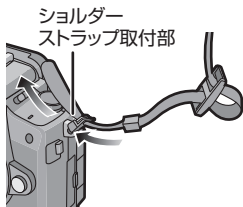
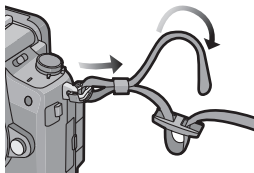
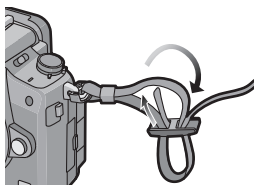
レンズフードの短いほうを上下にしてレンズに挿入し、矢印の方向へ止まるまで回す

DMC-G2Wに同梱の交換レンズ45–200 mm/F4.0–5.6に付属しているレンズフードを取り付ける場合

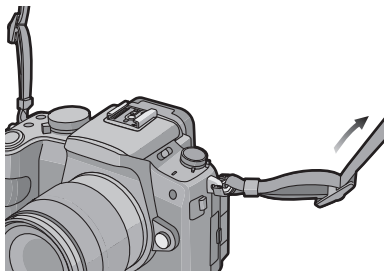
レンズフードをレンズに挿入し、矢印の方向へ止まるまで回す

■ 一時的にレンズフードを外して運ぶ場合(仮収納)

1 レンズフードを矢印の方向に回して取り外す

2 レンズフードの向きを逆にし、上記と同じ操作でレンズフードを付ける
- レンズキャップを付けてください。
- 仮収納時は、確実にレンズフードが付いていることを確認して、画像にレンズフードが映っていないことを確認してください。

- 花型レンズフードの付け外しは、レンズフードの短いほうを持って行ってください。
- フラッシュ使用時にレンズフードを付けていると、フラッシュ光がレンズフードにさえぎられ、画面の下が暗く(ケラレ)なり、調光もできなくなります。レンズフードを外して使用することをおすすめします。
- 暗いところでAF補助光を使用するときは、レンズフードを外してください。

ショルダーストラップを付ける

● 落下防止のため、ショルダーストラップを取り付けてご使用いただくことをおすすめします。

1 ショルダーストラップを本体のショルダーストラップ取付部にとおす

2 矢印に従って、ショルダーストラップの端をリングにとおしたあと、留め具にとおす

3 ショルダーストラップの端を留め具のもう一方の穴にとおす

4 ショルダーストラップのもう一方を引いて、抜けないことを確認する

● 手順**1**～**4**の操作を行って、もう片方のショルダーストラップも取り付けてください。

お知らせ

● ショルダーストラップは必ず手順に従って正しく取り付けてください。
● ショルダーストラップがしっかり付けられていることを確認してください。
● LUMIX のロゴが外側になるように付けてください。

バッテリーを充電する

■ 本機で使えるバッテリー(2010年3月現在)

本機で使えるバッテリーはDMW-BLB13です。

パナソニック純正品に非常によく似た外観をした模造品のバッテリーが一部国内外で流通していることが判明しております。このようなバッテリーの模造品の中には、一定の品質基準を満たした保護装置を備えていないものも存在しており、そのようなバッテリーを使用した場合には、発火・破裂等を伴う事故や故障につながる可能性があります。安全に商品をご使用いただくために、バッテリーを使用するパナソニック製の機器には、弊社が品質管理を実施して発売しておりますパナソニック純正バッテリーのご使用をおすすめいたします。
なお、弊社では模造品のバッテリーが原因で発生した事故・故障につきましては、一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

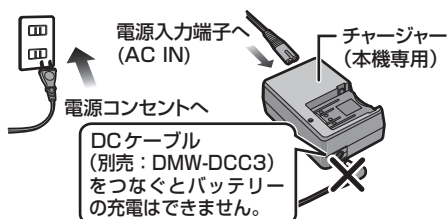
- 本機専用のチャージャーとバッテリーを使用してください。
- 本機には、使用できるバッテリーを判別する機能があり、専用バッテリー(DMW-BLB13)は、この機能に対応しています。(この機能に対応していない従来のバッテリーは使用できません)(P195)

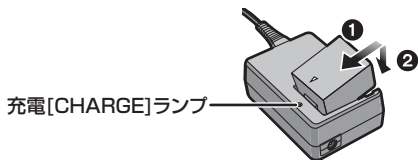
準備

■ 充電する

- お買い上げ時、バッテリーは充電されていませんので、充電してからお使いください。
- チャージャーは屋内で使用してください。
- 充電は周囲の温度が10 ℃～35 ℃(バッテリーの温度も同様)のところで行ってください。

電源コードをつなぐ

電源コードは、本機専用ですので、他の機器には使用しないでください。また、他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。

バッテリーの向きに気をつけて、バッテリーを差し込む

- 充電完了後は、チャージャーを電源コンセントから抜き、バッテリーを取り外してください。

■ 充電ランプの表示について

[点灯する]： 充電が開始され充電ランプが点灯します。

[消灯する]： 充電が正しく完了すると、チャージャーの[CHARGE]ランプが消灯します。

●点滅するときは

・バッテリーの温度が高すぎる、あるいは低すぎます。周囲の温度が10 ℃～35 ℃のところで再度充電を行ってください。

・チャージャーやバッテリーの端子部が汚れています。このようなときは、汚れを乾いた布でふき取ってください。

バッテリーを充電する（つづき）

■ 充電について

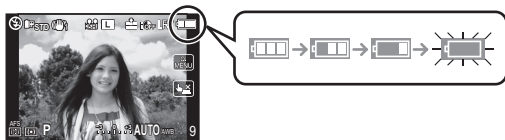
充電時間	約 155 分

- **充電時間はバッテリーを使い切ってから充電した場合の時間です。バッテリーの使用状況によって充電時間は変わります。高温/低温時や長時間使用していないバッテリーは充電時間が長くなります。**

別売のバッテリーパック（DMW-BLB13）の充電時間と記録可能枚数は、付属のバッテリーパックの場合と同じです。

■ バッテリー残量表示について

残量表示が画面に表示されます。
[ACアダプター（P178）につないで使用するときは表示されません]

- バッテリー残量がなくなると表示が赤に変わり点滅します。（電源表示ランプも点滅します）
  バッテリーを充電または満充電されたバッテリーと交換してください。

お知らせ

- 使用後や充電中、充電直後などはバッテリーが温かくなっています。また使用中は本機も温かくなりますが、異常ではありません。
- バッテリー残量が残っていても、そのまま充電できますが、満充電での頻繁な継ぎ足し充電はおすすめできません。（バッテリーが膨らむ特性があります）
- **チャージャーは海外でも使うことができます。（P179）**
- **電源プラグの接点部周辺に金属類（クリップなど）を放置しないでください。ショートや発熱による火災や感電の原因になります。**

使用時間と撮影枚数のめやす

写真記録（液晶モニター使用時）（条件はCIPA規格でプログラムAEモード時）

	DMC-G2KおよびDMC-G2Wに同梱の交換レンズ14–42 mm/F3.5–5.6装着時	DMC-G2Wに同梱の交換レンズ45–200 mm/F4.0–5.6装着時
記録可能枚数	約360枚	約340枚
撮影使用時間	約180分	約170分

写真記録（ファインダー使用時）（条件はCIPA規格でプログラムAEモード時）

	DMC-G2KおよびDMC-G2Wに同梱の交換レンズ14–42 mm/F3.5–5.6装着時	DMC-G2Wに同梱の交換レンズ45–200 mm/F4.0–5.6 装着時
記録可能枚数	約390枚	約370枚
撮影使用時間	約195分	約185分

CIPA規格による撮影条件

- CIPAは、カメラ映像機器工業会(Camera & Imaging Products Association)の略称です。
- 温度23 ℃/湿度50%、液晶モニターを点灯
- 当社製のSDメモリーカード(2 GB)使用
- 付属バッテリー使用
- 電源を入れてから30秒経過後、撮影を開始
- **30秒間隔で1回撮影**、フラッシュを2回に1回フル発光
- 10枚撮影ごとに電源を切り、バッテリーの温度が下がるまで放置

記録可能枚数は撮影間隔によって変わります。撮影間隔が長くなると記録可能枚数は減少します。[例えば2分に1回撮影した場合は、上記(30秒に1回撮影)の枚数の約1/4になります]

動画撮影(液晶モニター使用時)

→ **AVCHD Lite**(画質設定を[SH]([SH])で撮影)

	DMC-G2KおよびDMC-G2Wに同梱の交換レンズ14–42 mm/F3.5–5.6装着時	DMC-G2Wに同梱の交換レンズ45–200 mm/F4.0–5.6 装着時
連続撮影可能時間(動画)	約180分	約160分
実撮影可能時間(動画)	約100分	約90分

→ **MOTION JPEG**(画質設定を[HD]([HD])で撮影)

	DMC-G2KおよびDMC-G2Wに同梱の交換レンズ14–42 mm/F3.5–5.6装着時	DMC-G2Wに同梱の交換レンズ45–200 mm/F4.0–5.6 装着時
連続撮影可能時間(動画)	約180分※	約160分※
実撮影可能時間(動画)	約100分※	約90分※

- 温度23 ℃/湿度50% の環境下での時間です。時間は目安にしてください。
- 実撮影可能時間とは、電源の[ON]/[OFF]切り換え、撮影の開始/終了などを繰り返したときに撮影できる時間です。

※ [MOTION JPEG]で動画を連続で撮影できるのは、最大2 GBまでです。画面には、2 GBで記録できる最大記録可能時間までしか表示されません。

再生(液晶モニター使用時)

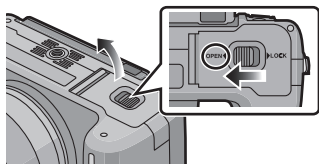
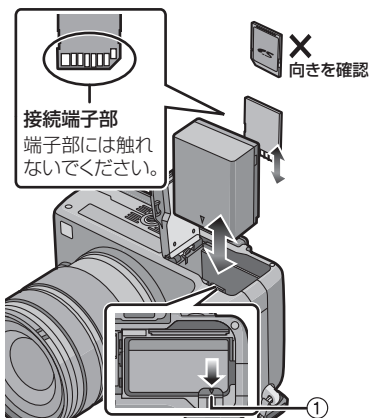
	DMC-G2KおよびDMC-G2Wに同梱の交換レンズ14–42 mm/F3.5–5.6装着時	DMC-G2Wに同梱の交換レンズ45–200 mm/F4.0–5.6 装着時
再生使用時間	約330分	約290分

お知らせ

- **使用時間と撮影枚数は、周囲環境や使用条件によって変わります。**
  例えば、以下の場合は、使用時間と撮影枚数は短くなります。
  ・スキー場などの低温下
  ・[オートパワーLCD] または [パワーLCD](P36)使用時
  ・フラッシュ発光を繰り返した場合
- 正しく充電したにもかかわらず、著しく使用できる時間が短くなったときは、寿命と考えられます。新しいバッテリーをお買い求めください。

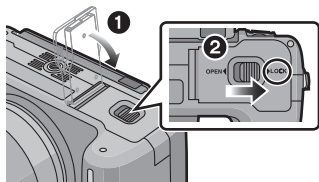
バッテリー/カード(別売)を入れる・取り出す

- 電源が[OFF]になっていることを確認する。
- フラッシュを閉じる。
- カードは当社製のものをお使いいただくことをおすすめします。

1 開閉レバーをOPEN側にスライドさせて、カード/バッテリー扉を開く

2 バッテリー:
向きに気をつけて、①のレバーでロックされるまで入れる
取り出すときは、①のレバーを矢印の方向に引いて取り出す

カード:
向きに気をつけて、「カチッ」と音がするまで奥まで入れる
取り出すときは、「カチッ」と音がするまで押し、まっすぐ引き抜く

- カードを奥まで入れないと、カードが壊れる原因になることがあります。

3 ❶カード/バッテリー扉を閉じる
❷開閉レバーをLOCK側にスライドさせる

- カード/バッテリー扉が完全に閉じない場合は、一度カードを取り出し、カードの向きを確認してからもう一度入れ直してください。

お知らせ

- 使用後は、バッテリーを取り出しておいてください。
- 電源を[ON]にしたまま、バッテリーを取り出さないでください。カメラの設定が正しく保存されない可能性があります。
- 付属のバッテリーは、本機専用です。本機以外で使わないでください。
- バッテリーは当社製のものをお使いください。
- バッテリーを長期間放置すると、バッテリーは消耗します。
- カードやバッテリーの取り出しは、電源を切り、電源表示ランプが完全に消えてから行ってください。(本機が正常に動作しなくなったり、カードや撮影内容が壊れる場合があります)

カードについて

カードアクセス中は・・・

カードに画像を記録しているときは、アクセス表示が点灯します。

(アクセス表示)
アクセス表示は赤く点灯します。

カード

本機では、SD規格に準拠した以下のカードが使用できます。(本書では、これらを**カード**と記載しています)

カードの種類	特長
SDメモリーカード(8 MB～2 GB) miniSDカード※1/microSDカード※1	●SDHCメモリーカードは、SDHCメモリーカードまたはSDXCメモリーカード対応機器で使用できます。 ●SDXCメモリーカードは、SDXCメモリーカード対応機器でのみ使用できます。 ●SDXCメモリーカードをお使いの場合は、パソコンなどが対応しているかご確認ください。 http://panasonic.jp/support/sd_w/
SDHCメモリーカード(4 GB～32 GB) microSDHCカード※1	
SDXCメモリーカード(48 GB～64 GB)	

※1 本機で使用する場合は、専用のアダプターを必ず装着してお使いください。(アダプターのみを本機に挿入すると、正常に動作しません。必ず、カードを入れてお使いください。)

- 4 GB～32 GBのカードはSDHCロゴのある(SD規格準拠)カードのみ使用できます。
- 48 GB～64 GBのカードはSDXCロゴのある(SD規格準拠)カードのみ使用できます。
- [AVCHD Lite]で動画撮影の際は、SDスピードクラス※2が「Class4」以上のカードを使用してください。また、[MOTION JPEG]で動画撮影の際は、SDスピードクラスが「Class6」以上のカードを使用してください。

※2 SDスピードクラスとは、連続的な書き込みに関する速度規格です。

- **最新情報は下記サポートサイトでご確認ください。**
  http://panasonic.jp/support/dsc/

お知らせ

- **アクセス表示点灯中、画像の書き込み、読み出しや消去、フォーマット(P39)中などは、電源を切ったり、バッテリーやカード、DCケーブル(別売:DMW-DCC3)(ACアダプター使用時)を取り外さないでください。また、本機に振動、衝撃や静電気を与えないでください。**
  カードやカードのデータが壊れたり、本機が正常に動作しなくなることがあります。
  振動、衝撃や静電気により動作が停止した場合は再度操作してください。
- 書き込み禁止スイッチを「LOCK」側にすると、データの書き込みや消去、フォーマットはできなくなります。戻すと可能になります。
- カードに記録されたデータは電磁波、静電気、本機やカードの故障などによりデータが壊れたり消失することがあります。大切なデータはパソコンなどに保存することをおすすめします。
- パソコンやその他の機器でフォーマットした場合、もう一度本機でフォーマットしてください。(P39)

書き込み禁止スイッチ

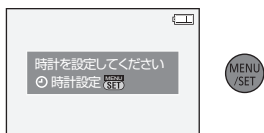
準備

時計を設定する

● お買い上げ時は、時計設定されていません。

1 電源を[ON]にする

● 「時計を設定してください」が表示されます。

2 [MENU/SET]を押す

3 ◀/▶で合わせたい項目(年・月・日・時・分・表示順・時刻表示形式)を選び、▲/▼で設定する

● 表示順を変えると、以下のように表示されます。
(例:2010年12月1日10時00分)
・[年/月/日]:2010/12/ 1 10:00
・[日/月/年]:10:00 1/DEC/2010
・[月/日/年]:10:00 DEC/ 1/2010
● 時刻表示形式は[24時間]または[AM/PM]から選択します。
● [AM/PM]表示に切り換えた場合は、AM/PMが表示されます。
● 時刻表示形式を[AM/PM]に設定すると、午前0:00はAM12:00、午後0:00はPM12:00で表示されます。
この表示は、アメリカなどで一般的に使用されている表示方法です。
● [⊡]を押すと、時計を設定せずに中止します。

4 [MENU/SET]を押して決定する

5 [MENU/SET]を押す

● [⊡]を押すと、設定画面に戻ります。
● 時計設定終了後、一度電源を[OFF]にしてからもう一度[ON]にして、設定どおり表示されているか確認してください。

時計設定を変更する

セットアップメニューの[時計設定]を選び、▶を押してください。(P32)
● 上記の手順**3**、**4**、**5**の操作で変更できます。
● **バッテリーなしでも約3ヵ月間、時計用内蔵電池を使って時計設定を記憶できます。(内蔵電池を充電するには、満充電されたバッテリーを本機に約24時間入れてください)**

お知らせ

● 撮影時に[DISPLAY]を数回押すと、時計が表示されます。
● 年は2000年から2099年まで設定できます。
● 時計設定を行っていないと、お店にプリントを依頼するときや文字焼き込み(P146)を行うときに、正しい日付をプリントすることができませんのでお気をつけください。
● 時計設定を行っていれば、カメラの画面上に日付が表示されていなくても、正しく日付をプリントできます。

メニューを使って設定する

お好みの撮影や再生ができるように設定したり、より楽しく、使いやすくするためのメニューを用意しています。
特に「セットアップメニュー」は、本機の時計や電源に関する大切な設定です。ご使用の前に、設定を確認してください。

[撮影]（撮影メニュー）(P124～130)	[セットアップ]（セットアップメニュー）(P35～39)
●横縦比、画素数などをお好みで設定できます。 	●時計の設定や電子音の切り換えなど、使いやすさの設定ができます。
[動画]（動画撮影メニュー）(P131)	[MY]（マイメニュー）
●撮影モードや画質設定など、動画撮影時の設定ができます。 	●最近使用したメニュー項目を最大5つまで記憶します。よく使うメニュー項目を簡単に呼び出すことができます。
[カスタム]（カスタムメニュー）(P132～138)	[再生]（再生メニュー）(P142～156)
●画面の表示方法やボタンの働きなど、本機の操作をお好みに応じて設定できます。また、変更した設定内容を登録しておくことができます。 	●画像の保護、切り抜き、プリントするときに便利な設定など、撮影した画像に対する設定ができます。

準備

お知らせ

●本機では仕様上、お使いのモードやメニュー設定により、設定できなくなったり、働かなくなる機能があります。

メニューを使って設定する（つづき）

メニュー項目の設定方法

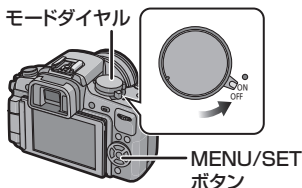
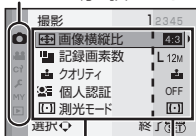
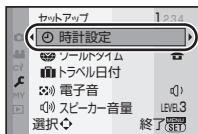
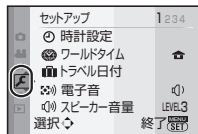
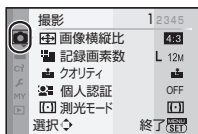
ここでは、撮影メニューの設定方法を説明していますが、動画撮影メニューやカスタムメニュー、セットアップメニュー、マイメニュー、再生メニューも同じ方法で設定できます。

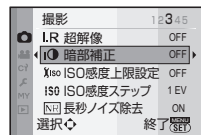
- カスタムメニューの[メニュー位置メモリー](P138)を[ON]に設定していると、前回終了したメニュー項目を選択状態の画面になります。お買い上げ時は[ON]に設定されています。
- メニュー項目はタッチ操作で設定できません。カーソルボタンまたは後ダイヤルを使って設定してください。

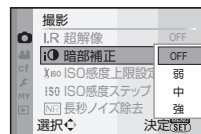
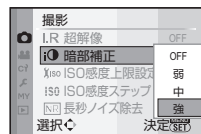
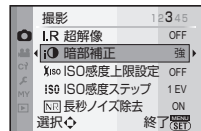
例）プログラムAEモードで、[暗部補正]を[OFF]から[強]に設定する

1 電源を [ON] にする

2 モードダイヤルを [P] に合わせる

3 [MENU/SET] を押して
メニューを表示させる

他のメニューとの切り換え
例）セットアップメニューとの切り換え
1 ◀を押す
2 ▼または後ダイヤルを回してセットアップメニューアイコン[ ]を選ぶ
3 ▶または後ダイヤルを押す ● 続けてメニュー項目を選んで設定してください。

4 ▲/▼または後ダイヤルを回して[暗部補正]を選ぶ

- 一番下の項目を選んで、さらに▼を押す、または後ダイヤルを右に回すと、次の画面に移ります。

5 ▶または後ダイヤルを押す

- 項目によっては、設定が表示されないものや、表示のされかたが異なるものがあります。

6 ▲/▼または後ダイヤルを回して[強]を選ぶ

7 [MENU/SET]または後ダイヤルを押して決定する

8 [MENU/SET]を押してメニューを終了する

- シャッターボタン半押しでも終了できます。

準備

クイックメニューを使って設定する

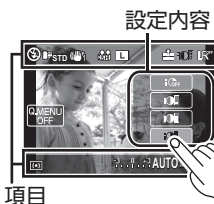
クイックメニューを使うと、一部のメニューを簡単に呼び出すことができます。

●モードや表示画面によっては、設定できない項目もあります。

■ タッチ操作時

タッチパネルを使って、クイックメニューの設定ができます。

1 撮影状態で、[Q.MENU]をタッチして、クイックメニューを表示する

2 項目をタッチして、設定内容を選び、タッチする

3 [Q.MENU OFF]をタッチして、クイックメニューを終了する

■ ボタン操作時

[Q.MENU]ボタンを押して、クイックメニューの設定ができます。

クイックメニューを終了するには、もう一度[Q.MENU]ボタンを押してください。

Q.MENU

●撮影時の表示画面によって設定方法は以下のように異なります。
表示画面については、60ページをお読みください。

[ ](液晶モニタースタイル)

◀/▶で項目を選んだあと、▲/▼で設定内容を選択できます。[MENU/SET]を押して決定してください。

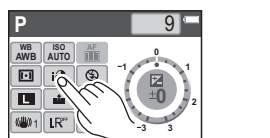
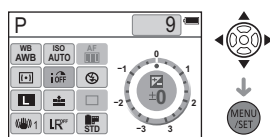
●後ダイヤルでも設定できます。

[ ](液晶モニタースタイル)のLCD撮影情報画面

▲/▼/◀/▶で項目を選び、[MENU/SET]を押したあと、▲/▼/◀/▶で設定内容を選択できます。[MENU/SET]を押して決定してください。

●後ダイヤルでも設定できます。

●クイックメニューを表示させずに、各項目を直接タッチしても設定内容を変更できます。

[ ](ファインダースタイル)

後ダイヤルを回して項目を選び、後ダイヤルを押してください。
後ダイヤルを回して設定内容を選び、後ダイヤルを押して決定してください。

●▲/▼/◀/▶と[MENU/SET]でも設定できます。

セットアップメニューを使う

[時計設定]、[エコモード]、[オートレビュー]は大切な項目です。ご使用の前に設定を確認してください。
- インテリジェントオートモード時は、[時計設定]、[ワールドタイム]、[電子音]、[液晶モード]のみ設定できます。

セットアップメニューの設定方法はP32へ

項目	設定（▶はお買い上げ時の設定です）・お知らせ
時計設定 日付や時刻を変更するときに設定します。	● 詳しくは、30ページをお読みください。
ワールドタイム お住まいの地域と海外などの旅行先の時刻を設定します。	[旅行先]： 旅行先の地域 ▶ [ホーム]： お住まいの地域 ● 詳しくは、123ページをお読みください。
トラベル日付 旅行の出発日と帰着日を設定します。	[トラベル日付設定]： ▶ [OFF] [設定] [旅行先]： ▶ [OFF] [設定] ● 詳しくは、121ページをお読みください。
電子音 フォーカス音、セルフタイマー作動音、警告音の音量を設定します。	[ ]： なし ▶ [ ]： 小 [ ]： 大
スピーカー音量 スピーカーの音量を7段階に調整します。	▶ [LEVEL3] ● テレビと接続したとき、テレビ側のスピーカーの音量は変わりません。
液晶調整 / LVF調整 液晶モニター/ファインダーの明るさや色合い、または赤みや青みなどの色みを調整します。	● ▲/▼で画面の明るさを、◀/▶または後ダイヤルでコントラストと彩度を調整します。 ● 右図の画面で[DISPLAY]を押すと、カラー調整画面に切り換わります。 ▲/▼で赤系～緑系に、◀/▶または後ダイヤルでオレンジ系～青系にそれぞれ調整します。 また、[MENU/SET]を押すと液晶調整画面に戻ります。 ● 液晶モニター表示時は液晶モニターを、ファインダー表示時はファインダーを調整します。 液晶調整 カラー調整 DISPLAY 戻る 選択 決定 MENU SET

準備

セットアップメニューを使う（つづき）

項目	設定（▶はお買い上げ時の設定です）・お知らせ
LCD液晶モード 屋外などの明るい場所で液晶モニターが見にくいときに見やすくします。	▶ [OFF] [(オートパワーLCD)]：周囲の明るさに応じて、自動的に明るさを調整します。 [(パワーLCD)]：液晶モニターが通常より明るくなり、屋外でも見やすくなります。 ● 液晶モニターの画面に表示される画像の明るさを強調しているため、被写体によっては実際と違って見える場合がありますが、記録される画像に影響はありません。 ● [パワーLCD]の液晶モニターの画面は、撮影時、30秒間何も操作しないと、自動的に通常の明るさに戻ります。いずれかのボタンを押すと、再び明るく点灯します。 ● 太陽光などが反射して画面が見にくい場合は、手などでさえぎってください。 ● [オートパワーLCD]または[パワーLCD]時は記録可能枚数が減少します。 ● 再生時は、[オートパワーLCD]は選択できません。 ● 動画撮影中は、[オートパワーLCD]は働きません。 ● 周囲が暗い場所などでメニュー画面を表示すると、[OFF]設定にかかわらず、液晶モニターの画面が暗くなります。
ECO エコモード 設定した時間の間に何も操作しないと、自動的に電源を切ります。 また、使用しない間、液晶モニターを自動的に消灯することで、バッテリーの消耗を防ぎます。	[スリープモード]：設定した時間の間に何も操作をしないと、自動的に電源を切ります。 [OFF] [1分] [2分] ▶ [5分] [10分] [自動液晶OFF]：設定した時間の間に何も操作をしないと、自動的に液晶モニターを消灯します。 ▶ [OFF] [15秒] [30秒] ● [スリープモード]を解除する場合は、シャッターボタンを半押しするか、電源を[OFF]にしてからもう一度[ON]にしてください。 ● インテリジェントオートモード時は、[スリープモード]は[5分]に固定されます。 ● [自動液晶OFF]を[15秒]または[30秒]に設定すると[スリープモード]は[2分]に固定されます。 ● 液晶モニターを再度点灯させるには、いずれかのボタンを押してください。 ● カスタムメニューの[LVF/LCD自動切換]（P136）を[OFF]にして使用することをおすすめします。 ● 以下の場合、[スリープモード]は働きません。 ・AC アダプター使用時　・パソコンまたはプリンター接続時 ・動画撮影/動画再生時　・スライドショー時

セットアップメニューの設定方法はP32へ

項目	設定(▶ はお買い上げ時の設定です)・お知らせ
オートレビュー 撮影後に撮影画像を表示する時間を設定します。	[OFF] [1秒] ▶ [3秒] [5秒] [ホールド]:シャッターボタン半押しまで表示 ● [ホールド]に設定した場合、単写(P49)、セルフタイマー撮影(P74)時は、オートレビュー中に再生画面の表示切り換え(P56)や、後ダイヤルを回しての拡大などができます。 ● [H]設定時の連写(P70)、オートブラケット撮影(P72)、音声付き写真(P130)時は、オートレビューの設定にかかわらず、オートレビューされます。(ホールドはされません)オートレビューの設定はできません。 ● [ハイライト表示](P133)を[ON]に設定していると、オートレビュー時に白とびの起こっている部分が黒と白の点滅で表示されます。 ● [M]または[L]設定時の連写や、動画撮影では働きません。 ● [個人認証](P116)の[自動登録]を[ON]に設定時は、[3秒]または[5秒]のみ設定できます。
USBUSBモード USB接続ケーブル(付属)を使って本機をパソコンやプリンターに接続する際に、USB通信方式を設定します。	▶ [接続時に選択]: パソコンまたはPictBridge対応プリンターに接続したときに、[PC]または[PictBridge(PTP)]のいずれかを選択します。 [PictBridge(PTP)]: PictBridge対応プリンターに接続する場合に設定します。 [PC]: パソコンに接続する場合に設定します。 ● [PC]に設定すると、USBのMass Storage(マス ストレージ)通信方式で接続されます。 ● [PictBridge(PTP)]に設定すると、USBのPTP(Picture Transfer Protocol)(ピクチャー トランスファー プロトコル)通信方式で接続されます。
TV画面タイプ テレビの種類に合わせて設定します。	▶ [16:9]: 画面が16:9のテレビと接続時 [4:3]: 画面が4:3のテレビと接続時 ● AVケーブル接続時に働きます。

準備

セットアップメニューを使う（つづき）

セットアップメニューの設定方法はP32へ

項目	設定（▶はお買い上げ時の設定です）・お知らせ
HDMI HDMI出力解像度 HDMIミニケーブル（別売）を使って本機をHDMI対応のハイビジョンテレビに接続して再生する際に、HDMI出力の映像方式を設定します。	▶ [AUTO]：接続したテレビからの情報を元に、自動的に出力解像度を決定します。 [1080i]：有効走査線数1080本のインターレース方式で出力します。 [720p]：有効走査線数720本のプログレッシブ方式で出力します。 [480p]：有効走査線数480本のプログレッシブ方式で出力します。 **インターレース方式/プログレッシブ方式について** 1/60秒ごとに有効走査線を半分に分けて交互に流すi=インターレース（飛び越し走査）に対し、1/60秒ごとに有効走査線を同時に流す高密度な映像信号をp=プログレッシブ（順次走査）といいます。 本機の[HDMI]端子はハイビジョン映像出力[1080i]に対応しています。プログレッシブ映像、ハイビジョン映像を楽しむにはそれぞれ対応テレビが必要です。 ● [AUTO]に設定していて映像がテレビに出ないときは、[1080i]、[720p]または[480p]に切り換えて、お使いのテレビが表示できる映像方式に合わせてください。（テレビの説明書もお読みください） ● HDMIミニケーブル（別売）接続時に働きます。 ● 詳しくは、158ページをお読みください。
VIERA Link ビエラリンク 本機とHDMIミニケーブル（別売）を使って接続したビエラリンク対応機器を自動的に連動させ、ビエラのリモコンで操作できるように設定します。	[OFF]：本機のボタンでの操作になります。 ▶ [ON]：ビエラリンク対応機器のリモコンで操作ができるようになります。（すべての操作はできません） 本機のボタンでの操作は制限されます。 ● HDMIミニケーブル（別売）接続時に働きます。 ● 詳しくは、159ページをお読みください。
SCN シーンメニュー モードダイヤルを[アイコン]/[アイコン]/[アイコン]/[アイコン]/[アイコン]/SCNに切り換えたときに表示される画面を設定します。	[OFF]：現在選択されているアドバンスシーンモード（P98）や、シーンモード（P102）の撮影画面を表示 ▶ [AUTO]：アドバンスシーンモードや、シーンモードの選択画面を表示

項目	設定(▶ はお買い上げ時の設定です)・お知らせ
タッチパネル調整 タッチしたものと違うものが選択されたり、タッチ操作が反応しなかった場合などに、タッチパネルの位置調整をします。	**1** **[MENU/SET]を押す** **2** **画面に表示されるオレンジ色の+マークを、タッチペン(付属)で順番にタッチする(5個所)** ●位置調整が完了するとメッセージが表示されます。 **3** **[MENU/SET]を押して終了する** 戻る ●正しい位置をタッチしなかった場合、タッチパネル調整は行われません。+マークをタッチし直してください。
Ver. バージョン表示 本体とレンズのファームウェアバージョンを確認できます。	●レンズを取り付けていないときは、レンズファームウェアは [–.–]と表示されます。
番号リセット 次に撮影される画像のファイル番号を0001にします。	●フォルダー番号が更新され、ファイル番号が0001から始まります。(P166) ●フォルダー番号は100～999まで作成されます。フォルダー番号が999になると番号リセットができなくなりますので、データをパソコンなどに保存してフォーマット(P39)することをおすすめします。 ●フォルダー番号を100にリセットするには、まずカードをフォーマットしてから、[番号リセット]を実行し、ファイル番号をリセットしてください。そのあと、フォルダー番号のリセット画面が表示されますので、[はい]を選びます。
設定リセット 設定をお買い上げ時の状態に戻します。	**撮影設定** **セットアップ/カスタム設定** ●撮影設定をリセットすると、[個人認証]で登録したデータもリセットされます。 ●セットアップ/カスタム設定をリセットすると、以下の設定内容もリセットされます。また、再生メニューの[お気に入り](P153)は[OFF]、[回転表示](P152)は[ON]になります。 ・シーンモードの[赤ちゃん1]/[赤ちゃん2](P103)、[ペット](P104)の誕生日設定、名前設定 ・[トラベル日付](P121)の設定内容(出発日、帰着日、旅行先) ・[ワールドタイム](P123)の設定内容 ●フォルダー番号、時計の設定は変わりません。
フォーマット カードをフォーマット(初期化)します。**フォーマットするとデータを元に戻すことができませんので、必要なデータを保存してからフォーマットしてください。**	●フォーマットするときは、十分に充電されたバッテリーまたはACアダプター(P178)を使用し、フォーマット中は電源を[OFF]にしないでください。 ●他の機器でフォーマットしたカードは、もう一度本機でフォーマットしてください。 ●フォーマットできないときは、別のカードを入れてお試しいただいてから、お買い上げの販売店へご連絡ください。

準備

構えかた、液晶モニター/ファインダーについて

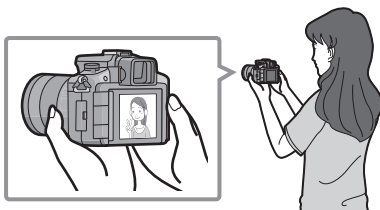
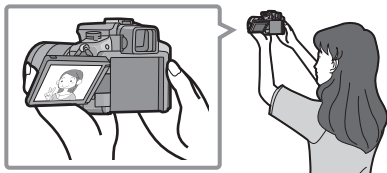
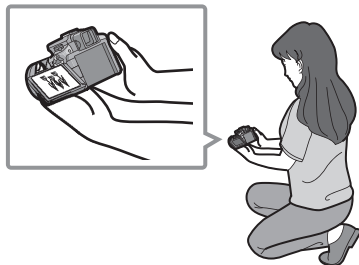
- お買い上げ時は[LVF/LCD自動切換](P136)が[ON]に設定されています。アイセンサーの近くに手や物があるとファインダー表示に切り換わり、液晶モニターは消灯します。

本機の構えかたについて

- **フラッシュ発光部やAF補助光ランプ、マイクを指などでふさがないでください。**
- 両手で本機を軽く持ち、脇を締め、肩幅くらいに足を開いて構えてください。
- シャッターボタンを押す瞬間に、カメラが動かないようにお気をつけください。
- レンズ部には触らないでください。(P194)
- 撮影時には、足場が安定していることを確認し、ボールや競技者などと衝突する恐れがある場所では周囲に十分お気をつけください。

液晶モニターについて

液晶モニターの角度を調節すると、さまざまなアングルからの撮影が可能になり便利です。(P16)

■ 通常撮影時

■ ハイアングル撮影時

液晶モニターを手前に180°開き、角度を調節する。

- 前に人がいて、被写体に近づけないときなどに便利です。

■ ローアングル撮影時

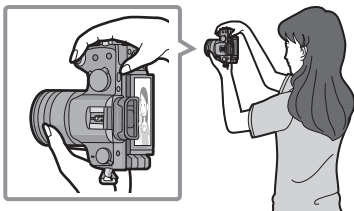
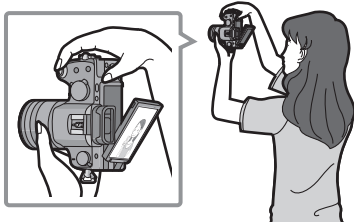
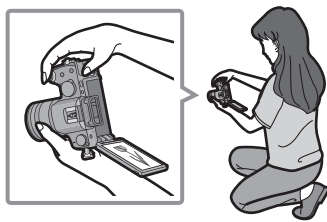
液晶モニターを手前に180°開き、角度を調節する。

- 低い位置にある花などを撮影するときなどに便利です。

■ 縦撮影時

液晶モニターを開き、見やすい角度に回転させる。

- AF補助光ランプ、マイクを指などでふさがないでください。

通常撮影時

ハイアングル撮影時

ローアングル撮影時

縦位置検出機能について

本機を縦に構えて撮影した画像を、再生時に自動で縦向きに表示することができる機能です。([回転表示](P152)を[ON]に設定している場合のみ)

- 本機を上に向けたり、下に向けたりして撮影すると、縦位置検出機能が正しく働かないことがあります。
- 動画再生時は、画像を縦向きに表示できません。
- 縦位置検出機能は、対応したレンズを使用しているときのみ使えます。
(対応レンズについては、カタログ/ホームページなどをご覧ください)

構えかた、液晶モニター/ファインダーについて（つづき）

液晶モニターとファインダーを切り換える

■ アイセンサー自動切り換えについて

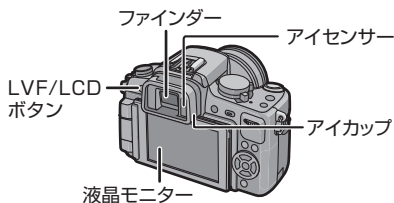
カスタムメニューの[LVF/LCD自動切換]（P136）を[ON]に設定しているときにはアイセンサーが働き、ファインダーに目や物を近づけるとファインダー表示に、離すと液晶モニター表示に自動的に切り換えます。

- 液晶モニターが点灯しているときは、ファインダーは消灯し、ファインダーが点灯しているときは、液晶モニターは消灯します。
- お使いの眼鏡の形状やカメラの構えかた、または接眼部付近に強い光が当たることなどにより、アイセンサーが正しく働かない場合があります。その場合は手動で切り換えてください。
- アイセンサー自動切り換えはアイセンサーに近づく物を認識すると働きますので、[エコモード]（P36）を使用する場合は[LVF/LCD自動切換]を[OFF]に設定することをおすすめします。

縦に構える場合

- 動画再生中、スライドショー中、テレビへ出力中は、アイセンサーは無効になります。

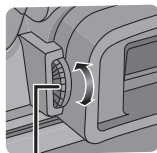
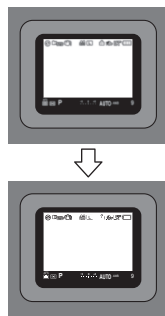
[LVF/LCD]を押して切り換える

- LCD（液晶モニター）表示と
  LVF（ライブビューファインダー）表示を手動で切り換えることができます。

■ 視度調整について

使う前に、視力に合わせてファインダー内の表示がよく見えるようにします。

ファインダー内の表示を見て、はっきり合うところまで視度調整ダイヤルを回して調整してください。

お知らせ

- アイカップは取り外しできません。汚れた場合などお手入れの際は、194ページをお読みください。

撮影モードを選び、写真または動画を撮影する

■ インテリジェントオートモードを選ぶには

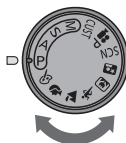
[iA]を押す

●インテリジェントオートモードに切り換わると、[iA]ボタンが点灯します。

iA インテリジェントオートモード P45
カメラにおまかせで撮影します。

■ モードダイヤルで撮影モードを選ぶには

モードダイヤルを切り換える

●**モードダイヤルはゆっくり回して確実に各モードに合わせてください。**
（モードダイヤルは360゜回転します）
●[iA]ボタンが点灯中は、モードダイヤルで選ばれている撮影モードは無効になります。

の部分に使用したいモードを合わせる

撮影モード一覧

P プログラムAEモード P49
お好みの設定で撮影します。

A 絞り優先AEモード P94
絞り値を決めて撮影します。

S シャッター優先AEモード P94
シャッタースピードを決めて撮影します。

M マニュアル露出モード P95
絞り値とシャッタースピードを決めて撮影します。

CUST カスタムモード P108
あらかじめ登録しておいた設定で撮影します。

P 動画Pモード P115
お好みの設定で動画を撮影します。

SCN シーンモード P102
撮影シーンに合わせて撮影します。

マイカラーモード P105
色の効果を確認し、8種類のカラーモードから選択して撮影します。

アドバンスシーンモード

人物モード P99
人物を撮影します。

風景モード P99
風景を撮影します。

スポーツモード P100
スポーツシーンを撮影します。

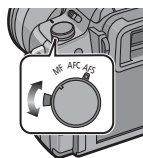
クローズアップモード P100
近くにある被写体を撮影します。

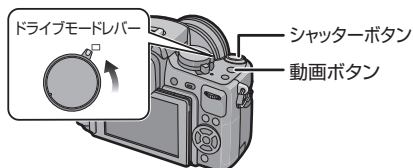
夜景&人物モード P101
夜景や夜景を背景にした人物を撮影します。

撮影モードを選び、写真または動画を撮影する (つづき)

■ [AFS]または[AFC]に設定する

フォーカスモードレバーを[AFS]または[AFC]に合わせる

● [AFS]および[AFC]については、50ページをお読みください。

写真を撮影する

● ドライブモードレバーを[□]に合わせているか確認してください。

1 シャッターボタンを半押し(軽く押す)してピントを合わせる

2 シャッターボタンを全押し(さらに押し込む)して撮影する

● タッチシャッター機能(P52)を使って、写真を撮影することもできます。

詳しくは、各撮影モードの説明をお読みください。

動画を撮影する

1 動画ボタンを押して撮影を開始する

2 再度動画ボタンを押して撮影を終了する

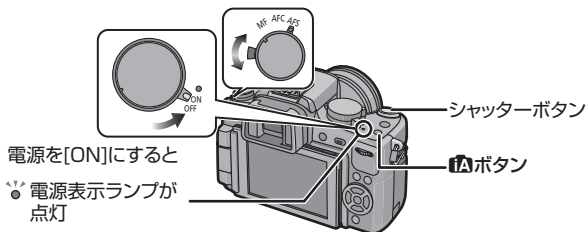
● 動画ボタンを押すと動画撮影開始/終了を知らせる音が鳴ります。
音量は[電子音](P35)で設定することができます。

各撮影モードに適した動画が撮影できます。
詳しくは、109ページ「動画を撮る」をお読みください。

カメラにおまかせで撮る（iA：インテリジェントオートモード）

撮影モード：iA

被写体や撮影状況に合わせてカメラが最適な設定を行うので、カメラまかせで気軽に撮りたいときや初心者におすすめです。

- 以下の機能が自動的に働きます。
  - ・自動シーン判別/デジタル赤目補正/顔認識/インテリジェントISO/暗部補正/長秒ノイズ除去/クイックAF/フォーカス優先/逆光補正/超解像

1 [iA]を押す

- インテリジェントオートモードに切り換わると、[iA]ボタンが点灯します。撮影中は、ガラスなどに光が反射するのを防止するために[iA]ボタンが消灯しますが、故障ではありません。
- もう一度押すと[iA]ボタンが消灯し、モードダイヤルで選ばれている撮影モードになります。
- モードダイヤルを[P]に合わせているときは、インテリジェントオートモードの設定が反映された動画になります。（P111）
- オートフォーカスモードダイヤルの設定に関係なく、オートフォーカスモードは[ ]になります。

2 フォーカスモードレバーを[AFS]または[AFC]に合わせる

- [AFS]および[AFC]については、50ページをお読みください。

3 シャッターボタンを半押し（軽く押す）してピントを合わせる

- ピントが合うと、フォーカス表示（緑）が点灯します。
- 顔認識機能により、顔に合わせてAFエリアが表示されます。その他の場合は、ピントの合ったところにAF エリアが表示されます。
- ピントが合っていないときは、フォーカス表示が点滅します。この場合は撮影されませんので、再度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ直してください。
- ピントが合う範囲は、使用するレンズによって異なります。
  - ・DMC-G2KおよびDMC-G2Wに同梱の交換レンズ14–42 mm/F3.5–5.6装着時：0.3 m～∞
  - ・DMC-G2Wに同梱の交換レンズ45–200 mm/F4.0–5.6装着時：1.0 m～∞

4 シャッターボタンを全押し（さらに押し込む）して撮影する

- **インテリジェントオートモードでは、[フォーカス優先]（P134）が[ON]に固定されます。そのため、ピントが合うまで、撮影できません。**
- カードに画像を記録しているときは、アクセス表示（P29）が赤く点灯します。
- タッチシャッター機能（P52）を使って、写真を撮影することもできます。

基本

カメラにおまかせで撮る（[iA]：インテリジェントオートモード）（つづき）

撮影モード：[iA]

■ フラッシュを使って撮影するときは(P63)

- **フラッシュを使うときは、フラッシュを開いてください。**
- 被写体の種類や明るさに応じて、[iA]、[iA赤目]、[iS赤目]、[iS]になります。
- [iA赤目]または[iS赤目]の場合は、デジタル赤目補正が働きます。
- [iS赤目]または[iS]のときは、シャッタースピードが遅くなります。
- インテリジェントオートモードでは、メニューを使ってフラッシュのモードを切り換えることはできません。

■ ズームを使って撮影するときは(P54)
■ 画像が暗く写るときなどに、露出を補正して撮影するには(P69)
■ マニュアルフォーカスを使って撮影するときは(P80)
■ 動画を撮影するときは(P109)
■ 個人認証機能(よく撮る人の顔を名前や誕生日などの情報とともに登録する)を使って撮影するときは(P116)

自動シーン判別について

カメラが最適なシーンを判別すると、各シーンのアイコンが2秒間青色で表示後、通常の赤色に変わります。

[iA] →

i人物	i風景	iマクロ	
i夜景&人物 ・[iA]選択時のみ	i夜景	i夕焼け	i赤ちゃん※

- どのシーンにもあてはまらない場合は[iA]になり、標準的な設定を行います。
- [i人物]、[i夜景&人物]、[i赤ちゃん]のときは、カメラが人の顔を自動的に検知し、認識した顔にピントや露出を合わせます。**(顔認識)**(P76)
- [i夜景]と判別された場合に、三脚などを使用し、ブレの量が少ないとカメラが判断したとき、シャッタースピードは通常より遅くなります。撮影中はそのままカメラを動かさないようにお気をつけください。
- 追尾AF時(P47)は、指定した被写体に最適なシーンを判別します。
- 判別したシーンに応じて[超解像](P127)の設定をカメラが自動で調整します。メニューで[超解像]の設定はできません。
- [個人認証]を[ON]に設定時、登録した顔に近い顔を認識すると、[i人物]、[i夜景&人物]、[i赤ちゃん]の右上に[R]が表示されます。

※ [個人認証]を[ON]に設定時、顔登録の誕生日が設定済みで、年齢が3歳未満の人物を顔認識したときのみ表示されます。

お知らせ

- 以下のような条件によって、同じ被写体でも異なるシーンに判別される場合があります。
  - ・被写体条件
    顔の明暗／被写体の大きさ・色／被写体までの距離／被写体の濃淡／被写体が動いている場合
  - ・撮影条件
    夕暮れ／朝焼け／低照度／手ブレが発生した場合／ズーム倍率
- 意図したシーンで撮影したい場合は、目的に合った撮影モードで撮影することをおすすめします。
- **逆光補正について**
  - ・逆光とは、被写体の後ろ側から光が当たることです。このとき、被写体が暗く写りますので、画像全体を明るくすることにより逆光を補正します。インテリジェントオートモードでは自動で逆光補正が働きます。

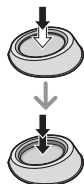
追尾AF機能

指定した被写体にピントや露出を合わせることができます。さらに、被写体が動いても、自動でピントと露出を合わせ続けます。

■ タッチパネル操作時

1　被写体を選び、タッチする

- 画面左下に[ ]が表示されます。
- 追尾AF枠が黄色で表示され、ロックした被写体に最適なシーンを判別します。
- [戻る]をタッチすると、追尾AFは解除されます。

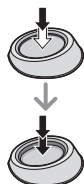
2　シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、全押しして撮影する

■ ボタン操作時

1　追尾AF枠が表示されるまで [Q.MENU] ボタンを押したままにする

- 画面左下に[ ]が表示されます。
- 画面中央に追尾AF枠が表示されます。
- [MENU/SET]を押すと、追尾AFは解除されます。
- [Fnボタン設定](P132)を[フォーカスエリア選択]に設定しているときは、▼を押しても追尾AF枠を表示できます。

2　被写体を追尾AF枠に合わせ、シャッターボタンを半押しして被写体にロックする

- 被写体を認識すると、AFエリアが緑色になります。
- シャッターボタンを離すと追尾AF枠が黄色に変わり、ロックした被写体に最適なシーンを判別します。
- [MENU/SET]を押すと、ロックは解除されます。

3　シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、全押しして撮影する

お知らせ

- 追尾AF時[個人認証]は働きません。
- 追尾AFは、タッチシャッター機能を解除した状態で行ってください。
- 77 ページの追尾AFのお知らせをお読みください。

インテリジェントオートモード時の設定内容

- 以下の機能のみ設定できます。

写真撮影メニュー

・[画像横縦比]（P124）/[記録画素数]（P124）/[クオリティ]（P125）/[個人認証]（P125）/[手ブレ補正]※1（P126）

※1 [MODE3]には設定できません。動画撮影時は[MODE2]に設定していても[MODE1]に固定されます。

動画撮影メニュー

・[撮影モード]（P112）/[画質設定]※2（P112）/[AF連続動作]（P131）/[風音低減]（P131）

※2 [MOTION JPEG]の[WVGA]は設定できません。

カスタムメニュー

・[ガイドライン表示]（P132）/[LCD撮影情報画面]（P136）/[残枚数/残時間切換]（P137）

セットアップメニュー

・[時計設定]/[ワールドタイム]/[電子音]/[液晶モード]

- [フィルムモード]（P91）は[スタンダード]、[スタンダード B&W（白黒）]のみ設定できます。
- [セルフタイマー]※3（P74）の[2]、[10]は、クイックメニュー（P34）を使って設定してください。

※3 インテリジェントオートモードを解除したり、電源の[ON]/[OFF]切り換えをした場合は、[10]にリセットされます。

- 以下の設定項目は固定されます。

項目	設定内容
エコモード（スリープモード）（P36）	5分
フラッシュ（P63）	iA/⊛
フラッシュシンクロ（P68）	先幕
連写速度（P70）	H（高速）
オートブラケット（P72）	補正幅：3・1/3 ブラケット順序：0/–/+
オートフォーカスモード（P75）	（顔が認識されないときは[▦]※4）
ホワイトバランス（P85）	AWB

項目	設定内容
ISO感度（P89）	iISO※5（インテリジェントISO）（最高ISO感度は[ISO800]）
測光モード（P126）	[(•)]
デジタル赤目補正（P127）	ON
暗部補正（P128）	中
長秒ノイズ除去（P128）	ON
色空間（P130）	sRGB
プリAF（P133）	Q-AF
フォーカス優先（P134）	ON
AF補助光（P134）	ON

※4 動画撮影時に顔が認識されないときは、動画用マルチオートフォーカスモードになります。
※5 動画撮影時は[AUTO]（動画用）に固定されます。

- 以下の機能は使えません。

・[エコモード]の[自動液晶OFF]/AF/AEロック/ホワイトバランス微調整/ホワイトバランスブラケット/マルチフィルムブラケット/[フラッシュ光量調整]/[ISO感度上限設定]/[EX光学ズーム]/[デジタルズーム]/[音声記録]/[ハイライト表示]/[AF/AEロック切換]/[AF/AEロック維持]/[ダイレクトフォーカス移動]/[レンズ無しレリーズ]

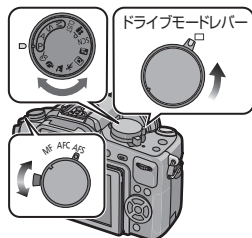
- セットアップメニュー、カスタムメニューのその他の項目は、プログラムAEモードなどで設定することができます。設定した内容はインテリジェントオートモードに反映されます。

お好みの設定で撮る（P：プログラムAEモード）

撮影モード：P

被写体の明るさに応じて、シャッタースピードと絞り値をカメラが自動的に設定します。
撮影メニューで多彩な設定をすることで、自由度の高い撮影ができます。
● ドライブモードレバーを[ ]に合わせる。

1 モードダイヤルを[P]に合わせる

● 撮影時の設定を変更したいときは、124ページの「撮影メニューを使う」、または132ページの「カスタムメニューを使う」をお読みください。

2 フォーカスモードレバーを[AFS]または[AFC]に合わせる

● [AFS]および[AFC]については、50ページをお読みください。

3 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせる

● ピントが合うと、フォーカス表示（緑）が点灯します。
● ピントが合っていないときは、フォーカス表示が点滅します。この場合は撮影されませんので、再度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ直してください。
● ピントが合う範囲は、使用するレンズによって異なります。
  ・DMC-G2KおよびDMC-G2Wに同梱の交換レンズ14–42 mm/F3.5–5.6装着時：0.3 m～∞
  ・DMC-G2Wに同梱の交換レンズ45–200 mm/F4.0–5.6装着時：1.0 m～∞
● シャッタースピードは、[ISO100]、開放絞り値F3.5（DMC-G2KおよびDMC-G2Wに同梱の交換レンズ14–42 mm/F3.5–5.6装着時）またはF4.0（DMC-G2Wに同梱の交換レンズ45–200 mm/F4.0–5.6装着時）の場合、約30秒～1/4000秒の間で自動的に設定されます。

4 半押しのままさらにシャッターボタンを全押しして撮影する

● ピントが合うまで、撮影できません。
● ピントが合っていない場合でもシャッターボタンの全押しで撮影されるようにしたいときは、カスタムメニューの［フォーカス優先］を[OFF]に設定してください。(P134)
● カードに画像を記録しているときは、アクセス表示(P29)が赤く点灯します。
● タッチシャッター機能(P52)を使って、写真を撮影することもできます。

■ 画像が暗く写るときなどに、露出を補正して撮影するには(P69)

■ 画像が赤っぽく写るときなどに、色を調整して撮影するには(P85)

■ 動画を撮影するときは(P109)

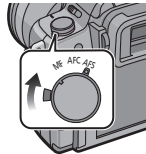
お好みの設定で撮る（P：プログラムAEモード）（つづき）

撮影モード：P

フォーカスモードを設定する（AFS/AFC/MF）

シャッターボタン半押しでピントを固定する（AFS）

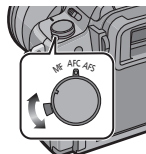
フォーカスモードレバーを[AFS]に合わせる

- AFSとは「Auto Focus Single」の略で、シャッターボタンを半押しすると、ピントが固定される機能です。
- 通常は[AFS]をお使いください。
- 連写時のピントは1枚目に固定されます。
  詳しくは、71ページをお読みください。

動きに合わせて連続的にピントを合わせる（AFC）

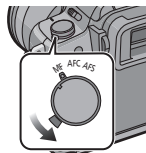
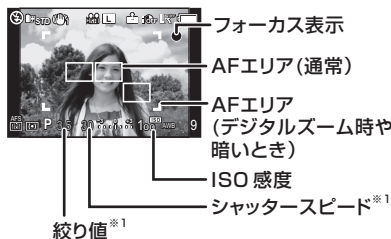
シャッターボタンを半押ししている間、被写体の動きに合わせて常にピント合わせを行うので、構図が決めやすくなります。
動いている被写体を撮影する場合は、予測してピント合わせを行います。（動体予測）

- [AFC]は使用するレンズによって、動作しない場合があります。詳しくは、20ページをお読みください。

フォーカスモードレバーを[AFC]に合わせる

- AFCとは「Auto Focus Continuous」の略で、シャッターボタンを半押ししている間、被写体に合わせて常にピント合わせを行う機能です。
- ズームリングをW端からT端に回したり、急に被写体を遠くから近くに変えたあとは、ピントが合うまで時間がかかることがあります。
- 連写時はシャッターボタンを押したあともピントを合わせ続けます。詳しくは、71ページをお読みください。
- シャッターボタン半押し前に自動でピントを合わせたいときは、カスタムメニューの[プリAF]（P133）を設定してください。
- [AFC]ではピントが合ってもフォーカス音は鳴りません。またオートフォーカスモードを[▦]に設定している場合は、AFエリアは表示されません。
- 明るさが足りないときは[AFS]になり、その際は被写体にピントが合うとAFエリアが表示され、フォーカス音が鳴ります。
- 撮影中、ピントが合いにくいときは、再度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ直してください。

マニュアルフォーカスで撮る（MF）

フォーカスモードレバーを[MF]に合わせる

- 詳しくは、80ページをお読みください。

ピントの合わせかた

被写体を画面に合わせて、シャッターボタンを半押しする

ピント	合っている	合っていない
フォーカス表示	点灯	点滅
AFエリア	緑	―
音※2	ピピッ	―

※1 適正露出にならないときは、赤くなり点滅します。(ただし、フラッシュ発光時は除く)

※2 音量は[電子音](P35)で設定することができます。

- オートフォーカスモードを[▦]に設定していて、AFエリアが複数(最大23個)点灯した場合は、点灯したすべてのAFエリアにピントが合っています。ピントを合わせる位置を決めて撮影したいときは、オートフォーカスモードを[▪]に切り換えてください。(P75)
- フォーカスモードが[AFC]の場合はフォーカス音は鳴りません。またオートフォーカスモードを[▦]に設定している場合は、AFエリアは表示されません。

ピントが合わないとき

■ 被写体によってオートフォーカスモードを変えて撮影する(P75)

■ ピントが合いにくい被写体や撮影環境

動きの速い被写体、非常に明るい、または濃淡のないもの/
ガラス越しや光るものの近くにある被写体を撮影するとき/暗いときや手ブレしているとき/
被写体に近すぎるときや、遠くと近くを同時に撮るとき

手ブレを防ぐために

手ブレ警告表示[((📷))]が表示されたときは、手ブレ補正(P126)、三脚、セルフタイマー(P74)、シャッターリモコン(別売:DMW-RSL1)(P176)などをお使いください。

- 特に以下の場合にはシャッタースピードが遅くなって撮影されますので、シャッターを切ったあと、画像が出るまで本機を固定してください。三脚の使用をおすすめします。
  - ・スローシンクロ
  - ・赤目軽減スローシンクロ
  - ・アドバンスシーンモード(P98)の[夜景&人物]/[夜景]
  - ・シーンモード(P102)の[パーティー]
  - ・シャッタースピードを遅くしたとき

基本

お好みの設定で撮る（P：プログラムAEモード）（つづき）

撮影モード：P

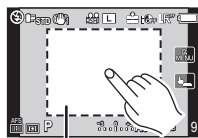
タッチシャッター機能を使って写真を撮影する

ピントを合わせたい被写体にタッチするだけで、ピントを合わせて自動的にシャッターを切ります。

1 撮影状態で、[ ]をタッチする

- アイコンが[ ]に変わり、タッチシャッター撮影が可能な状態になります。

2 ピントを合わせたい被写体をタッチする

- タッチした場所にオートフォーカスモードの[■]と同じ働きのAFエリアが表示され、ピントが合うと撮影されます。（画面の端には設定できません）
- タッチしたい被写体の上にヒストグラムが表示されている場合は、ヒストグラムを移動させてからタッチしてください。（P62）

タッチシャッターでピントが合う範囲

3 [ ]をタッチして、タッチシャッター機能を解除する

お知らせ

- [フォーカス優先]が[ON]の場合、フォーカスモードを[AFS]に設定してタッチシャッターに失敗したときは、AFエリアが赤く点灯したあと消え、シャッターは切れません。
  [AFC]に設定時は、フォーカス表示が緑点滅しているとシャッターは切れませんが、画面にタッチし続けた状態で被写体にピントが合うと、シャッターが切れます。
- マニュアルフォーカス時は自動でピントを合わせないので、オートフォーカス動作を行わずにシャッターを切ります。
- 連写、オートブラケット、セルフタイマー時でも、タッチすることでシャッターボタンを押す操作と同じ働きを行います。
- [測光モード]が[ ]のときは、タッチした場所で測光を行います。（P126）
- 以下の場合、タッチシャッター機能は働きません。
  - ・動画Pモード時
  - ・LCD撮影情報画面時（P60）

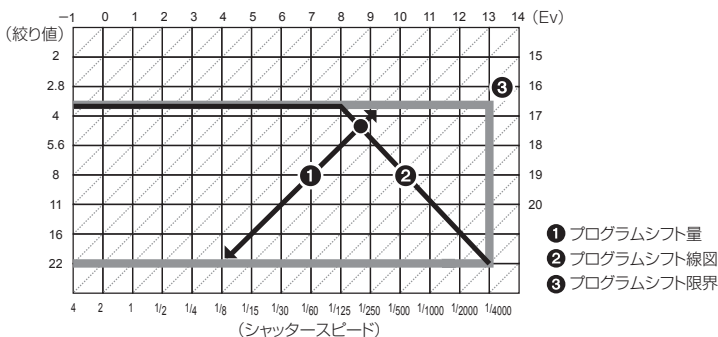
プログラムシフトについて

プログラムAEで本機が自動的に設定したシャッタースピードと絞り値の組み合わせを、同じ露出のままで変えることができます。これをプログラムシフトといいます。
プログラムAEでの撮影時に、より背景をぼかしたい(絞り値を小さくする)、動きを表現したい(シャッタースピードを遅くする)などの設定が可能です。

1 シャッターボタンを半押しして、画面に絞り値とシャッタースピードの数値を表示させる

2 数値が表示されている間に(約10秒間)、後ダイヤルを回してプログラムシフトする

- 数値の表示中は、後ダイヤルを押すごとに、プログラムシフト操作と露出補正操作(P69)が切り換わります。
- 後ダイヤルを回すと、[露出メーター]が表示されます。(P135)
- プログラムシフトされている場合は、画面にプログラムシフト表示が出ます。
- プログラムシフトを解除するには、電源を[OFF]にするか、プログラムシフト表示が消えるまで、後ダイヤルを回してください。

<プログラムシフトの例>
DMC-G2KおよびDMC-G2Wに同梱の交換レンズ14−42 mm/F3.5−5.6装着時

お知らせ

- カスタムメニューの[露出設定切換](P136)で、露出補正の切り換えかたを変更できます。
- シャッターボタンを半押ししたときに、適正露出でない場合は、絞り値とシャッタースピードが赤色で表示され、点滅します。
- プログラムシフトが有効になってから10秒以上経過すると、プログラムシフト設定可能な状態は解除され、通常のプログラムAEに戻りますが、プログラムシフトされた設定は維持されています。
- 被写体の明るさによっては、プログラムシフトできない場合があります。
- ISO感度を[ISO]に設定すると、プログラムシフトできません。

ズームを使って撮る

撮影モード：iA P A S M CUST ♚P SCN

光学ズーム/EX光学ズーム(EZ)/デジタルズームで撮る

風景などを広く(広角)撮ったり人や物を大きく(望遠)撮ることができます。

大きく撮るには(望遠)

ズームリングをT側へ回す(P15)

広く撮るには(広角)

ズームリングをW側へ回す(P15)

さらに大きく撮るには撮影メニューまたは動画撮影メニューで[EX光学ズーム]を[ON]に、また、[デジタルズーム]を[2×]または[4×]に設定すると、より拡大が可能になります。写真撮影でのEX光学ズーム(最大2倍)使用時は、各画像横縦比(4:3/3:2/16:9/1:1)で[L]以外の記録画素数に設定してください。

■ ズームの種類

種類	光学ズーム	EX光学ズーム(EZ)	デジタルズーム
撮影倍率	DMC-G2KおよびDMC-G2Wに同梱の交換レンズ14–42 mm/F3.5–5.6装着時		
	3倍	2倍※1(写真時:6倍) 3.1倍※2(動画時:9.4倍)	2倍([2×]選択時) [EX光学ズームを含む倍率] 写真時:12倍※1 動画時:18.7倍※2 4倍([4×]選択時) [EX光学ズームを含む倍率] 写真時:24倍※1 動画時:37.5倍※2
	DMC-G2Wに同梱の交換レンズ45–200 mm/F4.0–5.6装着時		
	4.4倍	2倍※1(写真時:8.9倍) 3.1倍※2(動画時:13.9倍)	2倍([2×]選択時) [EX光学ズームを含む倍率] 写真時:17.8倍※1 動画時:27.8倍※2 4倍([4×]選択時) [EX光学ズームを含む倍率] 写真時:35.6倍※1 動画時:55.5倍※2
画質	劣化しない	劣化しない	拡大するほど劣化する
条件	なし	撮影メニューまたは動画撮影メニューの[EX光学ズーム](P129)を[ON]に設定し、写真撮影時はEZ付きの記録画素数(P124)を選ぶ	撮影メニューまたは動画撮影メニューの[デジタルズーム](P129)を[2×]または[4×]に設定する

※1 記録画素数[S](3 M)、画像横縦比[4:3]選択時。記録画素数や画像横縦比により変わります。

※2 撮影モード[AVCHD Lite]選択時、または撮影モード[MOTION JPEG]で画質設定[HD]、[WVGA]選択時。画質設定[VGA]、[QVGA]選択時は、EX光学ズーム倍率は4.2倍に変わります。

■ EX光学ズームの仕組み

例えば[SEZ](310万画素相当)に設定すると、撮像素子の持つ1200万画素相当の領域のうち、310万画素相当分の中央部を切り取って撮影するので、より望遠効果の高い写真が撮影できます。

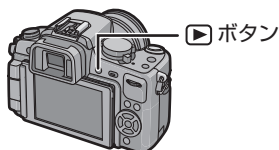
お知らせ

- EZとは「Ex. optical Zoom」の略で、EX光学ズームを表します。
- EX光学ズーム使用時は、写真と動画のズーム倍率が異なるため、写真撮影画面と動画撮影画面の画角が変わります。[記録枠表示](P137)の設定を撮影したいモードに合わせておくと、あらかじめ撮影時の画角を確認できます。
- ピントを合わせたあと、ズーム操作をした場合は、もう一度ピントを合わせ直してください。
- デジタルズーム使用時は、手ブレ補正が効きにくくなることがあります。
- デジタルズーム使用時は三脚を使用し、セルフタイマー(P74)を使って撮影することをおすすめします。
- デジタルズーム使用時は、オートフォーカスモードが[■]に固定されます。
- 以下の場合、EX光学ズームは使えません。
  - ・インテリジェントオートモード
  - ・[クオリティ]の[RAW]、[RAW]、[RAW]設定時
- 以下の場合、デジタルズームは使えません。
  - ・インテリジェントオートモード/アドバンスシーンモード/シーンモード
  - ・[クオリティ]の[RAW]、[RAW]、[RAW]設定時

基本

画像を見る

1 [▶] を押す

[▶] ボタン

2 画面を水平にドラッグ(P17)して画像を送る

次の画像へ送る:右から左にドラッグ
前の画像に戻す:左から右にドラッグ

- カーソルボタンを◀/▶に押しても画像を送ることができます。
- 画像送りの早さは、再生の状況によって変わります。
- 画像を送ったあとに画面の左右の端をタッチしたままにすると、画像を連続して送ることができます。(画像は縮小して表示されます)

■ 再生を終了するには

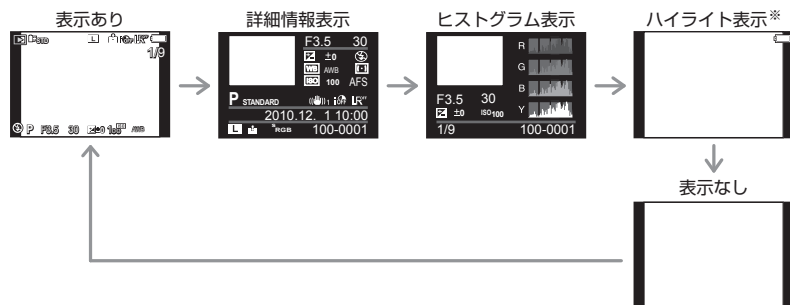
再度 [▶] を押すか、動画ボタンを押す、またはシャッターボタンを半押しする

お知らせ

- 本機は(社)電子情報技術産業協会(JEITA)にて制定された統一規格DCF(Design rule for Camera File system)および、Exif(Exchangeable Image File Format)に準拠しています。DCF規格に準拠していないファイルは再生できません。

再生画面の表示情報を切り換える

[DISPLAY] を押して切り換える

- メニュー画面表示時は[DISPLAY]は働きません。
  再生ズーム時(P58)、動画再生中(P140)、スライドショー中(P142)は、表示ありと表示なしの切り換えになります。
- ヒストグラムについては、62ページをお読みください。

※カスタムメニューの[ハイライト表示](P133)を[ON]にしているときのみ表示されます。

複数の画像を一覧表示する(マルチ再生)

後ダイヤルを左側に回す

1画面⇨12画面⇨30画面⇨
カレンダー画面表示

選択画像番号/
トータル枚数

スライドバー

- 後ダイヤルを右側に回すと、1つ前に戻ります。
- スライドバーを上下にドラッグ(P17)すると画面を切り換えることができます。
- 画面を上下にドラッグ(P17)すると少しずつ画像を切り換えることができます。
- 回転表示はされません。
- [[!]]と表示される画像は再生できません。

■ 1画面表示に戻すには

画像を選び、タッチしてください。

- カーソルボタンを▲/▼/◀/▶に押して画像を選び、[MENU/SET]または後ダイヤルを押しても1画面表示に戻すことができます。

基本

画像を撮影日ごとに表示する(カレンダー再生)

撮影した日付ごとに画像を表示させることができます。

1 後ダイヤルを左側に回して、カレンダー画面表示にする

2 ▲/▼/◀/▶で再生する日付を選ぶ

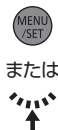
- 撮影した画像が1枚もない月は表示されません。

3 [MENU/SET]または後ダイヤルを押して、選択した日付に撮影された画像を表示する

- カレンダー画面表示に戻すには、後ダイヤルを左側に回してください。

または

4 ▲/▼/◀/▶で画像を選び、[MENU/SET]または後ダイヤルを押す

- 選択されていた画像が表示されます。

お知らせ

- はじめに選ばれる日付は、再生画面で選んでいた画像の撮影日になります。
- 同じ日付で複数の撮影画像がある場合は、その日の最初に撮影された画像が表示されます。
- カレンダーの表示できる範囲は、2000年1月から2099年12月までです。
- [時計設定]を行わずに撮影した場合、2010年1月1日に表示されます。
- [ワールドタイム]で旅行先を設定して撮影された画像は、旅行先の日時でカレンダー表示されます。

再生画面を拡大する（再生ズーム）

1 拡大したい部分をタッチする

1倍⇨2倍⇨4倍⇨8倍⇨16倍

- タッチした部分が拡大されます。
- 後ダイヤルを右側に回しても画像を拡大することができます。
- 倍率を変えると、約1秒間ズーム位置が表示されます。
- 拡大するほど、画質は粗くなります。

2 画面をドラッグ(P17)して、拡大部分の位置を移動する

- 表示する位置を移動させると、約1秒間ズーム位置が表示されます。
- カーソルボタンを▲/▼/◀/▶に押しても拡大部分の位置を移動させることができます。
- [×1.0]をタッチすると、元の大きさ（1倍）に戻ります。
- [Q]をタッチ、または後ダイヤルを左側に回しても倍率は小さくなります。

■ 再生ズームのまま表示画像を切り換えるには

再生ズームのズーム倍率、ズーム位置を保持したまま表示画像を切り換えることができます。

再生ズーム中に後ダイヤルを押して画像送り操作に切り換え、◀/▶で画像を送る

- 再生ズーム中は、後ダイヤルを押すごとに、画像送り操作とズーム位置移動操作が切り換わります。

お知らせ

- 再生ズーム中も、[DISPLAY]を押して、画面に表示する情報の表示ありと表示なしを切り換えることができます。
- 撮影した画像を拡大して保存したい場合は、トリミング（切抜き）を行ってください。(P150)
- 他機で撮影した画像は再生ズームできない場合があります。
- ズーム倍率とズーム位置は、電源が切れると（スリープモードを含む）解除されます。
- 以下の画像は、ズーム位置が中央に戻ります。
  - ・[画像横縦比]が異なる画像
  - ・[記録画素数]が異なる画像
  - ・回転方向が異なる画像（[回転表示]を[ON]にしている場合）
- 動画再生時または音声付き写真再生時は再生ズームは使えません。

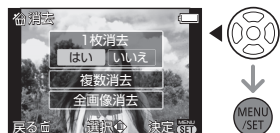
画像を消去する

画像は一度消去すると元に戻すことができません。

[▶] を押す

1枚消去

1 消去する画像を選び、[🗑] を押す

2 ◀で [はい] を選び、[MENU/SET] を押す

複数(50枚まで) /全画像消去

1 [🗑] を押す

2 ▲/▼で [複数消去] または [全画像消去] を選び、[MENU/SET] を押す

- [全画像消去]→手順**5**へ

3 ▲/▼/◀/▶ で画像を選び、[DISPLAY] で設定する(繰り返す)

- 設定した画像に[🗑]が表示されます。もう一度[DISPLAY]を押すと設定が解除されます。

複数消去
中止
選択
実行
設定/解除
DISPLAY

4 [MENU/SET] を押す

5 ▲で [はい] を選び、[MENU/SET] を押す

■ [お気に入り](P153)設定時に[全画像消去]を選んだときは

再度、選択画面が表示されます。[全画像消去]または[★以外全消去]を選び、▲で[はい]を選んで画像を消去してください。([お気に入り]設定した画像がない場合は、[★以外全消去]を選択できません)

お知らせ

- 消去中([🗑]表示中)は電源を[OFF]にしないでください。また、十分に充電されたバッテリーまたはACアダプター(P178)を使用してください。
- [複数消去]、[全画像消去]または[★以外全消去]中に[MENU/SET]を押すと、途中で消去が中止されます。
- 消去枚数により、時間がかかることがあります。
- DCF規格外または[プロテクト]設定(P155)された画像の場合は、[全画像消去]または[★以外全消去]をしても消去されません。

液晶モニター/ファインダーの表示を切り換える

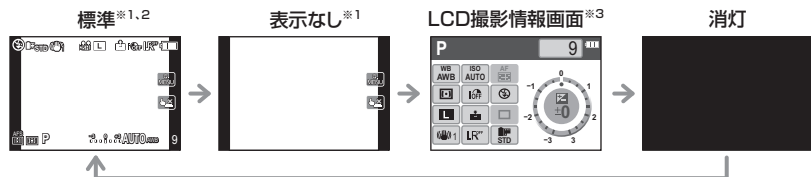
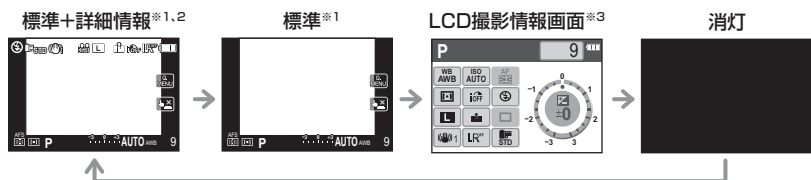
撮影画面の表示情報を切り換える

[DISPLAY]を押して切り換える

● メニュー画面表示時は[DISPLAY]は働きません。

液晶モニター表示

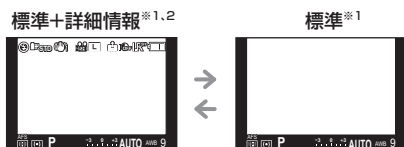
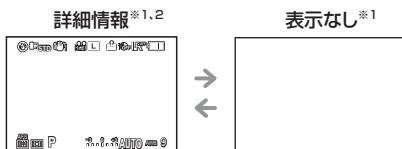
カスタムメニューの[LCD表示スタイル](P136)で、液晶モニターの表示画面を[▭](液晶モニタースタイル)または[▭](ファインダースタイル)から選ぶことができます。

[▭]設定時

[▭]設定時

ファインダー表示

カスタムメニューの[LVF表示スタイル](P136)で、ファインダーの表示画面を[▭](ファインダースタイル)または[▭](液晶モニタースタイル)から選ぶことができます。

[▭]設定時

[ ]設定時

詳細情報※1、2　　表示なし※1

※1カスタムメニューの[ガイドライン表示]を[OFF]以外に設定すると、ガイドラインが表示されます。[ ]に設定している場合は、タッチパネルを使ってガイドラインの位置を移動することができます。(下記)
※2カスタムメニューの[ヒストグラム]を[ON]に設定すると、ヒストグラムが表示されます。タッチパネルを使ってヒストグラムの位置を移動することができます。(P62)
また、カスタムメニューの[露出メーター]を[ON]に設定すると、露出メーターを表示させることができます。(P135)
※3カスタムメニューの[LCD撮影情報画面]を[OFF]以外に設定すると表示されます。画面の色を青系色、赤系色、黒系色の3種類から選ぶことができます。(P136)

お知らせ

- 夜景&人物モード(P101)では、ガイドラインはグレーで表示されます。

■ ガイドライン表示について

被写体を交点上やライン上に配置すると、被写体の大きさや傾き、バランスを見ながら、意図的な構図で撮影することができます。

[ ]: 画面全体を3等分にして、バランスのよい構図の撮影を行いたい場合に使います。
[ ]: 画面の中心に被写体を配置したい場合に使います。
[ ]: ガイドラインの位置を設定できます。画面の中心から外れた被写体をバランスよく撮影したい場合に使います。

[ ]選択時

[ ]選択時

[ ]選択時

▲/▼/◀/▶ はカーソルボタンの上下左右を表しています。

■ [ ] でガイドラインの位置を設定する

- カスタムメニューの[ガイドライン表示]を[ ]に設定してください。(P132)

ガイドライン上の[ ]をタッチして、移動させたい位置にドラッグ(P17)してください。

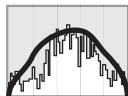
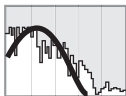
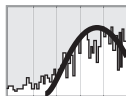
- ボタン操作時のクイックメニュー(P34)、カスタムメニューでは、▲/▼/◀/▶ でもガイドラインの位置を設定できます。
- 画面の端など、タッチ操作でガイドラインを移動しにくいときは、▲/▼/◀/▶ を使って位置を設定してください。

応用・撮影

▲/▼/◀/▶ はカーソルボタンの上下左右を表しています。

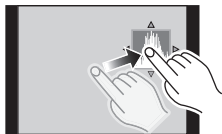
■ ヒストグラムについて

ヒストグラムとは、横軸に明るさ、縦軸にその明るさの画素数を積み上げたグラフです。撮影した画像のヒストグラムの形状（グラフの分布）を見ることによって、その画像の露出状況を判断することができます。

ヒストグラムの表示例

❶ 適正な明るさの画像　❷ 暗い画像　❸ 明るい画像

■ ヒストグラムの位置を設定する

● カスタムメニューの[ヒストグラム]を[ON]に設定してください。（P132）

ヒストグラムをタッチして、移動させたい位置にドラッグ（P17）してください。

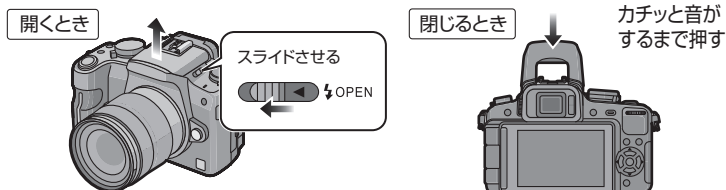
● ボタン操作時のクイックメニュー（P34）、カスタムメニューでは、▲/▼/◀/▶ でもヒストグラムの位置を設定できます。

お知らせ

● **撮影画像とヒストグラムが以下の条件で一致しない場合は、ヒストグラムがオレンジ色で表示されます。**
　・露出補正時またはマニュアル露出モード時、マニュアル露出アシストが0 EV以外のとき
　・フラッシュが発光するとき
　・フラッシュを閉じているときに、適正露出にならないときや、暗いところで液晶モニター/ファインダーの明るさが正確に表示できないとき
● 撮影時のヒストグラムは目安です。
● パソコンの画像編集ソフトなどで表示されるヒストグラムとは一致しません。
● 再生時はヒストグラムを R（レッド）、G（グリーン）、B（ブルー）、Y（輝度）に分けて表示します。

内蔵フラッシュを使って撮る

撮影モード：[iA][P][A][S][M][CUST][SCN][ポートレート][スポーツ][接写][夜景]

▲/▼/◀/▶はカーソルボタンの上下左右を表しています。

■ フラッシュを開く/閉じる

- 使わないときは、フラッシュは必ず閉じておいてください。
- フラッシュを閉じているときは、[発光禁止]に固定されます。

お知らせ

- **フラッシュを閉じるときに、指などを挟まないようにお気をつけください。**

フラッシュ設定を切り換える

使えるモード：[P][A][S][M][CUST][SCN][ポートレート][スポーツ][接写]

撮影内容に合わせて、内蔵フラッシュの発光のしかたを設定します。

- フラッシュを開く。

1 撮影メニューから[フラッシュ]を選ぶ（P32）

2 ▲/▼でモードを選び、[MENU/SET]を押す

- 選択できるフラッシュ設定については、65ページの「撮影モード別フラッシュ設定」をお読みください。

3 [MENU/SET]を押してメニューを終了する

- シャッターボタン半押しでも終了できます。

内蔵フラッシュを使って撮る (つづき)

撮影モード: iA P A S M CUST SCN

項目	設定内容
⚡A: オート	撮影状況に応じて、自動的にフラッシュが発光します。
⚡A◎: 赤目軽減オート※	撮影状況に応じて、自動的にフラッシュが発光します。人の瞳が赤く写る(赤目現象)のをおさえるため、フラッシュが予備発光し、そのあと撮影のために再び発光します。 ● **暗い場所で人物を撮影するときなどに適しています。**
⚡: 強制発光	フラッシュを強制的に発光させます。 ● **逆光時や蛍光灯などの照明の下に被写体があるときなどに適しています。**
⚡◎: 赤目軽減強制発光※	フラッシュを強制的に発光させます。同時に赤目現象をおさえます。 ● **逆光時や蛍光灯などの照明の下に被写体があるときなどに適しています。**
⚡S: スローシンクロ	フラッシュ発光とともにシャッタースピードを遅くして背景の夜景なども明るく写します。 ● **夜景を背景に人物を撮影するときなどに適しています。** ● **シャッタースピードを遅くすると画像がブレることがあります。三脚の使用をおすすめします。**
⚡S◎: 赤目軽減スローシンクロ※	フラッシュ発光とともにシャッタースピードを遅くして背景の夜景なども明るく写します。同時に赤目現象をおさえます。 ● **夜景を背景に人物を撮影するときなどに適しています。** ● **シャッタースピードを遅くすると画像がブレることがあります。三脚の使用をおすすめします。**
⊛: 発光禁止	どのような撮影状況でもフラッシュが発光しません。 ● **フラッシュ禁止の場所で撮影するときなどに適しています。**

フラッシュは2回発光します。特に[⚡A◎]、[⚡◎]、[⚡S◎]に設定した場合は、発光間隔が長くなりますので、2回目の発光終了まで動かないようにしてください。

※ 撮影メニューの[デジタル赤目補正](P127)を[ON]に設定すると、アイコンに[ ]が表示されます。

■ デジタル赤目補正について

[デジタル赤目補正](P127) を[ON]に設定し、赤目軽減([⚡A◎]、[⚡◎]、[⚡S◎])選択時にフラッシュが発光すると、デジタル赤目補正が働き、赤目を自動的に検出して画像データを修正します。(オートフォーカスモードが[ ]で顔認識しているときのみ)

- 赤目の状態によっては補正できない場合があります。
- 以下の場合は、デジタル赤目補正が働きません。
  - ・フラッシュが[⚡A]、[⚡]、[⊛] のとき
  - ・[デジタル赤目補正]が[OFF]のとき
  - ・オートフォーカスモードが[ ]以外のとき

■ 撮影モード別フラッシュ設定

設定できるフラッシュ設定は、撮影モードによって異なります。
（○：設定可、×：設定不可、◎:アドバンスシーンモード、シーンモード初期設定）

	⚡A	⚡A◉	⚡	⚡◉	⚡S	⚡S◉	Ⓢ
iA	○※	×	×	×	×	×	○
P	○	○	○	○	○	○	○
A	○	○	○	○	○	○	○
S	○	○	○	○	×	×	○
M	×	×	○	○	×	×	○
P	×	×	×	×	×	×	○
	×	×	×	×	×	×	○
	○	◎	○	×	×	×	○
	○	◎	○	×	×	×	○
	◎	○	○	×	×	×	○
	○	◎	○	×	×	×	○
	○	◎	○	×	×	○	○
	×	×	×	×	×	×	◎
	×	×	×	×	×	×	◎
	×	×	×	×	×	×	◎
	×	×	×	×	×	×	◎
	◎	×	○	×	×	×	○

	⚡A	⚡A◉	⚡	⚡◉	⚡S	⚡S◉	Ⓢ
	◎	×	○	×	×	×	○
	◎	×	○	×	×	×	○
	◎	×	○	×	×	×	○
	◎	×	○	×	×	×	○
	◎	×	○	×	×	×	○
	◎	×	○	×	×	×	○
	◎	×	○	×	×	×	○
	×	×	×	×	×	◎	○
	×	×	×	×	×	×	◎
	×	×	×	×	×	×	◎
	×	×	×	×	×	×	◎
	×	×	×	×	×	×	◎
	×	×	×	○	×	◎	○
1	○	◎	○	×	×	×	○
2	○	◎	○	×	×	×	○
	◎	×	○	×	×	×	○
	◎	○	○	×	×	×	○

※[i⚡A]と表示されます。被写体の種類や明るさに応じて、[i⚡A]、[i⚡A◉]、[i⚡S◉]、[i⚡S]になります。

- 撮影モードを変更すると、フラッシュの設定が変わることがあります。変更が必要な場合には、再度フラッシュ設定をしてください。
- 設定したフラッシュ設定は電源を[OFF]にしても記憶しています。アドバンスシーンモードまたはシーンモードを変更すると、アドバンスシーンモードまたはシーンモードのフラッシュ設定はモードを変更するたびに初期設定に戻ります。
- 動画撮影時はフラッシュは発光しません。

内蔵フラッシュを使って撮る（つづき）

撮影モード：iA P A S M CUST SCN

■ ISO感度別フラッシュ撮影可能範囲

ISO感度	DMC-G2KおよびDMC-G2Wに同梱の交換レンズ 14–42 mm/F3.5–5.6装着時		DMC-G2Wに同梱の交換レンズ 45–200 mm/F4.0–5.6装着時	
	フラッシュ撮影可能範囲		フラッシュ撮影可能範囲	
	W端時	T端時	W端時	T端時
AUTO	約45 cm～約6.2 m※	約30 cm～約3.9 m※	約1.0 m～約5.5 m※	約1.0 m～約3.9 m※
ISO100	約45 cm～約3.1 m	約30 cm～約1.9 m	約1.0 m～約2.7 m	約1.0 m～約1.9 m
ISO200	約45 cm～約4.4 m	約30 cm～約2.7 m	約1.0 m～約3.8 m	約1.0 m～約2.7 m
ISO400	約45 cm～約6.2 m	約30 cm～約3.9 m	約1.0 m～約5.5 m	約1.0 m～約3.9 m
ISO800	約50 cm～約8.8 m	約30 cm～約5.5 m	約1.0 m～約7.7 m	約1.0 m～約5.5 m
ISO1600	約80 cm～約12.5 m	約50 cm～約7.8 m	約1.0 m～約11.0 m	約1.0 m～約7.8 m
ISO3200	約1.1 m～約17.7 m	約70 cm～約11.1 m	約1.0 m～約15.5 m	約1.0 m～約11.1 m
ISO6400	約1.6 m～約25.1 m	約1.0 m～約15.7 m	約1.4 m～約22.0 m	約1.0 m～約15.7 m

※[ISO感度上限設定]（P128）を[OFF]に設定時

- フラッシュ撮影時に被写体との距離が近い場合、レンズでフラッシュ光がさえぎられ、撮影画像の一部が暗くなります。被写体との距離を確認しながら撮影してください。フラッシュ光がさえぎられる被写体との距離は、使用するレンズによって異なります。
  - ・DMC-G2KおよびDMC-G2Wに同梱の交換レンズ14–42 mm/F3.5–5.6装着時：
    45 cm以内（W端）/30 cm以内（T端）
  - ・DMC-G2Wに同梱の交換レンズ45–200 mm/F4.0–5.6装着時：
    30 cm以内

■ フラッシュモード別のシャッタースピード

フラッシュモード	シャッタースピード
⚡A	1/60※1～1/4000秒
⚡A◎	
⚡	1/60※2～1/160秒
⚡◎	

フラッシュモード	シャッタースピード
⚡S	1～1/4000秒
⚡S◎	
⊘	60※3～1/4000秒

※1 シャッター優先AEモード時は60秒となります。
※2 シャッター優先AEモード時は60秒、マニュアル露出モード時はB（バルブ）となります。
※3 マニュアル露出モード時はB（バルブ）となります。

- フラッシュ発光時は、シャッタースピードが1/160秒より速い設定はできません。
- インテリジェントオートモード時のシャッタースピードは判別シーンによって異なります。

お知らせ

- フラッシュに物を近づけたり、発光中にフラッシュを閉じないでください。熱や光で変形、変色する場合があります。
- 赤目軽減オートなどの予備発光の直後にフラッシュを閉じないでください。故障の原因となります。
- フラッシュ撮影可能範囲外で撮影すると、適正露出にならず、白っぽく撮れる場合や暗くなる場合があります。
- フラッシュ充電中は、フラッシュアイコンが赤に点滅し、シャッターボタンを全押ししても、撮影できません。
- フラッシュ光が十分に届かない被写体はホワイトバランスが合わない場合があります。
- **使用するレンズによってはフラッシュ光がさえぎられたり、フラッシュ光がレンズの画角をカバーできないため、撮影画像の一部が暗くなる場合があります。**
- **レンズフードが付いた状態でフラッシュ撮影すると、フラッシュの光がフードにさえぎられることがあります。**
- 撮影を繰り返すと、フラッシュの充電に時間がかかる場合があります。アクセス表示が消えてから撮影してください。
- 赤目軽減の効果には個人差があり、被写体までの距離や被写体の人が予備発光を見ていないなどの条件によって、効果が現れにくい場合があります。
- 外部フラッシュ装着時は、外部フラッシュが優先されます。
  外部フラッシュについては、173ページをお読みください。

▲/▼/◀/▶はカーソルボタンの上下左右を表しています。

応用・撮影

フラッシュの発光量を調整する

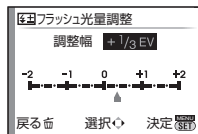
使えるモード：

被写体が小さい、反射率が極端に高い、または低いときは、フラッシュの発光量を調整してください。

1 撮影メニューから[フラッシュ光量調整]を選ぶ(P32)

2 ◀/▶でフラッシュの発光量を設定し、[MENU/SET]を押す

- –2 EVから+2 EVの範囲で、1/3 EVごとに調整できます。
- フラッシュ発光量を調整しない場合は、“0 EV”を選んでください。

フラッシュ光量調整
調整幅 + 1/3 EV
–2 –1 0 +1 +2
戻る 選択 決定 MENU SET

3 [MENU/SET]を押してメニューを終了する

- シャッターボタン半押しでも終了できます。

お知らせ

- フラッシュ発光量が調整されているときは、画面のフラッシュアイコンに[+]または[–]が表示されます。
- 設定したフラッシュ発光量は、電源を[OFF]にしても記憶しています。

内蔵フラッシュを使って撮る（つづき）

撮影モード：iA P A S M CUST SCN

▲/▼/◀/▶はカーソルボタンの上下左右を表しています。

後幕シンクロに設定する

使えるモード：P A S M CUST SCN

後幕シンクロとは、車など動きのある被写体をスローシャッターでフラッシュ撮影する場合、シャッターが閉じる直前に発光する撮影方法です。

1 撮影メニューから［フラッシュシンクロ］を選ぶ（P32）

2 ▼で［後幕］を選び、［MENU/SET］を押す

3 ［MENU/SET］を押してメニューを終了する

- シャッターボタン半押しでも終了できます。

項目	効果
さきまく 先幕	一般的なフラッシュ撮影の方法です。
あとまく 後幕	被写体の後ろに光源が写り、躍動感が出ます。

お知らせ

- 通常は［先幕］に設定してください。
- ［後幕］に設定すると、画面のフラッシュアイコンに［2nd］が表示されます。
- フラッシュシンクロの設定は、外部フラッシュ使用時にも有効です。（P173）
- シャッタースピードが速いときは、フラッシュシンクロの効果が十分に得られない場合があります。
- ［後幕］設定時は、［⚡A◎］、［⚡◎］、［⚡S◎］に設定できません。
- シーンモードでは、［背景ボケ］でのみ設定できます。

露出を補正して撮る

撮影モード：iA P A S CUST P SCN

▲/▼/◀/▶はカーソルボタンの上下左右を表しています。

被写体と背景の明るさに大きく差がある場合など、適正な露出が得られないときに補正します。

露出オーバー

露出をマイナス方向に補正してください。

適正露出

露出をプラス方向に補正してください。

露出アンダー

1 後ダイヤルを押して露出補正操作に切り換える

露出補正表示

2 後ダイヤルを回して、露出を補正する

- 露出を補正しない場合は、"0"を選んでください。
- 後ダイヤルを回すと、[露出メーター]が表示されます。(P135)(ただし、iA、P、SCN、、、、、モード時は表示されません)

3 撮影する

お知らせ

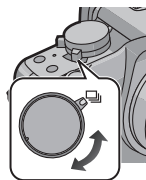
- EVとは「Exposure Value」の略で、露出量を表す単位です。絞り値またはシャッタースピードが変化するとEVが変化します。
- 設定した露出補正量は、電源を[OFF]にしても記憶しています。ただし、インテリジェントオートモード時は露出補正量は記憶されません。
- 被写体の明るさによっては、露出補正できない範囲があります。
- 後ダイヤルの誤操作にお気をつけください。
- プログラムAEモードでは、絞り値とシャッタースピードの数値が画面に表示中は後ダイヤルを押すごとに、プログラムシフト操作と露出補正操作が切り換わります。
- 絞り優先AEモードでは後ダイヤルを押すごとに、絞り設定操作(P94)と露出補正操作が切り換わります。
- シャッター優先AEモードでは後ダイヤルを押すごとに、シャッタースピード設定操作(P94)と露出補正操作が切り換わります。
- カスタムメニューの[露出設定切換](P136)で操作方法を変更できます。
- タッチ操作時のクイックメニュー(P34)では、露出補正表示をタッチし、スライドバーをタッチすると露出補正ができます。
- ボタン操作時のクイックメニュー(P34)では、[ ](液晶モニタースタイル)の場合、◀/▶または後ダイヤルで露出補正表示を選んだあと、▲/▼で露出補正ができます。
- ボタン操作時のクイックメニューでは、[ ](ファインダースタイル)の場合、後ダイヤルまたは◀/▶で露出補正表示を選んでから、後ダイヤルまたは[MENU/SET]を押すと、後ダイヤルまたは◀/▶で露出補正ができます。

連写する

撮影モード：iA P A S M CUST SCN

▲/▼/◀/▶はカーソルボタンの上下左右を表しています。

シャッターボタンを押している間、連続して撮影します。撮影後、お気に入りの画像を選んでください。

1 ドライブモードレバーを[連写]に合わせる

2 ピントを合わせて撮影する

●シャッターボタンを押したままにすると連続撮影されます。

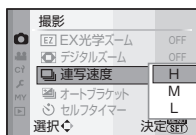
連写[H(高速)設定時]

■ 連写速度を変更する場合

1 撮影メニューから[連写速度]を選ぶ(P32)

2 ▲/▼で連写速度を選び、[MENU/SET]を押す

3 [MENU/SET]を押してメニューを終了する

●シャッターボタン半押しでも終了できます。

		[H](高速)	[M](中速)	[L](低速)
連写速度		3.2コマ/秒	2.6コマ/秒	2コマ/秒
連写中のライブビュー		なし	あり	あり
連写枚数	RAWファイルあり	4～7コマ※		
	RAWファイルなし	カードの空き容量による※		

※ カードの空き容量がいっぱいになるまで撮影されますが、途中から連写速度が遅くなります。遅くなるタイミングは画像横縦比、記録画素数、クオリティの設定、使用するカードによって異なります。

●最初の連写速度はカードの転送速度に関係ありません。

●上記の連写速度は、シャッタースピードが1/60より速く、フラッシュを発光させないときの値です。

●連写速度は、以下の設定によって低下することがあります。

・ISO感度(P89)/[記録画素数](P124)/[クオリティ](P125)/[フォーカス優先](P134)/フォーカスモード

●RAWファイルについては、125ページをお読みください。

■ 連写とピントについて

ピント合わせは、フォーカスモードとカスタムメニューの[フォーカス優先](P134)の設定によって異なります。

フォーカスモード	フォーカス優先	ピント合わせ
AFS	ON	1 枚目
	OFF	
AFC ※1	ON	常時ピント※2
	OFF	予測ピント※3
MF	ー	マニュアルで設定したフォーカス

※1 被写体が暗い場合、ピントは1枚目に固定されます。
※2 常時ピントを合わせながら連写するので、連写速度は遅くなることがあります。
※3 連写速度を優先し、可能な範囲でピントの予測を行います。

お知らせ

- シャッターボタンを押したまま連続撮影するときは、シャッターリモコン(別売:DMW-RSL1)の使用をおすすめします。シャッターリモコンについては、176ページをお読みください。
- [H]設定時、1枚目の露出、ホワイトバランスに固定されます。被写体の明るさの変化によっては、2枚目以降が明るく撮れたり、暗く撮れたりする場合があります。
  [M]または[L]設定時、1枚ごとに露出、ホワイトバランスを調整します。
- 屋内外など明暗差の大きい場所(風景)で動きのある被写体を追いながら撮影した場合、露出が安定するまでに時間がかかる場合があります。このときに連写を行うと、最適な露出にならないことがあります。
- 暗いところでは、シャッタースピードが遅くなるため、連写速度(コマ/秒)が遅くなることがあります。
- [H]設定時は、[オートレビュー]の設定にかかわらずオートレビューされます。(ホールドはされません)セットアップメニューで[オートレビュー]の設定はできません。
  [M]または[L]設定時は、連写のコマ間にライブビューが表示されます。
- フラッシュが発光するときは、1枚しか撮影できません。
- **ホワイトバランス ブラケット撮影時(P88)は、1回の撮影で3枚の画像を記録しますので、次の撮影までに時間がかかります。**
- **マルチフィルムブラケット撮影時(P93)は、マルチフィルムブラケット設定に従って、最大3枚のフィルムが撮影されます。**
- 動画撮影では連写は無効になります。

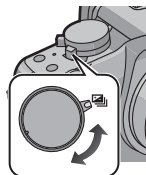
露出を自動的に変えながら撮る（オートブラケット撮影）

撮影モード：iA P A S M CUST SCN

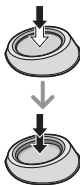
シャッターボタンを押すごとに、露出の補正幅に従って露出を変えながら最大で7枚まで撮影します。露出が異なる画像の中からお好きな露出の画像を選ぶことができます。

補正幅：[3･1/3]、ブラケット順序：[0/－/＋] 設定時の例

1枚目	2枚目	3枚目
±0 EV	－1/3 EV	＋1/3 EV

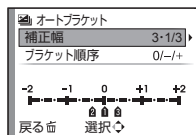
1 ドライブモードレバーを[ ]に合わせる

2 ピントを合わせて撮影する

- シャッターボタンを押したままにすると連続撮影されます。
- 設定枚数分がすべて撮影されるまでオートブラケット表示が点滅します。
- 設定枚数分がすべて撮影されるまでにオートブラケットの設定やドライブモードを変更したり、電源を[OFF]にした場合は、1枚目からの撮影になります。

オートブラケット表示

▲/▼/◀/▶はカーソルボタンの上下左右を表しています。

■ オートブラケットの補正幅、撮影順序を変更する場合

1 撮影メニューから[オートブラケット]を選ぶ(P32)

2 ▲/▼で[補正幅]または[ブラケット順序]を選び、▶を押す

3 ▲/▼で設定内容を選び、[MENU/SET]を押す

項目	設定内容
補正幅	3・1/3（3枚撮影）
	3・2/3（3枚撮影）
	5・1/3（5枚撮影）
	5・2/3（5枚撮影）
	7・1/3（7枚撮影）
	7・2/3（7枚撮影）

項目	設定内容
ブラケット順序	0/−/+
	−/0/+

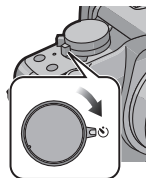
4 [MENU/SET]を2回押してメニューを終了する
- シャッターボタン半押しでも終了できます。

お知らせ
- 露出補正をしてからオートブラケット撮影をする場合は、補正された露出値を基準にして撮影されます。
- 被写体の明るさによっては、オートブラケットで露出補正できない場合があります。
- [オートレビュー]の設定にかかわらずオートレビューされます。(ホールドはされません)セットアップメニューで[オートレビュー]の設定はできません。
- フラッシュが発光するときは、1枚しか撮影できません。
- 記録可能枚数が設定枚数より少ないときは、設定枚数分撮影できません。
- **マルチフィルムブラケット撮影時(P93)は、マルチフィルムブラケットの設定が優先されます。**
- 動画撮影ではオートブラケットは無効になります。

セルフタイマーを使って撮る

撮影モード：iA P A S M CUST SCN（各モードアイコン）

▲/▼/◀/▶はカーソルボタンの上下左右を表しています。

1 ドライブモードレバーを[⏲]に合わせる

2 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、全押しして撮影する

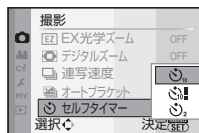
- ピントが合うまで、撮影されません。フォーカスと露出はシャッターボタン半押し時に固定されます。
- ピントが合っていない場合でもシャッターボタンの全押しで撮影されるようにしたいときは、カスタムメニューの[フォーカス優先]を[OFF]に設定してください。(P134)
- セルフタイマーランプが点滅し、10秒(または2秒)後に撮影動作が開始されます。
- セルフタイマー動作中に[MENU/SET]を押すと、セルフタイマーが中断されます。
- [⏲10/3]選択時は、1枚目および2枚目撮影後にセルフタイマーランプが再度点滅し、2秒後に撮影動作を開始します。

セルフタイマーランプ

■ セルフタイマーの時間を変更する場合

1 撮影メニューから[セルフタイマー]を選ぶ(P32)

2 ▲/▼でモードを選び、[MENU/SET]を押す

項目	設定内容
⏲10	10 秒
⏲10/3	10 秒/3 枚
⏲2	2 秒

- [⏲10/3]に設定すると、10秒後に約2秒間隔で3枚撮影します。

3 [MENU/SET]を押してメニューを終了する

- シャッターボタン半押しでも終了できます。

お知らせ

- セルフタイマーを2秒に設定すると、三脚使用時などシャッターボタンを押したときのカメラブレを防ぐのに便利です。
- セルフタイマー撮影時は、三脚の使用をおすすめします。
- [⏲10/3]設定時、撮影状況によっては撮影間隔が 2 秒以上になることがあります。
- [⏲10/3]設定時、フラッシュ発光量は一定にならないことがあります。
- マルチフィルムブラケット撮影時(P93)は、[⏲10/3]に設定しても、[⏲10]と同じ動作になります。
- インテリジェントオートモード時は、クイックメニュー(P34)を使って設定してください。
- インテリジェントオートモード時は、[⏲10/3]に設定できません。
- 動画撮影ではセルフタイマーは無効になります。

ピントを合わせる方法を設定する（オートフォーカスモード）

撮影モード：[P][A][S][M][CUST][P][SCN]

被写体の位置や数に応じて、ピントの合わせかたを選択できます。
また、タッチパネルを使って指定した被写体にピントや露出を合わせることができます。
撮影状況や撮りたい構図に合わせて使い分けてください。

1 フォーカスモードレバーを[AFS]または[AFC]に合わせる

2 オートフォーカスモードダイヤルを切り換える

オートフォーカスモードダイヤル	項目	効果
[顔認識アイコン]	[顔認識アイコン]（顔認識）	人の顔を自動的に検知します。（最大15個）認識された顔がどの位置にあっても、顔にピントや露出を合わせることができます。
[追尾AFアイコン]	[追尾AFアイコン]（追尾AF）	指定した被写体にピントや露出を合わせることができます。さらに、被写体が動いても自動でピントと露出を合わせ続けます。（動体追尾）
[23点アイコン]	[23点アイコン]（23点）	AFエリアごとに最大23点までピントを合わせることができます。被写体が中央にない場合に有効です。（AFエリア枠は画像横縦比の設定と同じになります）
[1点アイコン]	[1点アイコン]（1点）	AFエリア内にピントを合わせます。AFエリアの位置と大きさを変えることができます。

お知らせ

- [■]で被写体が撮りたい構図の中央にないときなどは、被写体にAFエリアを合わせ、シャッターボタン半押しでピントと露出を固定し、半押ししたまま撮りたい構図に本機を動かして撮影することもできます。（フォーカスモードレバーを[AFS]に合わせたときのみ）
- [▦]でAFエリアが複数（最大23個）点灯した場合は、点灯したすべてのAFエリアにピントが合っています。ピントを合わせる位置を決めて撮影したいときは、設定を[■]に切り換えてください。
- [顔]または[▦]に設定している場合は、ピントが合うまでAFエリアは表示されません。また、[▦]でフォーカスモードを[AFC]に設定している場合には、ピントが合っていてもAFエリアは表示されません。
- 動画撮影中、[▦]に設定している場合は、動画用マルチオートフォーカスモードに切り換わります。
- 人物以外の被写体をカメラが誤って顔と認識する場合は、[顔]以外に設定してください。
- [個人認証]は、[顔]に設定されているときのみ有効になります。
- 以下の場合、[顔]に設定できません。
  ・クローズアップモードの[料理]
  ・夜景&人物モードの[夜景]、[イルミネーション]
- デジタルズーム使用時は、[■]に固定されます。
- シーンモードの[背景ボケ]ではAFエリアが小さな1点に固定されます。
- タッチシャッター機能（P52）を使って撮影した場合は、[■]になります。

応用・撮影

ピントを合わせる方法を設定する (オートフォーカスモード) (つづき)

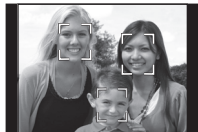
撮影モード：P A S M CUST 🎥P SCN

▲/▼/◀/▶ はカーソルボタンの上下左右を表しています。

[顔](顔認識)について

カメラが顔を認識すると以下の色のAFエリア枠が表示されます。

黄色：シャッターボタンを半押しし、ピントが合うと緑色に変わります。

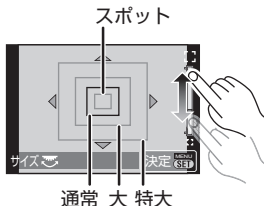
白色：複数の顔を認識すると表示されます。黄色のAFエリア枠内の顔と同じ距離にある顔にはピントが合います。

- [顔]選択時、[測光モード]を[(•)]に設定すると、人の顔に合わせて露出を調整します。
- 以下の場合など、撮影状況によっては、顔認識機能が働かず、顔が検知できないことがあります。その際、オートフォーカスモードは[▦]に切り換わります。
  - ・顔が正面を向いていない/傾いている/極端に明るいまたは暗い/サングラスなどで隠れている/小さく写っている
  - ・顔の陰影が少ない　・動きが速い　・被写体が人物以外である　・手ブレしている

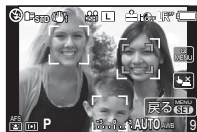
[顔]選択時にAFエリアを移動することができます。また、AFエリア枠の大きさを変更することもできます。

1　被写体を選び、タッチする

- AFエリア設定画面が表示されます。
- AFエリア設定画面が表示されるまで[Q.MENU]ボタンを押したままにし、カーソルボタンを▲/▼/◀/▶に押してAFエリアを移動することもできます。
- AFエリアは画面内の自由な位置に設定できます。(画面の端には設定できません)
- [🗑]を押すとAFエリアは中央に戻ります。
- [Fnボタン設定](P132)を[フォーカスエリア選択]に設定しているときは、▼を押してもAFエリア設定画面を表示できます。

2　スライドバーをタッチしてAFエリア枠の大きさを変更する

- 「スポット」、「通常」、「大」、「特大」の4種類の大きさに変更できます。
- 後ダイヤルを右側に回しても拡大できます。左側に回すと縮小します。

3　[決定]をタッチする

- 顔認識枠を表示したまま、タッチした場所に[■]と同じ働きのAFエリアが表示されます。
- AFエリアが黄色に、顔認識枠が白色に変わります。
- [戻る]をタッチするとAFエリア枠の設定が解除されます。

[追尾AF アイコン](追尾AF)を設定する

■ タッチパネル操作時

1　被写体を選び、タッチする

- AFエリアが黄色になり被写体がロックされます。
  被写体の動きに合わせて自動で連続的にピントと露出を合わせます。(動体追尾)
- [戻る]をタッチすると、ロックは解除されます。

2　シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、全押しして撮影する

■ ボタン操作時

1　被写体を追尾AF枠に合わせ、シャッターボタンを半押しして被写体にロックする

- 被写体を認識すると、AFエリアが緑色になり被写体がロックされます。シャッターボタンを離すと被写体の動きに合わせて自動で連続的にピントと露出を合わせます。(動体追尾)このときAFエリアは黄色で表示されます。
- [MENU/SET]を押すと、ロックは解除されます。

追尾AF枠(白色)　　追尾AF枠(黄色)

ロック前　　ロック後

2　シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、全押しして撮影する

お知らせ

- ロックに失敗したときは、追尾AF枠が赤く点滅したあと消えます。もう一度ロックをやり直してください。
- 追尾AFに失敗したときは、追尾AFは働きません。その際、オートフォーカスモードは[■]に切り換わります。
- 追尾AF動作時は[個人認証]が働きません。
- 以下の場合、[追尾AF アイコン]は[■]の動作になります。
  - ・フィルムモードの[スタンダード B&W (白黒)]、[ダイナミック B&W (白黒)]、[スムーズ B&W (白黒)]
  - ・マイカラーモードの[モノクローム]
- 以下の場合は、動体追尾機能が働かないことがあります。
  - ・被写体が小さすぎる
  - ・被写体の動きが速い
  - ・手ブレしている
  - ・撮影場所が明るすぎる、暗すぎる
  - ・被写体と背景の色が同じか類似した色があるとき
  - ・ズーム操作時

ピントを合わせる方法を設定する（オートフォーカスモード）（つづき）

撮影モード：P A S M CUST ●P SCN

▲/▼/◀/▶ はカーソルボタンの上下左右を表しています。

(23点)について

- シャッターボタン半押し時に最大23個までAFエリアが点灯し、各AFエリアにピントを合わせることができます。

23個のAFエリアを9つのエリアに分け、選択したエリア内でピントを合わせることもできます。

画面をタッチしてAFエリア設定画面を表示させ、右図のようにAFエリア枠を選択してください。

- タッチパネルから指を離してしばらくするとAFエリア枠が消え、[+]表示（選択したAFエリア枠の中心点）のみが画面に残ります。
- AFエリア設定画面が表示されるまで[Q.MENU]ボタンを押したままにし、カーソルボタンを▲/▼/◀/▶に押す、または後ダイヤルを回してAFエリア枠を選択することもできます。
- [戻る]をタッチするとAFエリア枠の設定が解除されます。
- [Fnボタン設定](P132)を[フォーカスエリア選択]に設定しているときは、▼を押してもAFエリア設定画面を表示できます。

[■](1点)について

[■]選択時にAFエリアを移動することができます。また、AFエリア枠の大きさを変更することもできます。

1 被写体をタッチして、AFエリアを移動する

- AFエリア設定画面が表示されます。
- AFエリア設定画面が表示されるまで[Q.MENU]ボタンを押したままにし、カーソルボタンを▲/▼/◀/▶に押してAFエリアを移動することもできます。
- AFエリアは画面内の自由な位置に設定できます。(画面の端には設定できません)
- [🗑]を押すとAFエリアは中央に戻ります。
- [Fnボタン設定](P132)を[フォーカスエリア選択]に設定しているときは、▼を押してもAFエリア設定画面を表示できます。

2 スライドバーをタッチしてAFエリア枠の大きさを変更する

- AFアエリア枠の拡大操作については、76 ページの「[顔](顔認識)について」の手順**2**をお読みください。

3 [決定]をタッチする

■ ボタン操作でAFエリアを簡単に移動する

[顔認識]、[23点]、[1点]選択時にカスタムメニューの[ダイレクトフォーカス移動](P134)を[ON]に設定すると、▲/▼/◀/▶で直接AFエリアを移動することができます。
また、[顔認識]、[1点]では位置を設定する画面で後ダイヤルを回すと、AFエリア枠の大きさの変更もできます。

- ISO感度設定(P89)、Fnボタン設定(P132)、フィルムモード設定(P91)、ホワイトバランス設定(P85)は▲/▼/◀/▶では操作できなくなります。クイックメニュー(P34)を使って設定してください。

お知らせ

- [測光モード]が[スポット]のときは、測光ターゲットもAFエリアに合わせて移動します。(P126)
- AFエリア枠の大きさが「スポット」でピントが合いにくいときは、AFエリア枠の大きさを「通常」、「大」、「特大」のいずれかに変更してください。
- マイカラーモード時は、[ダイレクトフォーカス移動]は[OFF]に固定されます。

手動でピントを合わせて撮る（MF: マニュアルフォーカス）

撮影モード：iA P A S M CUST ♪P SCN

▲/▼/◄/► はカーソルボタンの上下左右を表しています。

ピントを固定したい場合や、被写体との距離が固定されていて、オートフォーカスを働かせたくない場合などに使います。

1 フォーカスモードレバーを [MF] に合わせる

2 フォーカスリングを回してピントを合わせる

MFガイド

- カスタムメニューの[MFアシスト]（P135）を[ON]に設定時は、MFアシストとして画面が約5倍に拡大表示されます。
- カスタムメニューの[MFガイド]（P135）を[ON]に設定時は、フォーカスリングを回すと画面にMFガイドが表示されます。近距離側、遠距離側へのフォーカスリングの回転方向を確認できます。
- 画面をドラッグ（P17）する、またはカーソルボタンを▲/▼/◄/►に押して拡大位置を移動させることができます。
- [⊕]をタッチすると、MFアシストが5倍から10倍に拡大されます。[⊖]をタッチすると5倍に戻ります。
- フォーカスリング、タッチパネル、▲/▼/◄/►の操作をやめると、約10秒後にMFアシスト、またはMFガイドは消えます。

3 撮影する

■ MFアシストについて

フォーカスリングを回さなくても、以下の操作でMFアシストを表示できます。

タッチパネル操作時

1　拡大したい部分をタッチして、MFアシストを表示する

- MFアシストを表示中の操作については、80ページの手順**2**をお読みください。

2　[戻る]をタッチして、MFアシストを終了する

- 元の画面に戻ります。

ボタン操作時

1　MFアシスト位置設定画面が表示されるまで[Q.MENU]ボタンを押したままにする

Q.MENU

- [Fnボタン設定](P132)を[フォーカスエリア選択]に設定しているときは、▼を押してもMFアシスト位置設定画面を表示できます。

2　▲/▼/◀/▶で位置を移動する

- 以下の操作を行うと、中央のMFアシスト位置に戻ります。
  - ・フォーカスモードを[MF]以外に設定したとき
  - ・[画像横縦比]、[記録画素数]を変更したとき
  - ・電源を[OFF]にしたとき

3　[MENU/SET]を押して、MFアシスト位置設定画面を拡大する

- 後ダイヤルを右側に回すとMFアシストが5倍から10倍に拡大されます。左側に回すと5倍に戻ります。
- MFアシストを表示中の操作については、80ページの手順**2**をお読みください。

4　[MENU/SET]を押して、MFアシストを終了する

- 元の画面に戻ります。

■ ボタン操作でMFアシストを簡単に移動する

カスタムメニューの[ダイレクトフォーカス移動](P134)を[ON]に設定すると、▲/▼/◀/▶で直接MFアシストを移動することができます。

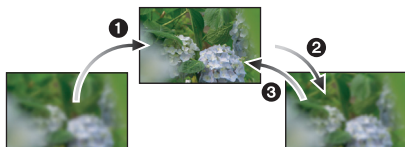
- ISO感度設定(P89)、Fnボタン設定(P132)、フィルムモード設定(P91)、ホワイトバランス設定(P85)は▲/▼/◀/▶では操作できなくなります。クイックメニュー(P34)を使って設定してください。

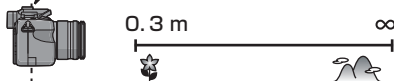
手動でピントを合わせて撮る（MF：マニュアルフォーカス）（つづき）

撮影モード：iA P A S M CUST SCN

▲/▼/◀/▶はカーソルボタンの上下左右を表しています。

■ マニュアルフォーカスのテクニック

❶ フォーカスリングを回して、ピントを合わせる
❷ さらに同じ方向に少し回す
❸ ゆっくり戻しながら微調整する

■ 撮影距離基準について

撮影距離基準マークは撮影距離の基準となるマークです。
マニュアルフォーカスや接写の目安にしてください。

- 近距離を撮影する場合は…
  - ・三脚を使用し、セルフタイマー（P74）を使って撮影することをおすすめします。
  - ・ピントの合っている範囲（被写界深度）が非常に狭くなりますので、ピントを合わせたあと、カメラと被写体との距離が変化するとピントが合いにくくなります。
  - ・画像の周辺部の解像度が少し低下することがありますが、故障ではありません。

お知らせ

- タッチパネル操作、またはボタン操作でMFアシストを開始した場合、フォーカスリング、タッチパネル、▲/▼/◀/▶の操作をしない状態で約10秒経過してもMFアシストは継続して表示されます。
- ピントを合わせたあと、ズーム操作をした場合は、もう一度ピントを合わせ直してください。
- デジタルズーム使用時、または動画撮影中はMFアシストは表示されません。
- スリープモード解除後は、必ずピントを合わせ直してください。
- 使用するレンズにより、MFアシストまたはMFガイドは表示されない場合があります。

露出やピントを固定して撮る（AF/AEロック）

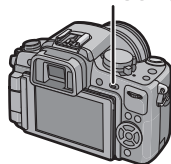
撮影モード：P A S M CUST 動画P SCN

被写体のコントラストが強すぎて適正露出が得られない場合(AEロック)や、被写体がAFエリアから外れた構図で撮りたい場合(AFロック)などに便利です。

■ 露出のみを固定する

1 露出を合わせたい被写体に画面を合わせる

2 [AF/AE LOCK]を押したままにし、露出を固定する

- 絞り値とシャッタースピードの表示が点灯します。
- [AF/AE LOCK]を離すと、ロックは解除されます。

3 [AF/AE LOCK]を押したまま、撮りたい構図に本機を動かす

4 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、全押しする

露出やピントを固定して撮る（AF/AEロック）（つづき）

撮影モード：P A S M CUST ▲P SCN

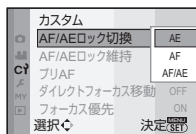
▲/▼/◀/▶はカーソルボタンの上下左右を表しています。

■ ピントまたはピント・露出を固定する

1 カスタムメニューから［AF/AEロック切換］を選ぶ（P32）

2 ▲/▼で［AF］または［AF/AE］を選び、［MENU/SET］を押す

3 ［MENU/SET］を押してメニューを終了する

- シャッターボタン半押しでも終了できます。

［AF］または［AF/AE］設定時の撮影方法

❶ 被写体に画面を合わせる

❷ ［AF/AE LOCK］を押したままにし、ピントや露出を固定する

- ［AF］設定時は、ピントが合うと、［AFL］およびフォーカス、絞り値、シャッタースピードの表示が点灯します。
- ［AF/AE］設定時は、ピントと露出が合うと、［AFL］と［AEL］、およびフォーカス、絞り値、シャッタースピードの表示が点灯します。
- ［AF/AE LOCK］を離すと、ロックは解除されます。

❸ ［AF/AE LOCK］を押したまま、撮りたい構図に本機を動かし、シャッターボタンを全押しする

お知らせ

- カスタムメニューの［AF/AEロック維持］を［ON］に設定すると、［AF/AE LOCK］を押したあと、離してもピントや露出を固定することができます。（P133）
- AEロックを行うと、液晶モニター/ファインダーに映る画面（ライブビュー）の明るさも固定されます。
- マニュアル露出モード時は、AFロックのみ有効です。
- マニュアルフォーカス時またはプレビューモード時は、AEロックのみ有効です。
- AEロック、AFロックは動画撮影でも有効ですが、動画撮影中に新たにAEロック、AFロックを行うことはできません。動画撮影中はロックの解除操作のみ可能です。
- 被写体の明るさが変わっても、露出は固定されます。
- AEロック時でも、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ直すことができます。
- AEロック時でも、プログラムシフトを設定できます。

ホワイトバランスを調整する

撮影モード：P A S M CUST ■P SCN

▲/▼/◀/▶はカーソルボタンの上下左右を表しています。

太陽光や白熱灯下など、白色が赤みがかったり青みがかったりする場面で、光源に合わせて見た目に近い白色に調整します。

1 ▶(WB)を押す

2 ホワイトバランスを選び、タッチする

3 [決定]をタッチする

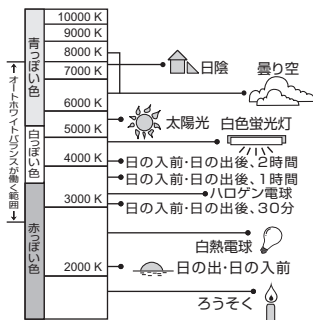
● シャッターボタン半押しでも決定できます。

項目	撮影状況
[AWB]	自動調整
[☼]	晴天の屋外での撮影時
[☁]	曇りの屋外での撮影時
[⌂]	屋外の晴天下の日陰での撮影時
[白熱灯]	白熱灯下での撮影時
[⚡WB] ※	フラッシュ光のみでの撮影時
[1]、[2]	あらかじめセットしている設定を使用
[K]	あらかじめセットしている色温度設定を使用

※ 動画撮影中は[AWB]の動作になります。

■ オートホワイトバランスについて

撮影時の状況によっては、画像が赤っぽくなったり、青っぽくなったりします。また、光源が複数の場合や白に近い色がない場合、オートホワイトバランスが正常に働かない場合があります。この場合は、ホワイトバランスを[AWB]以外に設定して調整してください。

応用・撮影

ホワイトバランスを調整する（つづき）

撮影モード：P A S M CUST ■P SCN

▲/▼/◀/▶はカーソルボタンの上下左右を表しています。

お知らせ

- 蛍光灯下では、その種類によって最適なホワイトバランスは異なりますので、[AWB]または[■1]、[■2]をご使用ください。
- フラッシュ撮影時、フラッシュ光が十分に届かない被写体はホワイトバランスが合わない場合があります。
- 設定したホワイトバランスは電源を[OFF]にしても記憶していますが、アドバンスシーンモードまたはシーンモードを変更すると、アドバンスシーンモードまたはシーンモードのホワイトバランスは[AWB]に戻ります。
- 以下の場合は、ホワイトバランスは[AWB]に固定されます。
  - ·インテリジェントオートモード
  - ·風景モード
  - ·クローズアップモードの[料理]
  - ·シーンモードの[夕焼け]/[パーティー]
  - ·人物モードの[屋外人物]、[屋内人物]
  - ·スポーツモードの[屋外スポーツ]、[屋内スポーツ]
  - ·夜景&人物モード
  - ·マイカラーモード
- [ダイレクトフォーカス移動]（P134）を[ON]に設定すると、▲/▼/◀/▶では操作できなくなります。クイックメニュー（P34）を使って設定してください。

手動でホワイトバランスを設定する

ホワイトバランスの設定値を設定します。撮影時の状況に合わせてお使いください。

1 [■1]または[■2]を選び、[ホワイトセット]をタッチする

- カーソルボタンを▲に押しても、ホワイトバランス設定画面を表示することができます。

2 白い紙など白いものだけを枠内に写し、[決定]をタッチする

■1 ホワイトセット

戻る

決定

お知らせ

- 被写体が明るすぎたり、暗すぎる場合は、正しくホワイトバランスを設定できないことがあります。そのときは、適切な明るさに調整して、再度設定し直してください。

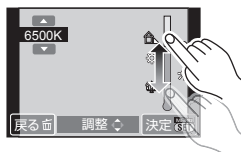
色温度設定について

撮影場所のいろいろな光に合わせて自然な色合いの撮影ができるよう、手動で色温度を設定することができます。色温度とは、光の色を数値[単位：K（ケルビン）]で表したもので、温度が高いほど青っぽく、低いほど赤っぽくなります。

1 [K]を選び、[色温度設定]をタッチする

● カーソルボタンを▲に押しても、色温度設定画面を表示することができます。

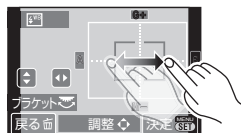
2 色温度設定バーをタッチする

● [▲]/[▼]をタッチまたはカーソルボタンを▲/▼に押しても数値を設定することができます。
● [2500K]～[10000K]まで設定できます。

3 [決定]をタッチする

ホワイトバランス微調整

ホワイトバランスを設定しても、思いどおりの色合いにならないときに、微調整することができます。

1 ホワイトバランスを選び、[調整]をタッチする

● カーソルボタンを▼に押しても、ホワイトバランス調整画面を表示することができます。

2 ホワイトバランス微調整枠内をタッチして、微調整する

● [G+]/[M−]/[A]/[B]をタッチまたはカーソルボタンを▲/▼/◀/▶に押しても微調整することができます。

◀：A（アンバー：オレンジ系）　▲：G+（グリーン：緑系）
▶：B（ブルー：青系）　▼：M−（マゼンタ：赤系）

3 [決定]をタッチする

お知らせ

● ホワイトバランスをA（アンバー）またはB（ブルー）方向に微調整すると、画面に表示されるホワイトバランスアイコンが微調整した色に変わります。
● ホワイトバランスをG+（グリーン）またはM−（マゼンタ）方向に微調整すると、画面に表示されるホワイトバランスアイコンに[+]（グリーン）または[−]（マゼンタ）が表示されます。
● [DISPLAY]を押すと中心点に戻ります。
● ホワイトバランスを微調整しない場合は、中心点を選んでください。
● ホワイトバランスの微調整は、フラッシュ撮影にも反映されます。
● ホワイトバランスの各項目で独立して微調整することができます。
● 電源を[OFF]にしても設定したホワイトバランス微調整は記憶されます。
● [1]、[2]で新しくホワイトバランスを設定し直したとき、または[K]で色温度を設定し直したときは、微調整レベルは標準（中心点）に戻ります。

ホワイトバランスを調整する（つづき）

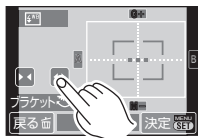
撮影モード：PASM CUST ♚P SCN

ホワイトバランスブラケット

１回シャッターボタンを押すと、ホワイトバランス微調整の調整値を基準にブラケット設定を行い、異なった色合いの画像を自動的に３枚撮影します。

1 87ページ手順2でホワイトバランスを微調整し、[⇕]/[⇔]をタッチしてブラケット設定を行う

- 後ダイヤルを回してもブラケット設定することができます。

[⇔]または後ダイヤル右回し：横方向（A ～B）
[⇕]または後ダイヤル左回し：縦方向（G+～M−）

2 [決定]をタッチする

お知らせ

- ホワイトバランスブラケットを設定すると、画面に表示されるホワイトバランスアイコンに[BKT]が表示されます。
- 電源を[OFF]（スリープモードを含む）にすると、ホワイトバランスブラケットの設定が解除されます。
- ドライブモードの設定に関係なく、ホワイトバランスブラケット撮影できます。
- シャッター音は１回しか鳴りません。
- クオリティを[RAW]、[RAW]または[RAW]に設定すると、ホワイトバランスブラケットは設定できません。
- **マルチフィルムブラケットを設定すると、ホワイトバランスブラケットは解除されます。**
- 動画記録時は、ホワイトバランスブラケットは働きません。

ISO感度を設定する

撮影モード：P A S M CUST

▲/▼/◀/▶はカーソルボタンの上下左右を表しています。

光に対する感度(ISO感度)を設定できます。数値を高く設定すると、暗い場所でも明るく撮ることができます。

1 ▲(ISO)を押す

2 ISO感度を選び、タッチする

3 [決定]をタッチする

●シャッターボタン半押しでも決定できます。

ISO感度	100 ⟷	6400
撮影場所(おすすめ)	明るいとき(屋外)	暗いとき
シャッタースピード	遅くなる	速くなる
ノイズ	少ない	多い

ISO感度	設定内容
AUTO ※	明るさに応じて、自動的にISO感度を調整します。
iISO ※ (インテリジェント)	被写体の動きと明るさに応じて、ISO感度を調整します。
100/200/400/800/1600/3200/6400	それぞれのISO感度に固定します。 **(撮影メニューの[ISO感度ステップ](P128)を[1/3 EV]に設定しているときは、設定できるISO感度の項目が増加します)**

※ **撮影メニューの[ISO感度上限設定](P128)を[OFF]以外に設定しているときは、[ISO感度上限設定]の設定値までの範囲で自動的に設定します。**

[ISO感度上限設定]を[OFF]に設定したときは以下の設定になります。

・[AUTO]を選ぶと、明るさに応じて最大[ISO400]までの範囲で自動設定します。

・[iISO]を選ぶと、明るさに応じて最大[ISO800](フラッシュ使用時は[ISO400])までの範囲で自動設定します。

●動画撮影中は、ISO感度は[AUTO](動画用)の動作になります。また、[ISO感度上限設定]は機能しません。

ISO感度を設定する（つづき）

撮影モード：P A S M CUST

▲/▼/◀/▶はカーソルボタンの上下左右を表しています。

■ iISO（インテリジェントISO感度コントロール）について

被写体の動きと明るさに応じて最適なISO感度とシャッタースピードをカメラが自動的に設定して、被写体のブレをおさえます。

- シャッタースピードはシャッターボタン半押し時に固定されず、全押しするまで常に被写体の動きに合わせて変化します。実際のシャッタースピードは再生画像の情報表示でご確認ください。

お知らせ

- ISO感度を高い数値に設定するほど、被写体ブレをおさえる効果が得られますが、ノイズは増加します。
- フラッシュで撮影できる範囲については、66ページをお読みください。
- [iISO]を選んでも、明るさや被写体の動きの速さによっては、被写体ブレをおさえられない場合があります。
- 動いている被写体が小さいときや動いている被写体が画面の端にあるとき、シャッターボタンを全押しした瞬間に被写体が動き出したときは、動きを検出できないことがあります。
- シーンモードの［赤ちゃん1］/［赤ちゃん2］、または［ペット］、アドバンスシーンモードの［屋内人物］、［スポーツ（標準）］、［屋外スポーツ］または［屋内スポーツ］では［iISO］に固定されます。
- ［iISO］選択時は、プログラムシフトは使えません。
- シャッター優先AEまたはマニュアル露出モード時は、［iISO］の選択はできません。また、マニュアル露出モード時は［AUTO］の選択もできません。
- ノイズが気になるときは、ISO感度を低くするか、フィルムモードの［ノイズリダクション］をプラス方向にする、または［ノイズリダクション］以外の各項目をマイナス方向に調整して撮影することをおすすめします。（P92）
- ［ダイレクトフォーカス移動］（P134）を［ON］に設定すると、▲/▼/◀/▶では操作できなくなります。クイックメニュー（P34）を使って設定してください。

撮影する画像の色調を変更する（フィルムモード）

撮影モード：iA P A S M CUST 🎥P SCN

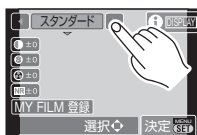
▲/▼/◀/▶ はカーソルボタンの上下左右を表しています。

[iA、SCN、（シーンアイコン）モード時は[スタンダード]、[スタンダード B&W（白黒）]のみ]

フィルムカメラで使用するフィルムの種類には、発色やコントラストなどの画質に個性があります。フィルムモードでは、フィルムを使い分けるように画像の色調を9種類から選択できます。
撮影状況、撮影イメージに合わせてフィルムモードを使い分けてください。

1 ◀（ ）を押す

2 [◀]/[▶]をタッチして、項目を選ぶ

- 右図の画面で[ ]をタッチすると、各フィルムモードの説明が表示されます。（[戻る]をタッチすると元の画面に戻ります）

3 [決定]をタッチする

- シャッターボタン半押しでも決定できます。

項目	効果
スタンダード（カラー）	標準的な設定です。
ダイナミック（カラー）	彩度高め、コントラスト高め、記憶色よりの設定です。
スムーズ（カラー）	コントラスト低め、穏やかですっきりとした設定です。
ネイチャー（カラー）	青、緑、赤などを明るく、自然をより美しく撮る設定です。
ノスタルジック（カラー）	彩度低め、コントラスト低め、年月の経過をイメージした設定です。
バイブラント（カラー）	[ダイナミック]よりさらに彩度高め、コントラスト高め、より鮮烈な色設定です。

項目	効果
スタンダード B&W（白黒）	標準的な設定です。
ダイナミック B&W（白黒）	コントラスト高めの設定です。
スムーズ B&W（白黒）	階調重視で、肌の質感を残す設定です。
MY FILM 1（マイ フィルム）	登録したフィルムを呼び出します。
MY FILM 2（マイ フィルム）	登録したフィルムを呼び出します。
マルチフィルム	シャッターボタンを押すごとに、設定に従ってフィルムの種類を変えながら撮影します。（最大3枚）

お知らせ

- フィルムモードでは、特有の画質を生成するため、カメラ内部で減感または増感に相当する処理を行うことがあります。その際は、シャッタースピードが通常と異なることがあります。
- [ダイレクトフォーカス移動]（P134）を[ON]に設定すると、▲/▼/◀/▶ では操作できなくなります。クイックメニュー（P34）を使って設定してください。

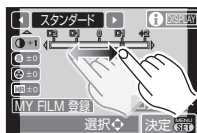
撮影する画像の色調を変更する（フィルムモード）（つづき）

撮影モード：iA P A S M CUST 🎥P SCN

各フィルムモードの設定をお好みに応じて調整する

1 選びたい項目を、タッチする

2 スライドバーをタッチする

- 登録した内容は電源を[OFF]にしても記憶しています。

3 [MY FILM 登録]をタッチする

4 [MY FILM 1]または[MY FILM 2]を選び、タッチする

- 設定を2種類([MY FILM 1]、[MY FILM 2])登録できます。(登録後は、前回登録したフィルムモード名が表示されます）
- お買い上げ時は、[MY FILM 1]、[MY FILM 2]に[スタンダード]が登録されています。

5 [決定]をタッチする

- シャッターボタン半押しでも決定できます。

項目		効果
◐コントラスト	＋	画像の明暗差を大きくします。
	－	画像の明暗差を小さくします。
Ⓢシャープネス	＋	画像の輪郭を強調します。
	－	画像の輪郭を柔らかくします。
彩度	＋	派手で鮮やかな色になります。
	－	落ち着いた色になります。
NR ノイズリダクション	＋	ノイズリダクションの効果を強め、ノイズを軽減します。 解像感がわずかに低下する場合があります。
	－	ノイズリダクションの効果を弱め、より解像感のある画質を得ることができます。

お知らせ

- 暗い場面で撮影すると、ノイズが目立つことがあります。ノイズが気になるときは、[ノイズリダクション]をプラス方向にするか、[ノイズリダクション]以外の各項目をマイナス方向に調整して撮影することをおすすめします。
- フィルムモードを調整すると、画面に表示されるフィルムモードアイコンに[＋]が表示されます。
- 白黒のフィルムモードは、[彩度]を調整できません。
- インテリジェントオートモード、アドバンスシーンモード、シーンモード時はフィルムモードを調整することはできません。

マルチフィルムブラケット

シャッターボタンを押すごとに、設定に従ってフィルムの種類を変えながら撮影します。(最大3枚)

1 [◀]/[▶]をタッチして、[マルチフィルム]を選ぶ

2 [マルチフィルム1]、[マルチフィルム2]、[マルチフィルム3]を選び、それぞれに設定するフィルムを、[◀]/[▶]をタッチして選ぶ

● [マルチフィルム3]のみ[OFF]が選択できます。

3 [決定]をタッチする

● シャッターボタン半押しでも決定できます。

4 ピントを合わせて撮影する

● 連写時は、シャッターボタンを押したままにすると連続撮影されます。(最大3枚)
● セルフタイマー撮影時は、1回シャッターボタンを押すと設定したフィルムが自動的に最大3枚撮影されます。([ ]に設定しても、[ ]と同じ動作になります)
● 設定枚数分がすべて撮影されるまで画面に表示されるマルチフィルム表示([ ])が点滅します。

お知らせ

● お買い上げ時は、[マルチフィルム1]、[マルチフィルム2]に[スタンダード]、[マルチフィルム3]に[OFF]が設定されています。
● **マルチフィルムブラケットを設定すると、ホワイトバランスブラケットは解除されます。**
● 動画撮影時は、[マルチフィルム1]の設定内容で撮影されます。

絞り/シャッタースピードを決めて撮る

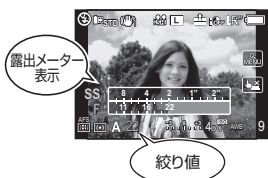
撮影モード：[A][S]

[A]：絞り優先AE

背景までピントを合わせて撮りたいときは絞り値を大きく、背景をぼかして撮りたいときは絞り値を小さくしてください。

1 モードダイヤルを[A]に合わせる

2 後ダイヤルを回して絞り値を設定する

- 後ダイヤルを押すごとに、絞り設定操作と露出補正操作が切り換わります。
- 後ダイヤルを回すと、[露出メーター]が表示されます。(P135)

3 撮影する

[S]：シャッター優先AE

動きを止めて撮りたいときはシャッタースピードを速く、動きを表現したいときにはシャッタースピードを遅くしてください。

1 モードダイヤルを[S]に合わせる

2 後ダイヤルを回してシャッタースピードを設定する

- 後ダイヤルを押すごとに、シャッタースピード設定操作と露出補正操作が切り換わります。
- 後ダイヤルを回すと、[露出メーター]が表示されます。(P135)

3 撮影する

お知らせ

- **動画撮影時は、通常の動画撮影になります。**
- カスタムメニューの[露出設定切換](P136)で、露出補正の切り換えかたを変更できます。
- タッチ操作時のクイックメニュー(P34)では、絞り値またはシャッタースピードをタッチし、露出メーターバーをタッチすると、絞り値またはシャッタースピードの設定ができます。
- 液晶モニター/ファインダーの明るさは、実際に撮影される画像と異なる場合があります。再生画面で確認してください。
- 絞り優先 AE のとき、明るすぎる場合は絞り値を大きくし、暗すぎる場合は絞り値を小さくしてください。
- 絞り優先AEのときに絞りリングのあるレンズを使用する場合は、絞りリングの位置を[A]にすると後ダイヤルの設定が有効になり、[A]以外では絞りリングの設定が優先されます。
- 明るすぎる、暗すぎるなど、適正露出にならないときは、絞り値とシャッタースピードの数値が赤色になり点滅します。
- シャッタースピードが遅いときは、三脚を使うことをおすすめします。
- シャッター優先AEのフラッシュ発光時は、シャッタースピードが1/160秒より速い設定はできません。(P66)
- シャッター優先AEのとき、シャッタースピードが遅いときは、シャッターボタンを全押しすると、シャッタースピードの表示がカウントダウンします。
- シャッター優先AEのとき、[⚡S]および[⚡S◎]は設定できません。
- ISO感度が[iISO]のときに、撮影モードをシャッター優先AEに切り換えると、ISO感度は[AUTO]になります。

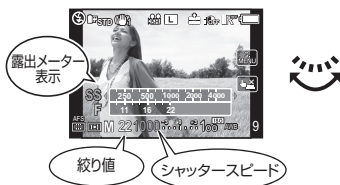
手動で露出を合わせて撮る（M：マニュアル露出）

撮影モード：M

絞り値とシャッタースピードを手動で設定して、露出を決定します。
露出の状態の目安を示す、マニュアル露出アシストが画面下部に表示されます。

1 モードダイヤルを[M]に合わせる

2 後ダイヤルを回して絞り値とシャッタースピードを設定する

- 後ダイヤルを押すごとに、絞り設定操作とシャッタースピード設定操作が切り換わります。
- 後ダイヤルを回すと、[露出メーター]が表示されます。（P135）
- フォーカスモードレバーを[MF]に合わせると、マニュアルフォーカスでピントを合わせることもできます。（P80）

3 シャッターボタンを半押しする

- 適正露出にならない場合は、絞り値とシャッタースピードを設定し直してください。

4 撮影する

■ マニュアル露出アシストについて

−3 0 +3	適正露出になります。
−3 0 +3	シャッタースピードを速くするか、絞り値を大きくしてください。
−3 0 +3	シャッタースピードを遅くするか、絞り値を小さくしてください。

- マニュアル露出アシストは目安です。再生画面で確認しながら撮影することをおすすめします。

手動で露出を合わせて撮る（M：マニュアル露出）（つづき）

撮影モード：M

■ B(バルブ)について

シャッタースピードをB（バルブ）に設定すると、シャッターボタンを全押ししている間、シャッターが開いた状態になります。（最大約4分間）
シャッターボタンを離すと、シャッターが閉じます。
花火や夜景撮影などで、長時間シャッターを開けておきたいときに使います。

- シャッタースピードをB（バルブ）に設定すると、画面に[B]が表示されます。
- バルブ撮影時は、十分に充電されたバッテリー（P25）を使用してください。
- バルブ撮影時は、三脚やシャッターリモコン（別売：DMW-RSL1）の使用をおすすめします。シャッターリモコンについては、176ページをお読みください。
- バルブ撮影すると、ノイズが目立つことがあります。ノイズが気になるときは、撮影メニューの[長秒ノイズ除去]を[ON]にして撮影することをおすすめします。（P128）
- マニュアル露出アシストは表示されません。

お知らせ

- **動画撮影時は、通常の動画撮影になります。**
- カスタムメニューの[露出設定切換]（P136）で、絞り設定とシャッタースピード設定の切り換えかたを変更できます。
- タッチ操作時のクイックメニュー（P34）では、絞り値またはシャッタースピードをタッチし、露出メーターバーをタッチすると、絞り値またはシャッタースピードの設定ができます。
- 液晶モニター/ファインダーの明るさは、実際に撮影される画像と異なる場合があります。再生画面で確認してください。
- シャッターボタンを半押ししたときに、適正露出にならないときは、絞り値とシャッタースピードの数値が赤色になり点滅します。
- フラッシュの[⚡A]、[⚡A◎]、[⚡S]、[⚡S◎]は設定できません。
- ISO感度が[AUTO]または[iISO]のときに、撮影モードをマニュアル露出に切り換えると、ISO感度は[ISO100]になります。
- シャッタースピードが遅いときは、シャッターボタンを全押しすると、シャッタースピードの表示がカウントダウンします。
- 絞りリングのあるレンズを使用するときは、絞りリングの設定が優先されます。

絞り効果とシャッタースピード効果を確認する(プレビューモード)

撮影モード: iA P A S M CUST SCN

絞り効果を確認する

実際に撮影される絞り値までレンズの絞り羽根を物理的に絞り込むことにより、被写界深度(ピントの合っている範囲)を確認することができます。

[ ](プレビュー)を押す

●プレビュー画面が表示されます。
もう一度[ ]を押すと元の画面に戻ります。

ボタン

■ 被写界深度の性質

撮影条件			
	絞り値	小さい	大きい
	レンズの焦点距離	望遠	広角
	被写体までの距離	近い	遠い
被写界深度(ピントの合っている範囲)		浅い(狭い) 例:背景をぼかして撮りたいときなど	深い(広い) 例:背景までピントを合わせて撮りたいときなど

シャッタースピード効果を確認する

実際に撮影されるシャッタースピードでの画面を表示し、動きを確認することができます。シャッタースピードを速く設定すると、シャッタースピードプレビュー画面での画面表示がコマ落としのように表示されます。水の流れなど、動きを止めて撮影したいときに確認してください。

プレビュー画面表示中に [DISPLAY] を押す

●シャッタースピードプレビュー画面が表示されます。もう一度[DISPLAY]を押すと元の画面に戻ります。

お知らせ

●カスタムメニューの[プレビュー維持](P135)で[ ]の操作方法を変更できます。
●プレビューモード中でも撮影することができます。
●シャッタースピード効果確認の範囲は、8秒〜1/1000秒です。

人物や風景を表情豊かに撮る（アドバンスシーンモード）

撮影モード：

▲/▼/◀/▶はカーソルボタンの上下左右を表しています。

人物、風景、スポーツ、花、夜景&人物などの被写体では、撮影状況に合わせてより効果的な撮影ができます。

1 モードダイヤルを合わせる

2 ◀/▶でアドバンスシーンモードを選ぶ

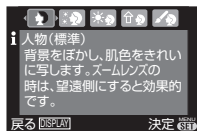
● 後ダイヤルでも設定できます。

（例）選択時

3 [MENU/SET]を押して決定する

● 選択したアドバンスシーンモードの撮影画面になります。

■ インフォメーションについて

● 手順**2**でアドバンスシーンモードを選んだときに[DISPLAY]を押すと、選択されているアドバンスシーンモードの説明が表示されます。（もう一度押すと手順**2**の画面に戻ります）

お知らせ

● アドバンスシーンモードを変更したい場合は、[MENU/SET]を押し▲/▼/◀/▶でアドバンスシーンモードメニュー[SCN]を選んだ状態で▶を押して上記手順**2**に戻ります。

● アドバンスシーンモードを変更して使用すると、アドバンスシーンモードのフラッシュ設定は初期設定に戻ります。

● アドバンスシーンモードで用途に合わない場面を撮影すると、画像の色合いが変わる場合があります。

● アドバンスシーンモード時は、カメラが自動で最適に調整するため、以下の設定はできません。

・ISO感度/フィルムモードの[スタンダード]、[スタンダード B&W（白黒）]以外の項目/[測光モード]/[フラッシュシンクロ]/[超解像]/[暗部補正]/[ISO感度上限設定]/[デジタルズーム]

■ クリエイティブ設定時の絞り・シャッタースピードについて

● アドバンスシーンモードのクリエイティブを選択すると、絞り値・シャッタースピードを変更できます。後ダイヤルを回して適正露出にならないときは、絞り値とシャッタースピードの数値および選択カーソルが赤くなります。

● ◀/▶でも設定できます。

● 後ダイヤルを押すと、絞り設定操作またはシャッタースピード設定操作と、露出補正操作が切り換わります。

人物モード

人物を引き立て、肌色を健康的に出します。

	人物(標準)	背景をぼかし、肌色を健康的に撮影できます。
	美肌	肌の表面を特になめらかに表現します。 ●背景などに肌色に近い色をした個所があると、その部分も同時になめらかになります。 ●明るさが不十分なときは、効果がわかりにくい場合があります。
	屋外人物	明るい屋外で顔が暗くなるのを防ぎます。
	屋内人物	屋内での被写体ブレを防ぐため、最適なISO感度設定を行います。
	クリエイティブ人物	絞り値(P94)を変更することで、背景のぼけ具合を変えることができます。

撮影のテクニック

●ズームはできるだけ望遠にし、被写体までの距離を近くにするとより効果が出ます。

お知らせ

●**動画撮影時は、[人物(標準)]、[美肌]、[屋外人物]、[屋内人物]は各モードの設定が反映された動画に、[クリエイティブ人物]は人物撮影に適した動画になります。**
●[屋内人物]ではインテリジェントISOが働き、最高ISO感度が[ISO400]になります。
●オートフォーカスモードの初期設定は[ ]になります。

風景モード

広がりのある風景を撮影できます。

	風景(標準)	遠くにある被写体に優先的にピントを合わせます。
	自然	自然の風景を撮るのに適しています。
	建物	建物がシャープに写る設定です。ガイドラインを表示します。(P61)
	クリエイティブ風景	[風景(標準)]の設定で、シャッタースピード(P94)の変更ができます。

お知らせ

●**動画撮影時は、[風景(標準)]、[自然]、[建物]は各モードの設定が反映された動画に、[クリエイティブ風景]は風景撮影に適した動画になります。**
●**フラッシュは[ ]になります。**
●オートフォーカスモードの初期設定は[ ]になります。

人物や風景を表情豊かに撮る（アドバンスシーンモード）（つづき）

撮影モード：

スポーツモード

スポーツシーンなど、動きの速い場面を撮りたいときなどに合わせてください。

	スポーツ(標準)	速めのシャッタースピードで動きを止めながら、ISO感度もコントロールします。
	屋外スポーツ	天気の良い屋外撮影で動きを止めるために、速いシャッタースピードになります。
	屋内スポーツ	屋内撮影でのブレを防ぐため、ISO感度を高くしてシャッタースピードを速くします。
	クリエイティブスポーツ	[スポーツ(標準)]の設定で、シャッタースピード(P94)の変更ができます。

お知らせ

- **動画撮影時は、[スポーツ(標準)]、[屋外スポーツ]、[屋内スポーツ]は各モードの設定が反映された動画に、[クリエイティブスポーツ]はスポーツ撮影に適した動画になります。**
- オートフォーカスモードの初期設定は[■]になります。

クローズアップモード

花などの被写体に近づいて撮りたいときに合わせてください。
（近接して撮影できる距離は、使用するレンズにより異なります）

	花	マクロの設定で屋外の花を自然な色で撮影できます。ガイドラインを表示します。(P61)
	料理	レストランなどで、周囲の光に影響されずに料理を自然な色調にします。 ●オートフォーカスモードを[]に設定した場合は、[■]に変わります。
	コレクション	アクセサリーやコレクションなどの小物を、くっきり明るく、色鮮やかに撮影できます。
	クリエイティブクローズアップ	マクロの設定で、絞り値(P94)を変更することで、背景のぼけ具合を変えることができます。

お知らせ

- **動画撮影時は、[花]、[料理]、[コレクション]は各モードの設定が反映された動画に、[クリエイティブクローズアップ]は近接撮影に適した動画になります。**
- 三脚を使用し、セルフタイマーを使って撮影することをおすすめします。
- 近距離で撮影する場合は、フラッシュを[]にすることをおすすめします。
- ピントが合う範囲については、82ページの「撮影距離基準について」をお読みください。

- 被写体が近い場合は、ピントの合っている範囲が非常に狭くなりますので、ピントを合わせたあと、カメラと被写体との距離が変化するとピントが合いにくくなります。
- クローズアップモード撮影時は近距離側を優先するため、遠くの被写体を撮影する場合は、ピントが合うのに時間がかかります。
- 近距離で撮影する場合は、画像の周辺部の解像度が少し低下する場合がありますが、故障ではありません。
- レンズに指紋やほこりなどの汚れがついていると、レンズにピントが合ってしまい被写体にピントが合わない場合がありますのでお気をつけください。
- オートフォーカスモードの初期設定は[■]になります。

夜景&人物モード

人物とともに背景も見た目に近い明るさに撮影できます。

	夜景 & 人物	夜景を背景に人物を撮る際に使います。 ● **フラッシュを開いてください。([⚡S◎]に設定できます)** ● オートフォーカスモードの初期設定は[顔]になります。
	夜景	スローシャッターにより、夜景が鮮やかに写ります。 ● **フラッシュは[⊘]になります。** ● オートフォーカスモードの初期設定は[▦]になります。 ● オートフォーカスモードを[顔]に設定した場合は、[▦]に変わります。
	イルミネーション	イルミネーションをきれいに写します。 ● **フラッシュは[⊘]になります。** ● オートフォーカスモードの初期設定は[▦]になります。 ● オートフォーカスモードを[顔]に設定した場合は、[▦]に変わります。
	クリエイティブ夜景	[夜景]の設定で、絞り値(P94)を変更することができます。 ● **フラッシュは[⊘]になります。** ● オートフォーカスモードの初期設定は[▦]になります。

撮影のテクニック
- 三脚を使用し、セルフタイマーを使って撮影することをおすすめします。
- [夜景&人物]選択時は、被写体の人に撮影後約1秒間は動かないように伝えてください。

お知らせ
- **動画撮影時は、薄暗い室内や夕暮れ時でもきれいに撮影できるローライト設定( )の動画になります。**
- 暗い場面で撮影すると、ノイズが目立つことがあります。
- 撮影後に、シャッターが閉じたままになることがありますが、信号処理のためで、異常ではありません。

撮影シーンに合わせて撮る（SCN：シーンモード）

撮影モード：SCN

▲/▼/◀/▶はカーソルボタンの上下左右を表しています。

被写体や撮影状況に合わせてシーンモードを選択すると、カメラが最適な露出や色調を設定し、シーンに合った撮影ができます。

1 モードダイヤルを［SCN］に合わせる

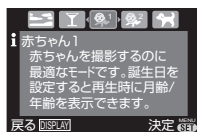
2 ▲/▼/◀/▶でシーンモードを選ぶ

- 後ダイヤルでも設定できます。

3 ［MENU/SET］を押して決定する

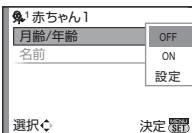
- 選択したシーンモードの撮影画面になります。

■ iインフォメーションについて

- 手順**2**でシーンモードを選んだときに［DISPLAY］を押すと、選択されているシーンモードの説明が表示されます。（もう一度押すとシーンモードのメニュー画面に戻ります）

お知らせ

- シーンモードを変更したい場合は、［MENU/SET］を押し▲/▼/◀/▶でシーンモードメニュー［SCN］を選んだ状態で▶を押して、上記手順**2**に戻ります。
- シーンモードを変更して使用すると、シーンモードのフラッシュ設定は初期設定に戻ります。
- シーンモードで用途に合わない場面を撮影すると、画像の色合いが変わる場合があります。
- シーンモード時は、カメラが自動で最適に調整するため以下の設定はできません。
  - ・ISO感度/フィルムモードの［スタンダード］、［スタンダードB&W（白黒）］以外の項目/［測光モード］/［フラッシュシンクロ］※/［超解像］/［暗部補正］/［ISO感度上限設定］/［デジタルズーム］
  - ※［背景ボケ］時のみ設定できます。

項目	設定・お知らせ
夕焼け 夕焼けの風景を撮りたいときに合わせてください。赤色を鮮やかに撮影できます。	● **フラッシュは［⚡̸］になります。** ● オートフォーカスモードの初期設定は［▦］になります。
パーティー 結婚式や室内でのパーティーなどで撮影したいときに合わせてください。人物とともに背景も見た目に近い明るさに撮影できます。	**撮影のテクニック** ● **フラッシュを開いてください。（［⚡S◎］または［⚡◎］に設定できます）** ● 三脚を使用し、セルフタイマーを使って撮影することをおすすめします。 ● オートフォーカスモードの初期設定は［顔］になります。

項目	設定・お知らせ
赤ちゃん1/ 赤ちゃん2 赤ちゃんの肌を健康的に出し、フラッシュ使用時にはフラッシュの光が通常より弱めに発光します。 [赤ちゃん1]と[赤ちゃん2]のそれぞれに、異なる誕生日や名前を設定できます。これらは、再生時に表示させたり、[文字焼き込み](P146)で撮影画像に焼き込むことができます。	**誕生日/名前を設定する** 赤ちゃん1 / 月齢/年齢 / 名前 / OFF / ON / 設定 / 選択 / 決定 MENU SET **1 ▲/▼で[月齢/年齢]または[名前]を選び、▶を押す** **2 ▲/▼で[設定]を選び、[MENU/SET]を押す** **3 誕生日/名前を入力する** 誕生日: ◀/▶:項目(年・月・日)選択、▲/▼:設定、[MENU/SET]:終了 名前: 文字入力の方法については139ページの「文字を入力する」をお読みください。 ● 誕生日/名前を設定すると、[月齢/年齢]または[名前]は自動で[ON]になります。 ● 誕生日/名前が登録されていない場合に[ON]にすると、自動的に設定画面が表示されます。 **4 [MENU/SET]を押して終了する** **月齢/年齢や名前の表示を解除するには** 「誕生日/名前を設定する」の手順**2**で[OFF]に設定してください。 ● **動画撮影時は、[人物(標準)]の設定が反映された動画になります。また、動画撮影中に記録した写真(P111)には、月齢/年齢や名前は記録されません。** ● CD-ROM(付属)のソフトウェア「PHOTOfunSTUDIO 5.0 HD Edition」を使って月齢/年齢や名前をプリントすることができます。 ● 誕生日や名前を設定していても[月齢/年齢]または[名前]を[OFF]にしていると月齢/年齢や名前は表示されません。撮影前に[月齢/年齢]または[名前]を[ON]にしてください。 ● インテリジェントISOが働き、最高ISO感度は[ISO400]になります。 ● 電源を入れたときに約5秒間、月齢/年齢と名前が現在日時とともに画面の左下に表示されます。 ● 月齢/年齢が正しく表示されないときは、時計設定または誕生日設定を確認してください。 ● [設定リセット]で誕生日設定と名前設定のリセットができます。 ● オートフォーカスモードの初期設定は[ ]になります。

撮影シーンに合わせて撮る（SCN：シーンモード）（つづき）

撮影モード：SCN

▲/▼/◄/► はカーソルボタンの上下左右を表しています。

項目	設定・お知らせ
ペット 犬や猫などのペットを撮りたいときに合わせてください。ペットの誕生日や名前を設定できます。これらは再生時に表示させたり、[文字焼き込み]（P146）で撮影画像に焼き込むことができます。	[月齢/年齢]、[名前]については、103ページの[赤ちゃん1]/[赤ちゃん2]をお読みください。 ● **動画撮影時は、通常の動画撮影になります。** ● [AF補助光]の初期設定は[OFF]になります。 ● インテリジェントISOが働き、最高ISO感度は[ISO800]になります。 ● オートフォーカスモードの初期設定は[ ]になります。 ● その他のお知らせについては、[赤ちゃん1]/[赤ちゃん2]をお読みください。
背景ボケ ピントを合わせる被写体をかんたんに指定し、背景をぼかして被写体を引き立てます。	**AF エリアを設定する** **1　被写体をタッチし、AFエリアを移動する** ● カーソルボタンを▲/▼/◄/► に押しても、AFエリアを移動できます。 ● 画面内の自由な位置に設定できます。（画面の端には設定できません） **2　撮影する** ● **動画撮影時は、通常の動画撮影になります。** ● クイックAFが自動的に働きます。 ● ホワイトバランス設定（P85）、フィルムモード設定（P91）、Fnボタン設定（P132）は、クイックメニュー（P34）を使って設定してください。 ● ▲/▼/◄/► を押すと、AFエリア設定画面が表示されます。[ ]を押すとAFエリアは中央に戻ります。 ● 被写体および背景までの距離や使用するレンズによっては、得られる効果に差があります。できるだけ被写体に近づいて撮影することをおすすめします。（P82） ● オートフォーカスモードは[■]（AFエリアの大きさは「スポット」）に固定されます。

色を調整しながら撮る（: マイカラーモード）

撮影モード：

▲/▼/◀/▶はカーソルボタンの上下左右を表しています。

被写体を液晶モニターまたはファインダーに映して（ライブビュー）手軽に確認しながら、お好みの効果を設定して撮影することができます。

1 モードダイヤルを［］に合わせる

2 ［◀］/［▶］をタッチして、項目を選ぶ

項目	効果	項目	効果
ポップ	色を強調したポップアート風の画像効果です。	モノクローム	モノクロ写真ならではのトーンで被写体をとらえ、わずかな色を載せて描き出した画像効果です。
レトロ	色あせた写真の雰囲気をかもし出した、柔らかい画像効果です。	ダイナミックアート	暗いところから明るいところまで適度な明るさで描き出し、色を強調した印象的な画像効果です。
ピュア	すがすがしく明るい光で、清涼感のある画像効果です。（明るく少し青っぽい画像に仕上げます）	シルエット	空や夕焼けなどの背景色も生かして、影になっている被写体を黒いシルエットで強調したような画像効果です。
シック	重厚感を少しかもし出した、落ち着いた雰囲気の画像効果です。（少し暗くアンバーよりの画像に仕上げます）	カスタム※	色の効果をお好みで設定できます。

※ ［カスタム］設定については106ページをお読みください。

3 ［決定］をタッチする

- シャッターボタン半押しでも決定できます。
- 撮影画面が表示されます。

■ マイカラーを設定し直す

後ダイヤルまたは▲/▼/◀/▶のいずれかを押し、上記手順2に戻る

- Fnボタン設定（P132）は▼では操作できなくなります。クイックメニュー（P34）を使って設定してください。

お知らせ

- **動画撮影時は、マイカラーモードの設定が反映された動画になります。**
- 設定したマイカラー設定は、電源を［OFF］にしても記憶しています。
- マイカラーモード時は、オートブラケット撮影はできません。
- ISO感度は［AUTO］に固定されます。
- ［暗部補正］/［色空間］は、マイカラーモードを［カスタム］に設定しているときのみ設定できます。
- マイカラーモード時は、カメラが自動で最適に調整するため以下の設定はできません。
  ・フィルムモード/［フラッシュ］/［フラッシュシンクロ］/［ISO感度上限設定］

色を調整しながら撮る（: マイカラーモード）（つづき）

撮影モード：

カスタムの設定をお好みに応じて調整する

[カスタム]を選んだときに、お好みで光の色、明るさ、色の鮮やかさを調整して撮影することができます。

1 [◀]/[▶]をタッチして、[カスタム]を選ぶ

2 選びたい項目を、タッチする

項目	調整内容
光の色	画像の色合いを赤っぽい光から青っぽい光まで調整します。(±5の11段階)
明るさ	画像の明るさを調整します。(±5の11段階)
鮮やかさ	色の濃さを白黒から鮮やかな画像まで調整します。(±5の11段階)
リセット	すべての設定を標準に戻します。

3 スライドバーをタッチする

4 [決定]をタッチする
- シャッターボタン半押しでも決定できます。
- 撮影画面が表示されます。

■ [カスタム] 設定を標準に戻す

1 上記手順**2**で[リセット]を選ぶ

2 [はい]を選び、タッチする
- 各項目の調整値が標準（中心点）に戻ります。

お知らせ
- [カスタム]設定で行った調整は、他の撮影モードには反映されません。
- [カスタム]設定を調整すると、画面に調整した項目のアイコンが表示されます。表示されるアイコンは、調整した方向のものが表示されます。
- [鮮やかさ]で色を薄くなるように調整した場合は、追尾AFが働かないことがあります。

お好みのメニュー設定を登録する（カスタムセット登録）

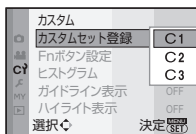
撮影モード：P A S M CUST ■P SCN

▲/▼/◀/▶はカーソルボタンの上下左右を表しています。

現在のカメラの設定内容をカスタムセットとして3つまで登録しておくことができます。

- あらかじめ、保存したい状態のモードダイヤルに合わせ、本機でメニュー設定をしておいてください。

1 カスタムメニューから[カスタムセット登録]を選ぶ(P32)

2 ▲/▼で登録したいカスタムセットを選び、[MENU/SET]を押す

3 ▲で[はい]を選び、[MENU/SET]を押す

- [はい]を選ぶと、前に保存していた設定が上書きされます。
- 以下のメニュー項目は他の撮影モードに反映されるため、保存されません。
  - ・[時計設定]
  - ・[トラベル日付]
  - ・[番号リセット]
  - ・[設定リセット]
  - ・[シーンメニュー]
  - ・シーンモードの[赤ちゃん1]/[赤ちゃん2]、[ペット]の誕生日および名前設定

  - ・[個人認証]で登録されたデータ

4 [MENU/SET]を押してメニューを終了する

- シャッターボタン半押しでも終了できます。

カスタムモードで撮る（CUST：カスタムモード）

撮影モード：CUST

▲/▼/◀/▶はカーソルボタンの上下左右を表しています。

撮影状況などに合わせて、[カスタムセット登録]で保存した登録パターン（カスタムセット）を選択することができます。
お買い上げ時、カスタムセットにはプログラムAEモードの初期設定が登録されています。

1 モードダイヤルを[CUST]に合わせる

2 [MENU/SET]を押して、メニューを表示する

3 ▲/▼で使いたいカスタムセットを選ぶ

- ▶を押すと、メニューの設定内容が表示されます。
  （[削除]を押すと選択画面に戻ります）
- 一部のメニュー項目のみ表示されます。（表示されるメニュー項目については下記を参照してください）

C1 カスタムセット1			
AFL AEL	AE	P-AF	OFF
AFL·AEL HOLD	OFF	Fn	
AF+MF	OFF	（オートレビュー）	3秒
FOCUS	ON	NR	ON
AF✳	ON	（レンズ無しレリーズ）	OFF
戻る		決定	

AFL AEL	AF/AEロック切換	P-AF	プリAF
AFL·AEL HOLD	AF/AEロック維持	Fn	Fnボタン設定
AF+MF	AF+MF	（アイコン）	オートレビュー
FOCUS	フォーカス優先	NR	長秒ノイズ除去
AF✳	AF補助光	（アイコン）	レンズ無しレリーズ

4 [MENU/SET]を押して決定する

- 選択されているカスタムセット表示が画面に表示されます。

■ メニュー設定を変更する場合は

カスタムセットのいずれかを選択した状態で一時的にメニュー設定を変更しても、登録内容は変更されません。
登録内容を変更する場合は、カスタムメニューの[カスタムセット登録]（P107）で登録内容を上書きしてください。

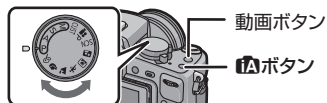
お知らせ

- 以下のメニュー項目を変更した場合、他の撮影モードにも反映されます。
  - ·[時計設定]
  - ·[トラベル日付]
  - ·[番号リセット]
  - ·[設定リセット]
  - ·[シーンメニュー]
  - ·シーンモードの[赤ちゃん1]/[赤ちゃん2]、[ペット]の誕生日および名前設定
  - ·[個人認証]で登録されたデータ

動画を撮る

撮影モード：iA P A S M CUST 動画P SCN 人物 風景 スポーツ クローズアップ 夜景&人物 マイカラー

AVCHD規格に準拠したハイビジョン映像や、Motion JPEGで記録される動画を撮影できます。音声はモノラルで記録されます。ステレオマイクロホン(別売:DMW-MS1)装着時は、ステレオでも音声を記録できます。ステレオマイクロホンについては、177ページをお読みください。
使用するレンズにより、動画撮影中に働く機能に差があります。
また、レンズの動作音などが記録される場合があります。詳しくは、20ページをお読みください。
- 動画撮影中に写真を撮影することもできます。

1 モードを選ぶ

■ 動画撮影できるモードについて

項目	設定・お知らせ
iA インテリジェントオートモード	被写体や撮影状況に合わせてカメラが最適な設定を行うので、カメラまかせで気軽に動画を撮影できます。
P、A、S、Mモード	絞りやシャッタースピードを自動で設定して動画を撮影できます。
動画Pモード(P115)	露出補正や絞り設定を変更して動画を撮影できます。
CUST カスタムモード	選択したカスタムモードの設定で動画を撮影できます。
SCN シーンモード	それぞれのシーンに合った動画を撮影できます。(P102～104)
人物モード	人物撮影に適した動画を撮影できます。
風景モード	風景撮影に適した動画を撮影できます。
スポーツモード	スポーツ撮影に適した動画を撮影できます。
クローズアップモード	近接撮影に適した動画を撮影できます。
夜景&人物モード	薄暗い室内や夕暮れ時でもきれいに撮影できるローライト設定( )の動画を撮影できます。
マイカラーモード	マイカラーモードの設定で動画を撮影できます。

2 フォーカスモードを設定する

■ フォーカスモードの設定について

ピント合わせは、フォーカスモードと動画撮影メニューの[AF連続動作](P131)の設定によって異なります。

フォーカスモード	AF連続動作	設定
AFS/AFC	ON	ピントを合わせ続けることができます。 また、シャッターボタン半押しでピントを合わせることができます。
	OFF	シャッターボタン半押しでピントを合わせることができます。
MF	ON	手動でピントを合わせることができます。
	OFF	

応用・撮影

動画を撮る（つづき）

撮影モード：iA P A S M CUST 🎥P SCN

- 撮影環境や使用レンズによっては、動画撮影時にオートフォーカスが働くと、動作音が記録される場合があります。動作音が気になる場合は、[AF連続動作]（P131）を[OFF]に設定するなどして、撮影することをおすすめします。

3 動画ボタンを押して撮影を開始する

- 本機内蔵のマイクより、音声も同時に記録されます。（音声なしで動画を記録することはできません）
- 動画の記録中は、記録動作表示（赤）が点滅します。
- 撮影中、ピントが合いにくいときは、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせてください。
- ステレオマイクロホン（別売：DMW-MS1）装着時は、電池の状態および電源が入っていることをご確認ください。（P177）

4 再度動画ボタンを押して撮影を終了する

- 動画ボタンを押すと動画撮影開始／終了を知らせる音が鳴ります。
  音量は[電子音]（P35）で設定することができます。
- 記録途中でカードの容量がいっぱいになると、自動的に撮影が終了します。

お知らせ

- **動画撮影メニューについては131ページをお読みください。**
- **フラッシュは[⚡︎]になります。**
- 記録可能時間は、カスタムメニューの[残枚数／残時間切換]（P137）を[残時間]に設定すると表示されます。
- 記録可能時間については202ページをお読みください。
- 画面に表示される記録可能時間は、規則正しく減少しない場合があります。
- カードの種類によっては、動画記録後、カードアクセス表示がしばらく出る場合がありますが、異常ではありません。
- 動画撮影時は、マイクの穴を指などでふさがないでください。
- 動画撮影中にズームやボタン操作などをすると、その動作音が記録される場合があります。
- 記録開始時の約0.5秒間、音声が録音されません。動画ボタンを押したあと、すぐに離してください。
- 動画撮影時の環境によっては、静電気や電磁波などにより、一瞬画面が黒くなったり、ノイズが記録される場合があります。
- 動画撮影時にズーム操作を行うと、ピントが合うまでに時間がかかることがあります。
- [EX光学ズーム]を[ON]に設定している場合は、写真と動画のズーム倍率が異なるため、写真撮影画面と動画撮影画面が切り換わる際に、画角が変わります。（P54）
- 画像横縦比の設定が写真と動画で異なる場合、動画撮影開始時に画角が変わります。[記録枠表示]（P137）を[🎥]に設定すると、動画撮影時の画角が表示されます。
- 動画撮影中は、ISO感度は[AUTO]（動画用）の動作になります。
- 動画撮影時は、[手ブレ補正]を[MODE2]または[MODE3]に設定していても、[MODE1]に固定されます。
- 動画撮影時は、以下の機能は使えません。
  - ・オートフォーカスモードの[▦]（動画用マルチオートフォーカスモードに切り換わります）
  - ・縦位置検出機能
  - ・[個人認証]
  - ・[ISO感度上限設定]

● 動画を撮影する際は、十分に充電されたバッテリーまたはACアダプター（P178）の使用をおすすめします。
● ACアダプター（P178）を使用して動画を撮影している最中に、停電やACアダプターを抜くなどして電源の供給がとだえると、撮影途中の動画は記録されません。
● 極端に明るい場所や被写体を撮影したり、蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で撮影すると、色合いや画面の明るさが変わったり、画面に横帯が現れたりすることがあります。

同時記録（動画撮影中に写真を記録）について

動画撮影中でも写真を記録することができます。

動画撮影中に、シャッターボタンを全押しして撮影してください。

● タッチシャッター機能（P52）を使って、写真を撮影することもできます。

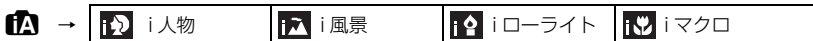
お知らせ

● 同時記録の写真は、画像横縦比[16:9]、記録画素数[S]（2 M）で記録されます。通常の写真の[S]（2 M）とは画質が異なる場合があります。
● 動画撮影中の写真の記録可能枚数は、最大20枚までです。
● [音声記録]を[ON]に設定時でも、音声なしで写真を記録します。
● クオリティを[RAW]、[RAW]または[RAW]に設定時はJPEG画像のみ記録されます。（[RAW]設定時はクオリティは[]で記録されます）
● 以下の場合、同時記録はできません。
・[MOTION JPEG]の[VGA]、[QVGA]設定時
・動画Pモード時

インテリジェントオートモードに設定した場合

● 手順**1**でインテリジェントオートモードを選ぶと、被写体や撮影状況に合わせた動画撮影を行うことができます。

■ 自動シーン判別について

カメラが最適なシーンを判別すると、各シーンのアイコンが2秒間青色で表示後、通常の赤色に変わります。

iA →	i人物	i風景	iローライト	iマクロ

● どのシーンにもあてはまらない場合は[iA]になり、標準的な設定を行います。
● [i人物] のときは、カメラが人の顔を自動的に検知し、認識した顔にピントや露出を合わせます。**（顔認識）**（P76）

お知らせ

● インテリジェントオートモード時の設定内容については 48 ページをお読みください。
● 以下のような条件によって、同じ被写体でも異なるシーンに判別される場合があります。
・被写体条件
顔の明暗／被写体の大きさ・色／被写体までの距離／被写体の濃淡／被写体が動いている場合
・撮影条件
夕暮れ／朝焼け／低照度／手ブレが発生した場合／ズーム倍率
● 意図したシーンで撮影したい場合は、目的に合った撮影モードで撮影することをおすすめします。

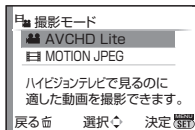
動画を撮る（つづき）

撮影モード：iA P A S M CUST 動画P SCN

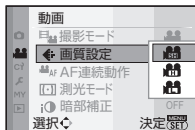
▲/▼/◀/▶ はカーソルボタンの上下左右を表しています。

撮影モードと画質設定を変更する

1 動画撮影メニューから[撮影モード]を選び、▶を押す(P32)

2 ▲/▼で項目を選び、[MENU/SET]を押す

記録形式	特徴
[AVCHD Lite]	●ハイビジョンテレビなどで再生する場合に適したデータ形式です。高精細な動画を長時間記録できます。 ●AVCHD対応機器にカードを入れて、そのまま再生できます。詳しくは、お使いの機器の説明書で対応を確認してください。 ●SDスピードクラス※が「Class4」以上のカードを使用してください。
[MOTION JPEG]	●パソコンなどで再生する場合に適したデータ形式です。小さな画像サイズでも記録できるので、メモリーカードの容量が残り少ないときや、あとでパソコンからメールに添付するときなどに便利です。 ●SDスピードクラス※が「Class6」以上のカードを使用してください。

※ SDスピードクラスとは、連続的な書き込みに関する速度規格です。

3 ▲/▼で[画質設定]を選び、▶を押す

▲/▼で項目を選び、[MENU/SET]を押す

手順2で[AVCHD Lite]を選んだ場合

	項目	画質(ビットレート)※1	コマ数	画像横縦比
高画質	([SH])	1280×720画素 約17 Mbps※2	60p (イメージセンサー出力 30コマ/秒)	16:9
↓↑	([H])	1280×720画素 約13 Mbps※2		
長時間	([L])	1280×720画素 約9 Mbps※2		

※1 「ビットレート」とは
一定時間あたりのデータの量で、この場合は数値が大きいほど高画質になります。本機はVBR記録方式を採用しています。VBRとはVariable Bit Rate(可変ビットレート)の略で、撮影する被写体により、ビットレート(一定時間あたりのデータの量)が自動的に変わる記録方式です。このため、動きの激しい被写体を記録した場合、記録時間は短くなります。

※2 「Mbps」とは
「Megabit Per Second」の略で、転送される速度を表します。

手順2で[MOTION JPEG]を選んだ場合

	項目	記録画素数	コマ数	画像横縦比
高画質	([HD])	1280×720画素	30コマ/秒	16:9
↓↑	※([WVGA])	848×480画素		
	([VGA])	640×480画素		4:3
長時間	([QVGA])	320×240画素		

※インテリジェントオートモード設定時、[MOTION JPEG]の[WVGA]は設定できません。

- [AVCHD Lite]または[MOTION JPEG]の[HD]では、HDMIミニケーブル(別売)を使用すると高画質な動画をテレビでお楽しみいただけます。
  詳しくは158ページの「HDMI端子付きテレビで見る」をお読みください。

5 [MENU/SET]を押してメニューを終了する

- シャッターボタン半押しでも終了できます。

動画を撮る（つづき）

撮影モード：iA P A S M CUST 🎥P SCN

お知らせ

- [AVCHD Lite]で動画を連続で撮影できるのは、最大13時間3分20秒までです。画面には13時間3分20秒までしか表示されません。ただし、バッテリー残量によっては、撮影が途中で終了する場合があります。(P26)
- [MOTION JPEG]で動画を連続で撮影できるのは、最大2 GBまでです。画面には、2 GBで記録できる最大記録可能時間までしか表示されません。
- 以下のようなカードを使用すると動画撮影が途中で終了する場合があります。
  - ・記録･消去が何度も繰り返されたカード
  - ・パソコンやその他の機器でフォーマットされたカード

  撮影前に、本機でカードをフォーマット(P39)することをおすすめします。フォーマットすると、カードに記録されているすべてのデータが消去されますので、大切なデータは事前にパソコンなどに保存しておいてください。
- 容量の大きなカードをご使用の場合は、電源を[ON]にしたあとしばらくの間撮影できない場合があります。
- **[AVCHD Lite]および[MOTION JPEG]で撮影された動画は、それぞれの対応機器であっても、再生すると画質や音質が悪くなったり、再生できない場合があります。また、撮影情報が正しく表示されない場合があります。この場合は、本機で再生してください。AVCHD対応機器について、詳しくは下記サポートサイトでご確認ください。**
  http://panasonic.jp/support/dsc/
- [AVCHD Lite]で撮影された動画はDCF/Exifに準拠していないため、再生時に一部の情報が表示されません。
- **本機では、音質の改善を目的として、音声の記録仕様を変更しました。**
  そのため[MOTION JPEG]で撮影した動画を、2008年7月以前に発売された当社製デジタルカメラ(LUMIX)で再生することはできません。

お好みの設定で動画を撮る（🎥P：動画Pモード）

撮影モード：🎥P

露出補正や絞りによる背景ぼけ具合を設定して動画を撮影することができます。

1 モードダイヤルを[🎥P]に合わせる

2 フォーカスモードを設定する(P109)

(P109)

3 後ダイヤルを押して、設定画面を切り換える

- 後ダイヤルを押すごとに、露出設定操作と背景ぼけ具合操作が切り換わります。

4 後ダイヤルを回して、設定を変更する

5 動画ボタンを押して撮影を開始する

6 再度動画ボタンを押して撮影を終了する

- 記録途中でカードの容量がいっぱいになると、自動的に撮影が終了します。
- シャッターボタンを押して、動画撮影を開始、終了することもできます。
- 動画ボタンまたはシャッターボタンを押すと動画撮影開始/終了を知らせる音が鳴ります。音量は[電子音](P35)で設定することができます。

■ フリッカー軽減機能について

動画撮影中にちらつきや横しまが目立つ場合、フリッカー軽減機能を[ON]に設定することができます。

1　[🗑]を押す

- フリッカー軽減機能が強制的に働き、シャッタースピードを1/100に調整します。

2　後ダイヤルを回す

- シャッタースピードを1/50、1/60、1/100、1/120から選択し、画面を見ながら最適な設定に調整できます。この場合は背景ぼけ具合操作はできません。

お知らせ

- ISO感度は[AUTO](動画用)に固定されます。
- [記録枠表示](P137)は[👥]に固定されます。
- [残枚数/残時間切換](P137)は[残時間]に固定されます。
- 背景ぼけ具合操作では、適正露出の範囲で絞り制御を行うため、被写体の明るさによっては選択カーソルを動かしても実際の絞りは変わらず、背景ぼけ具合に変化がない場合があります。(例えば、室内などの暗いシーンでは、選択カーソルを両端に動かしても絞りは開放のままでぼけ具合に変化がない場合があります。)
- その他の動画撮影時の設定や操作方法、お知らせについては、109ページの「動画を撮る」をお読みください。

個人認証機能を使って撮る

撮影モード：iA P A S M CUST SCN

個人認証とは、登録された顔に近い顔を見つけて、自動で優先的にピントや露出を合わせる機能です。集合写真などで大切な人が奥や隅にいても、大切な人の顔をきれいに撮影することができます。

お買い上げ時、[個人認証]は[OFF]に設定されています。
顔画像を登録すると自動的に[ON]になります。

● **個人認証機能では、以下の機能も働きます。**

撮影時

・カメラが登録した顔を認識時、名前を表示※（名前を設定している場合）

・撮影回数の多い顔をカメラが記憶し、自動的に登録画面を表示（[自動登録]を[ON]に設定している場合）

再生時

・名前や月齢/年齢の表示（情報を登録している場合）

・登録人物から選んだ人物の画像のみを再生（[カテゴリー再生]（P144））

※名前は3人まで表示されます。撮影時に表示される名前は登録順により決まります。

お知らせ

● [個人認証]は、オートフォーカスモードを[ ]に設定しているときのみ有効です。
● 連写撮影時は、1枚目のみ個人認証に関する撮影情報が付加されます。
● シャッターボタンを半押ししたあとで、違う被写体にカメラを向けて撮影をした場合、異なる人物の撮影情報が付加される場合があります。
● クローズアップモードの[料理]、夜景&人物モードの[夜景]、[イルミネーション]、シーンモードの[背景ボケ]および動画撮影では、[個人認証]は使用できません。
● フォーカスモードを[MF]に設定している場合は、自動登録は働きません。
● [設定リセット]で撮影設定をリセットすると、[個人認証]で登録されたデータはリセットされます。
● 個人認証は、登録した顔に近い顔を探しますので、確実な人物の認証を保証するものではありません。
● 個人認証では、顔の特徴を抽出し認証を行うため、通常の顔認識よりも時間がかかります。
● 個人認証情報を登録していても、名前を[OFF]にして撮影した画像は、[カテゴリー再生]の個人認証に分類されません。
● **個人認証情報を変更した場合（P119）でも、すでに撮影した画像の認証情報は変更されません。**
例えば、名前を変更すると、変更前に撮影した画像は[カテゴリー再生]の個人認証に分類されなくなります。
● 撮影した画像の名前情報を変更するには[認証情報編集]の[入換え]（P156）を行ってください。

顔画像を登録する

最大6人までの顔画像を名前や誕生日などの情報とともに登録できます。
同じ人物の顔画像を複数枚登録するなど(一登録につき最大3枚)、顔登録のしかたを工夫することにより個人認証されやすくなります。

■ 顔画像登録時の撮影ポイント

登録時の良い例

- 目を開き、口を閉じた状態で正面を向き、髪の毛で顔の輪郭、目や眉が隠れないようにする。
- 顔に極端な陰影が出ないようにする。(登録時、フラッシュは発光しません)

■ 撮影時に認証されにくいと感じたら

- 同じ人物の顔を室内と屋外で、または表情やアングルを変えて追加で登録する。(P119)
- 撮影するその場で追加して登録する。
- [感度]の設定を変更する。(P119)
- 登録している人物を認証しなくなった場合は、再度登録し直す。

認証されにくい例

- 登録している人物でも表情や環境によっては個人認証ができない、または正しく認証されない場合があります。
  - ・髪の毛が目や眉にかかっている(Ⓐ)
  - ・暗い/斜めから光が当たっている(Ⓑ)
  - ・斜めや横を向いている
  - ・上を向いている/下を向いている
  - ・目を閉じている
  - ・極端に明るいまたは暗い
  - ・サングラス、光で反射している眼鏡、髪、帽子などで隠れている
  - ・小さく写っている
  - ・顔全体が画面に収まっていない
  - ・年齢とともに顔の特徴が変化したとき
  - ・親子·兄弟姉妹など顔の特徴が似ている
  - ・表情が大きく違っている
  - ・顔の陰影が少ない
  - ・動きが速い
  - ・手ブレしている
  - ・デジタルズーム使用時

(Ⓐ)

(Ⓑ)

個人認証機能を使って撮る（つづき）

撮影モード：iA P A S M CUST SCN

▲/▼/◀/▶はカーソルボタンの上下左右を表しています。

新規登録

1 撮影メニューから[個人認証]を選び、▶を押す(P32)

2 ▲/▼で[登録]を選び、[MENU/SET]を押す

3 ▲/▼/◀/▶で未登録の顔画像枠を選び、[MENU/SET]を押す

4 ガイドに顔を合わせて撮影する

- 人物以外の被写体の顔(ペットなど)は、登録できません。
- 認識に失敗したときは、メッセージが表示され、撮影画面に戻ります。もう一度撮影してください。

5 ▲で[はい]を選び、[MENU/SET]を押す

6 ▲/▼で編集項目を選び、▶を押す

- 顔画像は3枚まで登録できます。

項目		設定内容
名前		名前を設定します。 **1** ▼で[設定]を選び、[MENU/SET]を押す **2** 名前を入力する ● 文字入力の方法については、139ページの「文字を入力する」をお読みください。
月齢/年齢		誕生日を設定します。 **1** ▼で[設定]を選び、[MENU/SET]を押す **2** ◀/▶で項目(年・月・日)を選んで▲/▼で設定し、[MENU/SET]を押す
追加登録	**追加登録**	顔画像を追加登録します。 **1** 未登録の顔画像枠を選び、[MENU/SET]を押す **2** 「新規登録」の手順4、5を行う **3** [🗑]を押す
	解除	顔画像を一枚消去します。 **1** ◀/▶で解除したい顔画像を選び、[MENU/SET]を押す **2** ▲で[はい]を選び、[MENU/SET]を押す **3** [🗑]を押す ● 画像が1枚しか登録されていない場合は、解除できません。

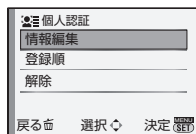
7 シャッターボタンを半押ししてメニューを終了する

■ iインフォメーションについて

● 118ページ手順**4**の撮影画面で[DISPLAY]を押すと、顔画像撮影の説明が表示されます。（もう一度押すと撮影画面に戻ります）

登録した人物の情報を変更または解除する

すでに登録している人物の顔画像や情報を変更することができます。また、登録している人物の情報を消去することができます。

1 撮影メニューから[個人認証]を選び、▶を押す（P32）
2 ▼で[登録]を選び、[MENU/SET]を押す
3 ▲/▼/◀/▶で編集または解除したい顔画像を選び、[MENU/SET]を押す
4 ▲/▼で項目を選び、[MENU/SET]を押す

項目	設定内容
情報編集	すでに登録している人物の情報を変更します。 **「新規登録」の手順6を行う**
登録順	登録順にピントや露出を合わせます。 **▲/▼/◀/▶で登録順を選び、[MENU/SET]を押す**
解除	すでに登録している人物の情報を消去します。 **▲で[はい]を選び、[MENU/SET]を押す**

5 シャッターボタンを半押ししてメニューを終了する

自動登録/感度を設定する

個人認証の自動登録や感度の設定ができます。

1 撮影メニューから[個人認証]を選び、▶を押す（P32）
2 ▼で[設定]を選び、[MENU/SET]を押す
3 ▲/▼で項目を選び、▶を押す

自動登録	[OFF]/[ON] ●[自動登録]を[ON]に設定すると自動的に[個人認証]が[ON]になります。 ●詳しくは、120 ページの「自動登録について」をお読みください。
感度	[高]/[標準]/[低] ●認証されにくいときは[高]を選んでください。認証されやすくなりますが、異なる人物を認証する可能性も高くなります。 ●異なる人物を認証することが多いときは[低]を選んでください。 ●設定を元に戻したいときは、[標準]を選んでください。

4 シャッターボタンを半押ししてメニューを終了する

個人認証機能を使って撮る（つづき）

撮影モード：iA P A S M CUST SCN

▲/▼/◀/▶ はカーソルボタンの上下左右を表しています。

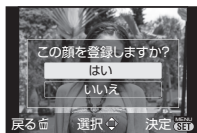
自動登録について

[自動登録]を[ON]に設定すると、撮影回数の多い顔に対して、撮影後、自動的に登録画面が表示されるようになります。

- 登録画面が表示される目安は3回です。(連写、オートブラケット、ホワイトバランスブラケット、マルチフィルムブラケット、[音声記録]設定時は撮影回数に含まれません)
- 自動登録だけでは極端に認証されにくい場合があります。あらかじめ撮影メニューの[個人認証]から顔画像登録を行ってください。

■ 自動登録画面から登録する

1 ▲で[はい]を選び、[MENU/SET]を押す

- 登録している人物が一人もいない場合は、手順**3**へ進んでください。
- [いいえ]を選ぶと再度選択画面が表示されます。
  ▲で[はい]を選ぶと、[自動登録]が[OFF]に設定されます。

2 ▲/▼で[新規登録]または[顔画像追加登録]を選び、[MENU/SET]を押す

新規登録	● すでに6人登録されているときは、登録人物の一覧が表示されます。入れ換える人物を選んでください。
顔画像追加登録	登録済みの人物に顔画像を追加登録します。 **▲/▼/◀/▶で追加登録する人物を選び、[MENU/SET]を押す** ● すでに顔画像が３枚登録されている場合は、画像入れ換えの画面が表示されます。入れ換える顔画像を選んでください。

- 顔画像の追加登録や入れ換えを行ったあとは、自動的に撮影画面に戻ります。

3 「新規登録」の手順6以降の操作を行う

お知らせ

- 登録画面がなかなか表示されない場合は、同じ環境や表情で撮影すると表示されやすくなります。
- 登録したにもかかわらず認証されない場合は、その場で撮影メニューの[個人認証]から登録し直すと認証されやすくなります。
- すでに登録した人物に対して登録画面が表示される場合は、そのまま追加登録を行うと認証されやすくなります。
- フラッシュ撮影された画像が登録されると、認証されにくくなる場合があります。

旅行先で便利な機能（トラベル日付/ワールドタイム）

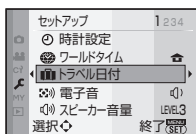
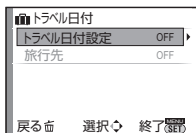
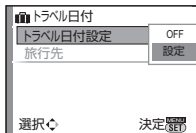
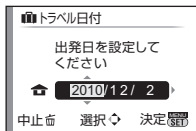
撮影モード：iA P A S M CUST SCN

▲/▼/◀/▶はカーソルボタンの上下左右を表しています。

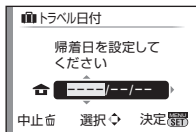
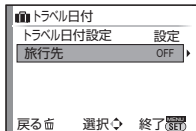
旅行の経過日数を記録する（トラベル日付）

旅行の出発日や旅行先を設定しておくと、撮影時に旅行の経過日数（何日目か）などが記録されます。記録された経過日数などは、再生時に表示させたり、[文字焼き込み]（P146）で撮影画像に焼き込むことができます。

- CD-ROM（付属）のソフトウェア「PHOTOfunSTUDIO 5.0 HD Edition」を使って経過日数や旅行先をプリントすることができます。
- **あらかじめ[時計設定]（P30）で、現在の時刻を合わせておいてください。**

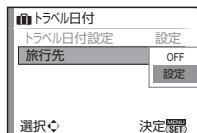
1 セットアップメニューから[トラベル日付]を選び、▶を押す（P32）

2 ▲で[トラベル日付設定]を選び、▶を押す

3 ▼で[設定]を選び、[MENU/SET]を押す

4 ▲/▼/◀/▶で出発日（年・月・日）を設定し、[MENU/SET]を押す

5 ▲/▼/◀/▶で帰着日（年・月・日）を設定し、[MENU/SET]を押す

- 帰着日を設定しない場合は、バー表示の状態で[MENU/SET]を押してください。

トラベル日付
帰着日を設定して
ください
----/--/--
中止　選択　決定

6 ▼で[旅行先]を選び、▶を押す

旅行先で便利な機能（トラベル日付/ワールドタイム）（つづき）

撮影モード：[iA][P][A][S][M][CUST][動画P][SCN]

▲/▼/◀/▶はカーソルボタンの上下左右を表しています。

7 ▼で[設定]を選び、[MENU/SET]を押す

8 旅行先を入力する

- 文字入力の方法については、139ページの「文字を入力する」をお読みください。

9 [MENU/SET]を2回押して終了する

10 撮影する

- 経過日数は、トラベル日付の設定後や設定した状態で本機の電源を入れたときなどに、約5秒間表示されます。
- トラベル日付を設定すると、画面右下に[ ]が表示されます。

■ トラベル日付を解除するには

現在の日付が帰着日を経過した場合は、自動的に解除されます。途中で解除したい場合は、手順**3**、**7**の画面で[OFF]を選び、[MENU/SET]を2回押してください。また、手順**3**で[トラベル日付設定]を[OFF]にした場合は、[旅行先]も自動的に[OFF]になります。

お知らせ

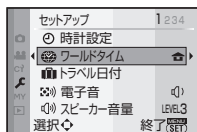
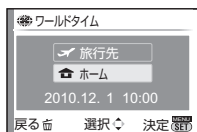
- トラベル日付は、設定された出発日と本機の時計設定の日付により計算されます。ワールドタイム(P123)を旅行先に設定している場合は、旅行先の日付により算出されます。
- 設定したトラベル日付は、電源を[OFF]にしても記憶しています。
- トラベル日付を[OFF]に設定すると、経過日数は記録されません。撮影後にトラベル日付を[設定]にしても表示されません。
- 出発日より前は、オレンジ色で－(マイナス)付きで表示され、日付情報は記録されません。
- トラベル日付が白色で－(マイナス)付きで表示される場合は[ホーム]と[旅行先]との間に、日付をまたぐ時差があります。(記録されます)
- [AVCHD Lite]で撮影された動画は[トラベル日付]を設定できません。
- 動画撮影の際、[旅行先]は記録できません。
- インテリジェントオートモードでは設定できません。他の撮影モードでの設定内容が反映されます。

海外旅行先の日時を記録する（ワールドタイム）

旅行先の時刻を表示し、撮影画像に記録することができます。

- **あらかじめ[時計設定]（P30）で、現在の時刻を合わせておいてください。**

1 セットアップメニューから[ワールドタイム]を選び、▶を押す（P32）

- お買い上げ時は、「ホームエリアを設定してください」と表示されます。[MENU/SET]を押し、手順**3**の画面から設定してください。

2 ▼で[ホーム]（お住まいの地域）を選び、[MENU/SET]を押す

3 ◀/▶でお住まいの地域を選んで、[MENU/SET]を押す

- ホームがサマータイム[ ]（夏時間）を採用している場合は、▲を押してください。もう一度押すと元に戻ります。
- ホームでサマータイムを設定しても、現在の日時は進みません。時計設定を1時間進めてください。

4 ▲で[旅行先]を選び、[MENU/SET]で決定する

「旅行先」または「ホーム」の選ばれているほうの時間を表示します。

5 ◀/▶で旅行先のあるエリアを選び、[MENU/SET]で決定する

- 旅行先がサマータイム[ ]（夏時間）を採用している場合は、▲を押してください。（時計が1時間進みます）もう一度▲を押すと元に戻ります。

6 [MENU/SET]を押してメニューを終了する

お知らせ

- 旅行から戻ったら、手順**1**、**2**、**3**の操作を行って、設定をホームに戻してください。
- すでにホームを設定している場合は、旅行先のみ変更してお使いください。
- 画面に表示されるエリアで旅行先が見つからない場合は、ホームエリアからの時差を参考に設定してください。

撮影メニューを使う

- [測光モード]、[暗部補正]、[EX光学ズーム]、[デジタルズーム]は、撮影メニューと動画撮影メニューに共通のメニュー項目です。どちらかの設定を変更すると、もう一方の設定も変更されます。

項目	設定・お知らせ
画像横縦比 プリントや再生方法に合わせて、画像の横縦比を選択できます。	**使えるモード:** iA P A S M CUST SCN [4:3]: 4:3テレビの横縦比 [3:2]: 一般のフィルムカメラの横縦比 [16:9]: ハイビジョンテレビなどの横縦比 [1:1]: 正方形横縦比 [4:3]設定時 [3:2]設定時 [16:9]設定時 [1:1]設定時 ● プリント時に端が切れることがありますので、事前にご確認ください。(P191)
記録画素数 記録画素数を設定します。画素数が大きいほど、大きな用紙にプリントしても鮮明な画像になります。	**使えるモード:** iA P A S M CUST SCN 画像横縦比:[4:3]のとき L (12M): 4000×3000画素 M EZ (6M): 2816×2112 画素 S EZ (3M): 2048×1536画素 画像横縦比:[3:2]のとき L (10.5M): 4000×2672画素 M EZ (5M): 2816×1880 画素 S EZ (2.5M): 2048×1360画素 画像横縦比:[16:9]のとき L (9M): 4000×2248画素 M EZ (4.5M): 2816×1584画素 S EZ (2M): 1920×1080画素 画像横縦比:[1:1]のとき L (9M): 2992×2992画素 M EZ (4.5M): 2112×2112画素 S EZ (2M): 1504×1504画素 ● [EX光学ズーム](P129)を[ON]に設定している場合は、各画像横縦比の[L]以外の記録画素数に[EZ]が表示されます。 EZとは「Ex. optical Zoom」の略で、EX光学ズームを表します。

画像横縦比:[4:3]のとき

項目	記録画素数
L (12M)	4000×3000画素
M EZ (6M)	2816×2112 画素
S EZ (3M)	2048×1536画素

画像横縦比:[3:2]のとき

項目	記録画素数
L (10.5M)	4000×2672画素
M EZ (5M)	2816×1880 画素
S EZ (2.5M)	2048×1360画素

画像横縦比:[16:9]のとき

項目	記録画素数
L (9M)	4000×2248画素
M EZ (4.5M)	2816×1584画素
S EZ (2M)	1920×1080画素

画像横縦比:[1:1]のとき

項目	記録画素数
L (9M)	2992×2992画素
M EZ (4.5M)	2112×2112画素
S EZ (2M)	1504×1504画素

項目	設定・お知らせ
記録画素数（つづき）	●デジタル画像は画素という点が集まって作られています。画素が多いと大きな用紙にプリントしたときやパソコンの画面で見たときでも、きめ細かな画像になります。 画素が少ない（粗い） 画素が多い（きめ細かい） ※画像は効果を説明するためのイメージです。 ●画像横縦比を変更したときは、記録画素数をもう一度設定してください。 ●記録可能枚数については、199ページをお読みください。
クオリティ 画像を保存するときの圧縮率を設定します。	使えるモード：iA P A S M CUST SCN [ ]（ファイン）：画質を優先するとき [ ]（スタンダード）：標準画質で、画素数を変えずに記録枚数を増やすとき [RAW]（RAW+ファイン）：ファイン相当のJPEG画像を同時に作りたいとき※1 [RAW]（RAW+スタンダード）：スタンダード相当のJPEG画像を同時に作りたいとき※1 [RAW]（RAW）：パソコンで画像を高画質で加工したいとき※2 ※1 本機でRAW画像を消去すると、JPEG画像も同時に消去されます。 ※2 各画像横縦比の最大記録画素数（[L]）に固定されます。 ●記録可能枚数については、199ページをお読みください。 ●RAWファイルを利用すると、より高度な画像の編集が可能です。編集した画像はパソコンなどで表示できるファイル形式（JPEG、TIFFなど）で保存できます。 RAWファイルの現像や編集には、CD-ROM（付属）のソフトウェア（市川ソフトラボラトリー「SILKYPIX Developer Studio」）をお使いください。 ●[RAW]は[RAW]または[RAW]よりも小さいデータ容量で記録できます。 ●[RAW]で撮影された画像には、[プリント設定]および[お気に入り]は設定できません。
個人認証 人物の顔を特定し、個人認証機能が働きます。	使えるモード：iA P A S M CUST SCN [OFF]、[ON]、[登録]、[設定] ●詳しくは、116ページをお読みください。

撮影メニューを使う（つづき）

項目	設定・お知らせ
[(·)]測光モード 明るさを測る測光方式を切り換えることができます。	使えるモード：P A S M CUST P [(·)]（マルチ測光）： 画面全体の明るさの配分をカメラが自動的に評価して、露出が最適になるように測光する方式です。通常はこの方式に合わせて使用することをおすすめします。 [( )]（中央重点測光）： 画面中央部の被写体に重点を置いて、画面全体を平均的に測光する方式です。 [·]（スポット測光）： スポット測光ターゲット上の被写体に対して測光する方式です。 スポット測光ターゲット ●[(·)]選択時、オートフォーカスモードを[顔]に設定すると、人の顔に合わせて露出を調整し、[追尾]に設定すると、ロックした被写体に合わせて露出を調整します。
手ブレ補正 撮影時の手ブレを感知して、カメラが自動的に補正し、ブレの少ない画像を撮ることができます。	使えるモード：iA P A S M CUST SCN [OFF] ※ [MODE1]：　撮影モード時、常に手ブレを補正します。 [MODE2]：　シャッターボタンを押すと手ブレを補正します。 [MODE3]：　上下の動きに対する手ブレを補正します。流し撮り（一定の方向に向かって動いている被写体の動きに合わせて、本機を振りながら撮影する方法）するときに適しています。 ※ O.I.S.スイッチのないレンズをご使用の場合のみ選択できます。 ・DMC-G2KおよびDMC-G2Wに同梱の交換レンズ 14–42 mm/F3.5–5.6には、O.I.S.スイッチがありません。 ・DMC-G2Wに同梱の交換レンズ45–200 mm/F4.0–5.6には、O.I.S.スイッチがあります。 ●O.I.S.スイッチのあるレンズをご使用の場合は、レンズのO.I.S.スイッチが[ON]になっていることを確認してください。 ●手ブレ補正機能のないレンズを使用した場合、[手ブレ補正]は選択できません。 ●以下の場合、手ブレ補正が効きにくくなることがあります。 ・手ブレが大きいとき、ズーム倍率が高いとき ・デジタルズーム使用時 ・動きのある被写体を追いながら撮影するとき ・室内や薄暗い場所での撮影で、シャッタースピードが遅くなるとき シャッターボタンを押し込む際は、手ブレにお気をつけください。

項目	設定・お知らせ
手ブレ補正 (つづき)	●以下の場合、[MODE3]での流し撮りの効果が出にくくなります。 ・夏の日中など、明るいところ ・シャッタースピードが1/100より速い場合 ・被写体の動きが遅く、本機を振る速度があまりにも遅い場合(背景が流れません) ・本機が被写体の動きにうまく追いつけていない場合 ●[MODE3]での流し撮りは、ファインダー撮影をおすすめします。 ●動画撮影時は、[MODE2]または[MODE3]に設定していても、[MODE1]に固定されます。
フラッシュ フラッシュの設定を切り換えることができます。	使えるモード: P A S M CUST SCN [⚡A]、[⚡A◎]、[⚡]、[⚡◎]、[⚡S]、[⚡S◎] ●詳しくは、63ページをお読みください。
デジタル赤目補正 赤目軽減([⚡A◎]、[⚡◎]、[⚡S◎])選択時にフラッシュが発光すると、赤目を自動的に検出して画像データを修正します。	使えるモード: P A S M CUST SCN [OFF]、[ON] ●赤目の状態によっては補正できない場合があります。 ●[ON]に設定すると、アイコンに[ ]が表示されます。 ●詳しくは、64ページをお読みください。
フラッシュシンクロ 後幕シンクロの設定をすることができます。	使えるモード: P A S M CUST SCN [先幕(さきまく)]、[後幕(あとまく)] ●詳しくは、68ページをお読みください。
フラッシュ光量調整 フラッシュの発光量を調整することができます。	使えるモード: P A S M CUST SCN [−2 EV]、[−1 2/3 EV]、[−1 1/3 EV]、[−1 EV]、[−2/3 EV]、[−1/3 EV]、[0 EV]、[+1/3 EV]、[+2/3 EV]、[+1 EV]、[+1 1/3 EV]、[+1 2/3 EV]、[+2 EV] ●詳しくは、67ページをお読みください。
I.R超解像 超解像技術を利用して、より輪郭がはっきりした、解像感がある画像を撮影することができます。	使えるモード: P A S M CUST [OFF]、[弱]、[中]、[強] ●動画Pモード時は、クイックメニュー(P34)を使って設定してください。

撮影メニューを使う（つづき）

項目	設定・お知らせ
暗部補正（インテリジェント暗部補正） 背景と被写体の明暗差が大きい場合など、撮影状況に合わせて、コントラストや露出を自動的に補正します。	使えるモード: P A S M CUST [OFF]、[弱]、[中]、[強] ● ISO感度が[ISO100]/[ISO125]のときでも、[暗部補正]有効時に撮影すると、ISO感度は[ISO100]/[ISO125]より大きくなることがあります。 ● 撮影条件によっては、補正効果が得られない場合があります。 ● [暗部補正]有効時には、画面の [ ] が黄色になります。 ● [弱]、[中]、[強]は効果の最大範囲を表します。
ISO感度上限設定 被写体の明るさに応じて、選択した数値を上限として最適な ISO 感度を設定します。	使えるモード: P A S CUST [OFF]、[200]、[400]、[800]、[1600] ● ISO感度の上限を設定できます。 ● ISO感度を高い数値に設定するほど、被写体ブレをおさえる効果が得られますが、ノイズは増加します。 ● ISO感度が [AUTO] または[ISO]時に働きます。
ISO感度ステップ [ISO100]～[ISO6400]までのISO感度の設定を、1/3 EVごとの設定値に変更します。	使えるモード: P A S M CUST SCN [1/3 EV]: [100]、[125]、[160]、[200]、[250]、[320]、[400]、[500]、[640]、[800]、[1000]、[1250]、[1600]、[2000]、[2500]、[3200]、[4000]、[5000]、[6400] [1 EV]: [100]、[200]、[400]、[800]、[1600]、[3200]、[6400] ● [1/3 EV]から[1 EV]に設定を変更すると、ISO感度は[1/3 EV]時に選んでいた設定値に最も近い値になります。 （もう一度[1/3 EV]に変更した場合、設定値は戻りません。[1 EV]時に選んでいた設定値のままになります）
長秒ノイズ除去 夜景撮影など、シャッタースピードを遅くして撮影することで発生するノイズを、カメラが自動的に取り除き、きれいな画像を撮影することができます。	使えるモード: P A S M CUST SCN [OFF]、[ON] ● ノイズ除去中は、信号処理のために選択したシャッタースピードと同じ時間「しばらくお待ちください」と表示されます。 ● シャッタースピードを遅くして撮影する場合は、三脚の使用をおすすめします。 ● 動画撮影時は働きません。

撮影メニューの設定方法はP32へ

項目	設定・お知らせ
EX光学ズーム 画像を劣化させずに拡大することができます。	使えるモード：P A S M CUST P SCN [OFF]、[ON] ●詳しくは、54ページをお読みください。
デジタルズーム 光学ズーム、またはEX光学ズームよりも、さらに拡大することができます。	使えるモード：P A S M CUST P [OFF]、[2×]、[4×] ●詳しくは、54ページをお読みください。 ●ズーム時に手ブレが気になるときは[手ブレ補正]を[MODE1]に設定することをおすすめします。
連写速度 連写時の速度を設定します。	使えるモード：P A S M CUST SCN [H]、[M]、[L] ●詳しくは、70ページをお読みください。
オートブラケット オートブラケット撮影時の露出の補正幅、撮影順序を設定します。	使えるモード：P A S M CUST SCN **[補正幅]:** **[3・1/3]、[3・2/3]、[5・1/3]、[5・2/3]、[7・1/3]、[7・2/3]** **[ブラケット順序]:** [0/−/+]、[−/0/+] ●詳しくは、72ページをお読みください。
セルフタイマー セルフタイマーの時間を設定します。	使えるモード：P A S M CUST SCN [10]、[10]、[2] ●詳しくは、74ページをお読みください。

応用・撮影

撮影メニューの設定方法はP32へ

項目	設定・お知らせ
色空間 撮影した画像をパソコンの画面やプリンターなどで再現する場合に、色再現を正しく行うための方式を設定します。	使えるモード：P A S M CUST SCN [sRGB]：sRGB色空間に設定します。パソコンを中心とした機器で広く使われています。 [AdobeRGB]：AdobeRGB色空間に設定します。AdobeRGB色空間はsRGB色空間よりも色再現の範囲が広いため、主に商用印刷などの業務用途で使われています。 ● 色空間の設定によって、撮影した画像のファイル名は以下のように変わります。 P1000001.JPG P：sRGB _：AdobeRGB ● AdobeRGBについての専門的な知識がない方は、sRGBに設定してください。 ● 動画撮影時は、[sRGB]に固定されます。
音声記録 撮影と同時に音声を記録することができます。撮影時の会話やメモ代わりに状況の説明などを記録しておくことができます。	使えるモード：P A S M CUST SCN [OFF]：録音されません。 [ON]：画面に[ ]が表示されます。撮影と同時に録音を開始します。（約5秒後に終了します） ● 録音中に[MENU/SET]を押すと中止されます。 ● 音声は本機内蔵のマイクより録音されます。 ● 音声記録時は、マイクの穴を指などでふさがないでください。 ● 本機で記録した音声は他機で再生できない場合があります。 ● 本機で撮影した音声付き写真を、2008年7月以前に発売された当社製デジタルカメラ（LUMIX）で再生することはできません。 ● 以下の場合は、[音声記録]の設定はできません。 ・オートブラケット撮影時　・連写時 ・[セルフタイマー]の[ ]設定時 ・ホワイトバランスブラケット撮影時 ・マルチフィルムブラケット撮影時 ・[クオリティ]の[RAW]、[RAW]、[RAW]設定時

動画撮影メニューを使う

- [測光モード]、[暗部補正]、[EX光学ズーム]、[デジタルズーム]は、撮影メニューと動画撮影メニューに共通のメニュー項目です。どちらかの設定を変更すると、もう一方の設定も変更されます。
  ・詳しくは、撮影メニューの同じ項目をお読みください。

動画撮影メニューの設定方法はP32へ

項目	設定･お知らせ
撮影モード 動画のデータ形式を設定します。	**使えるモード:** iA P A S M CUST SCN [AVCHD Lite]、[MOTION JPEG] ● 詳しくは、112ページをお読みください。
画質設定 記録する動画の画質を設定します。	**使えるモード:** iA P A S M CUST SCN 撮影モード:[AVCHD Lite]のとき [SH]、[H]、[L] 撮影モード:[MOTION JPEG]のとき [HD]、[WVGA]、[VGA]、[QVGA] ● 詳しくは、112ページをお読みください。
AF AF連続動作 常時ピントを合わせるか、ピントを固定するかの設定ができます。	**使えるモード:** iA P A S M CUST SCN [OFF]、[ON] ● ピントを固定したいときは[OFF]にしてください。 ● オートフォーカスの動作音が気になる場合は、[OFF]に設定することをおすすめします。
風音低減 音声記録時の風雑音を記録しにくくします。	**使えるモード:** iA P A S M CUST SCN [OFF]、[弱]、[中]、[強] ● 風音低減を設定しているときは、通常と音質が異なります。 ● 音声付き写真時は、風音低減は働きません。

カスタムメニューを使う

●インテリジェントオートモード時は、[ガイドライン表示]、[LCD撮影情報画面]、[残枚数/残時間切換]のみ設定できます。

項目	設定(▶はお買い上げ時の設定です)・お知らせ
カスタムセット登録 現在のカメラの設定内容をカスタムセットとして3つまで登録しておくことができます。	▶[C1] [C2] [C3] ●詳しくは、107ページをお読みください。
Fn(ファンクション) ボタン設定 ▼ボタンに撮影メニューまたはカスタムメニューを割り当てます。よく使う機能を登録しておくと、便利にお使いいただけます。	▶[フォーカスエリア選択] [画像横縦比] [クオリティ] [測光モード] [I.R 超解像] [i 暗部補正] [EX光学ズーム] [ガイドライン表示] [記録枠表示] [残枚数/残時間切換] ●[フォーカスエリア選択]設定時は、▼を押してAFエリアまたはMFアシストの位置設定画面を表示することができます。 詳しくは、47、76、81ページをお読みください。 ●撮影メニューの詳細については、124ページをお読みください。 ●[ダイレクトフォーカス移動](P134)を[ON]に設定すると、▲/▼/◀/▶では操作できなくなります。クイックメニュー(P34)を使って設定してください。
ヒストグラム ヒストグラムを表示するかしないかを設定します。(P62)	▶[OFF] [ON]: ヒストグラムの位置を設定できます。 設定方法は、62ページをお読みください。
ガイドライン表示 撮影時に表示するガイドラインのパターンを設定します。(P61)	▶[OFF] [田] [⊠] [⊟]: ガイドラインの位置を設定できます。 設定方法は、61ページをお読みください。

カスタムメニューの設定方法はP32へ

項目	設定（▶ はお買い上げ時の設定です）・お知らせ
ハイライト表示 オートレビューまたは再生時に、白とびの起こっている部分を黒と白の点滅で表示します。	▶ [OFF] [ON] ●白とびが起こっている場合は、ヒストグラム（P62）を参考に、露出をマイナス方向に補正して（P69）再度撮影することをおすすめします。 ●フラッシュ撮影時、被写体からの距離が近すぎると白とびが起きる場合があります。このとき、ハイライト表示を[ON]に設定していると、フラッシュ光が当たったところが白とびとなって、黒と白の点滅で表示されます。 撮影画像には影響されません。 ●マルチ再生（P57）、カレンダー再生（P57）、再生ズーム（P58）時は働きません。 ハイライト表示[ON] ハイライト表示[OFF]
AF/AEロック切換 ピントや露出を固定して撮影する際の[AF/AE LOCK]ボタンでの固定内容を設定します。	▶ [AE]：　露出だけを固定します。 [AF]：　ピントだけを固定します。 [AF/AE]：ピントと露出を固定します。 ●詳しくは、83ページをお読みください。
AF/AEロック維持 ピントや露出を固定して撮影する際の[AF/AE LOCK]のボタン動作を設定します。	▶ [OFF]：[AF/AE LOCK]を押している間だけピントや露出が固定されます。（P83） [AF/AE LOCK] を離すと、ロックが解除されます。 [ON]：[AF/AE LOCK] を押したあと、離してもピントや露出が固定されます。 もう一度[AF/AE LOCK]を押すと、ロックが解除されます。
プリAF 設定に応じて、シャッターボタン半押し前にカメラがピント合わせを自動的に行います。	▶ [OFF] [Q-AF]（クイックAF） [C-AF]（コンティニュアスAF） **Q-AF/C-AFについて** [Q-AF]はカメラのブレが小さくなると、カメラが自動的にピントを合わせます。[C-AF]は常時ピント合わせを行います（AF連続動作）。カメラが自動的にピント合わせを行い、シャッターボタンを押した際のピント合わせが速くなります。シャッターチャンスを逃したくないときなどに有効です。 ●バッテリーの消耗は早くなる場合があります。 ●撮影中、ピントが合いにくいときは、再度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせてください。 ●[C-AF]に設定しているとき、ズームをW端からT端に回したり、急に被写体を遠くから近くに変えたあとは、ピントが合うまでに時間がかかることがあります。 ●プレビューモード時は、[プリAF]は働きません。 ●[プリAF]は、オートフォーカスのできないレンズおよび、コントラストAF非対応フォーサーズマウント規格レンズでは働きません。 また、[C-AF]は、フォーカスモードを[AFC]に設定できないレンズでは働きません。（P20）

カスタムメニューを使う（つづき）

▲/▼/◀/▶はカーソルボタンの上下左右を表しています。

項目	設定（▶はお買い上げ時の設定です）・お知らせ
ダイレクトフォーカス移動 撮影時に簡単にAFエリアやMFアシストを移動します。	▶ [OFF] [ON]：オートフォーカスモードの[顔]、[▦]、[■]選択時に▲/▼/◀/▶でAFエリアを自由に移動することができます。 マニュアルフォーカス時はMFアシストを移動します。 ●詳しくは、79、81ページをお読みください。
フォーカス優先 ピントが合っていない場合は撮影できないように設定します。	[OFF]：シャッターチャンスを優先させるため、シャッターボタンを全押しすると、撮影されます。 ▶ [ON]：ピントが合うまで撮影できません。 ●[OFF]に設定すると、フォーカスモードを[AFS]または[AFC]に設定していても、ピントが合っていない場合がありますのでお気をつけください。 ●動画撮影時は働きません。
AF補助光 撮影場所が暗くピントが合いにくいときに、光を当ててピントを合わせやすくすることができます。	[OFF]：点灯しません。 ▶ [ON]：暗い場所での撮影時、シャッターボタン半押しでAF補助光ランプが点灯します。 （大きなAFエリアが表示されます） ●補助光の有効距離は、使用するレンズによって異なります。 ・DMC-G2KおよびDMC-G2Wに同梱の交換レンズ14–42 mm/F3.5–5.6装着、W端時：約1.0 m～約3.0 m ・DMC-G2Wに同梱の交換レンズ45–200 mm/F4.0–5.6装着、W端時：約1.0 m～約2.5 m ●AF補助光は、画面中央部の被写体に対してのみ有効です。被写体を画面中央に配置してご使用ください。 ●レンズフードは外してください。 ●暗闇で動物を撮るときなど、暗い場所でAF補助光ランプを光らせたくない場合は、[OFF]に設定してください。このとき、ピントは合いにくくなります。 ●DMC-G2KおよびDMC-G2Wに同梱の交換レンズ装着時、AF補助光が少しさえぎられますが、性能には問題ありません。 ●径の大きなレンズをお使いの場合は、AF補助光が大きくさえぎられ、フォーカスが合いにくくなる場合があります。 ●風景モード、夜景&人物モードの[夜景]、[クリエイティブ夜景]、シーンモードの[夕焼け]では、[OFF]に固定されます。

カスタムメニューの設定方法はP32へ

項目	設定(▶ はお買い上げ時の設定です)・お知らせ
AF+MF 自動でピントを合わせたあと、手動でピントを合わせることができます。	▶ [OFF] [ON]: AFロックしている間(フォーカスモードが[AFS]時のシャッターボタン半押し、または[AF/AE LOCK]でのAFロック)にフォーカスリングを回して手動でピントを微調整することができます。
MFアシスト マニュアルフォーカス時に、ピントが合わせやすくなります。	[OFF] ▶ [ON]: フォーカスリングを回すと自動で画面中央部が拡大表示されます。 ● 詳しくは、80ページをお読みください。
MFガイド マニュアルフォーカス時に、ピント位置が近距離側か遠距離側かを確認できます。	[OFF] ▶ [ON]: フォーカスリングを回すと画面にMFガイドが表示されます。 ● 詳しくは、80ページをお読みください。
プレビュー維持 プレビュー画面を表示する際の[⊛]のボタン動作を設定します。	[OFF]: [⊛]を押している間だけプレビュー画面が表示されます。 [⊛]を離すと、元の画面に戻ります。 ▶ [ON]: [⊛]を押したあと、離してもプレビュー画面が表示されます。(P97) もう一度 [⊛]を押すと、元の画面に戻ります。
露出メーター モードダイヤルをP/A/S/Mなどに切り換えたときの露出メーターを表示するかしないかを設定します。	[OFF] ▶ [ON] ● [ON]に設定すると、露出補正、プログラムシフト、絞り設定、またはシャッタースピード操作時に[露出メーター]が表示されます。 露出メーター表示 ● 適正でない範囲が、赤色で表示されます。 ● 液晶モニター/ファインダーの表示情報を表示ありに切り換えたときのみ、[露出メーター]が表示されます。(P60) ● 約4秒間何も操作しないと[露出メーター]が消灯します。

カスタムメニューを使う（つづき）

<table>
<tr><th>項目</th><th>設定（▶ はお買い上げ時の設定です）・お知らせ</th></tr>
<tr><td>露出設定切換

モードダイヤルをP/A/S/Mなどに切り換えたときの露出補正設定切り換えの方法を変更します。</td><td>▶ [後ダイヤル押し]：
露出補正、プログラムシフト、絞り設定、またはシャッタースピード設定を、後ダイヤルを押して切り換えます。
[LVF/LCDボタン押し]：
露出補正、プログラムシフト、絞り設定、またはシャッタースピード設定を、[LVF/LCD]を押して切り換えます。

撮影モードごとの設定項目
<table>
<tr><th></th><th></th><th>または LVF/LCD</th></tr>
<tr><td>P</td><td>プログラムシフト</td><td>露出補正</td></tr>
<tr><td>A</td><td>絞り値</td><td>露出補正</td></tr>
<tr><td>S</td><td>シャッタースピード</td><td>露出補正</td></tr>
<tr><td>M</td><td>シャッタースピード</td><td>絞り値</td></tr>
</table>

● [LVF/LCDボタン押し]に設定したときは、[LVF/LCD]を押して液晶モニターとファインダーを切り換えることはできません。
● [LVF/LCD自動切換]を[OFF]に設定しているときは、[露出設定切換]は無効になります。</td></tr>
<tr><td>LVF表示スタイル

ファインダーの表示方法を設定します。</td><td>▶ [ ]：ファインダースタイル
[ ]：液晶モニタースタイル

● 詳しくは、60ページをお読みください。</td></tr>
<tr><td>LCD表示スタイル

液晶モニターの表示方法を設定します。</td><td>[ ]：ファインダースタイル
▶ [ ]：液晶モニタースタイル

● 詳しくは、60ページをお読みください。</td></tr>
<tr><td>LCD撮影情報画面

液晶モニターの撮影情報画面の色を設定します。（P60）</td><td>[OFF]
▶ [1]：青系色
[2]：赤系色
[3]：黒系色</td></tr>
<tr><td>LVF/LCD自動切換

ファインダーに目や物を近づけるとアイセンサーが働き、自動的にファインダー表示に切り換わります。離すと、液晶モニター表示に戻ります。</td><td>[OFF]
▶ [ON]

● [LVF/LCD]を押すと液晶モニター表示とファインダー表示を手動で切り換えることができます。（P42）</td></tr>
</table>

カスタムメニューの設定方法はP32へ

項目	設定(▶はお買い上げ時の設定です)・お知らせ
[iA]ボタン切換 インテリジェントオートモードに切り換えるときの[iA]ボタンの操作方法を設定します。	▶ **[押して切換]**: [iA]ボタンを押すとインテリジェントオートモードに切り換わります。 **[押し続けて切換]**: [iA]ボタンをしばらく押したままにするとインテリジェントオートモードに切り換わります。
動画ボタン 動画ボタン動作の有効、無効を設定します。	[OFF] ▶ [ON]
記録枠表示 動画撮影時の画角と、写真撮影時の画角を切り換えます。	▶ [写真アイコン]: 写真 [動画アイコン]: 動画 ● 記録枠表示は目安です。
残枚数/残時間切換 記録可能枚数または記録可能時間の表示を切り換えます。	▶ **[写真アイコン:枚数アイコン(残枚数)]**:写真の記録可能枚数を表示します。 **[動画アイコン:時計アイコン(残時間)]**:動画の記録可能時間を表示します。
タッチQ.MENU タッチ操作時のクイックメニューの有効、無効を設定します。	[OFF]: 画面にタッチクイックメニューアイコンを表示させず、タッチクイックメニューも働きません。 ▶ [ON]: 画面にタッチクイックメニューアイコンを表示させ、アイコンをタッチ時にタッチクイックメニューの設定をできるようにします。
タッチシャッター タッチシャッター機能の有効、無効を設定します。	[OFF]: 画面にタッチシャッターアイコンを表示させず、タッチシャッター機能も働きません。 ▶ [ON]: 画面にタッチシャッターアイコンを表示させ、アイコンをタッチ時にタッチシャッター機能の[ON]/[OFF]を切り換えられます。
タッチガイド 再生時にタッチパネルのガイド画面を表示するかしないかを設定します。	[OFF] ▶ [ON]
タッチ再生送り速度 タッチ操作で画像を連続して送るときの画像送りの早さを設定します。	[H]: 高速 ▶ [L]: 低速

カスタムメニューを使う（つづき）

カスタムメニューの設定方法はP32へ

項目	設定（▶はお買い上げ時の設定です）・お知らせ
ダイヤル操作ガイド モードダイヤルをP/A/S/Mなどに切り換えたときの操作切り換えガイドを表示するかしないかを設定します。	[OFF] ▶ [ON] ● [ON]に設定すると、露出補正、プログラムシフト、絞り設定、またはシャッタースピード設定の切り換えが可能な画面にダイヤル操作ガイドが表示されます。
メニュー位置メモリー 最後に操作したメニューの位置を記憶します。	[OFF] ▶ [ON]
ピクセルリフレッシュ 撮像素子と画像処理の最適化を行います。	● 撮像素子と画像処理の最適化については、お買い上げ時は最適な状態に設定されています。被写体にない明るい点が記録され、気になるときは、本機能をお使いください。 ● 終了後は、電源を入れ直してください。
センサークリーニング 撮像素子前面に付着したごみやほこりを払い落とすダストリダクションを行います。	● ダストリダクション機能は電源を[ON]にすると自動的に働きますが、特にごみが気になるときは、本機能をお使いください。（P194）
レンズ無しレリーズ 本体にレンズを取り付けていないときは、シャッターを切れないように設定することができます。	▶ [OFF]：本体にレンズを取り付けていないときやレンズが正しく取り付けられていないときには、シャッターが切れません。 [ON]：レンズの装着にかかわらず、シャッターが切れます。 ● ライカレンズ用マウントアダプター（別売：DMW-MA2M、DMW-MA3R）使用時は [ON]に設定してください。

文字を入力する

▲/▼/◀/▶ はカーソルボタンの上下左右を表しています。

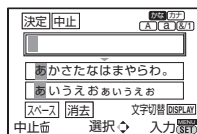
撮影時に、赤ちゃんやペットの名前、旅行先などを登録しておくことができます。(ひらがな、カタカナ、英数字、記号のみ入力できます)

1 入力画面を表示し、▼ を押して文字選択部分に移動する

- 入力画面は以下の操作から表示できます。
  - ・シーンモードの[赤ちゃん1]/[赤ちゃん2]、[ペット]の[名前](P103、104)
  - ・[個人認証]の[名前](P116)
  - ・[トラベル日付]の[旅行先](P121)
  - ・[タイトル入力](P145)

2 ▲/▼/◀/▶ で文字を選び、[MENU/SET] で入力する

決定 中止 かな カナ A a &/1
あかさたなはまやらわ。
あいうえおぁぃぅぇぉ
スペース 消去 文字切替 DISPLAY
中止 選択 入力 MENU SET

- [DISPLAY]を押すと、かな(ひらがな)、カナ(カタカナ)、A/a(アルファベット)、&/1(記号/数字)に文字を切り替えることができます。
- 入力位置のカーソルは、後ダイヤルで左右に移動できます。
- 空白を入れたいときは[スペース]、入力した文字を消去したいときは[消去]、文字入力の途中で編集を中止したいときは[中止]にカーソルを合わせ、[MENU/SET]を押してください。
- 入力できる文字数は以下のとおりです。
  - ・かな/カナ: 最大15文字 ([個人認証]の名前設定時は最大6文字)
  - ・A/a/&/1※: 最大30文字 ([個人認証]の名前設定時は最大9文字)
  - ※ [＼]、[「]、[」]、[・]、[ー]、[歳]、[カ]、[月]、[日]は最大15文字([個人認証]の名前設定時は最大6文字) です。

3 ▲/▼/◀/▶ で [決定] にカーソルを合わせ、[MENU/SET] を押して入力を終了する

- それぞれの設定画面に戻ります。

文字入力例
「パリ」と入力する場合: ❶ [DISPLAY]を押し、カナに切り替える ❷ ▼で文字選択部分に移動し、◀/▶ で「ハ」にカーソルを合わせる ❸ ▼で下の段に移動し、◀/▶ で「ハ」にカーソルを合わせたあと、[MENU/SET]を押す ❹ ◀/▶ で「゜」にカーソルを合わせたあと、[MENU/SET]を押し、「パ」にする ❺ ▲を押して上の段に戻り、◀/▶ で「ラ」にカーソルを合わせる ❻ ▼で下の段に移動し、◀/▶ で「リ」にカーソルを合わせたあと、[MENU/SET]を押す

お知らせ

- 入力した文字数が多い場合、文字はスライドして表示されます。

動画/音声付き写真を見る

▲/▼/◀/▶ はカーソルボタンの上下左右を表しています。

- 本機で再生できる動画/音声付き写真のファイル形式はQuickTime Motion JPEGまたはAVCHD Liteです。
- 本機で再生できるAVCHD Lite形式の動画は、本機および当社製デジタルカメラ(LUMIX)で撮影した[AVCHD Lite]動画のみです。

[▶] を押す

動画

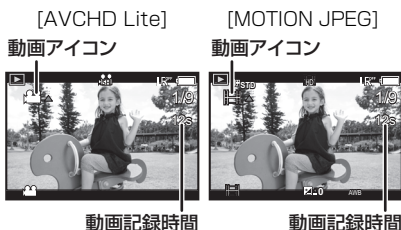
動画アイコン([🎥]など)が付いた画像を選び、▲を押して再生する

- 再生を開始すると、画面右上に再生経過時間が表示されます。
  例)1時間3分30秒のとき:1h3m30s
- [AVCHD Lite]で撮影した動画は、一部の情報(撮影情報など)が表示されません。

[AVCHD Lite]
動画アイコン

動画記録時間

[MOTION JPEG]
動画アイコン

動画記録時間

■ 動画再生中の操作

再生中に表示されるカーソルは、▲/▼/◀/▶に対応しています。

再生/一時停止
早戻し/コマ戻し※
早送り/コマ送り※
停止

音量下げる　音量上げる

※一時停止中のみ操作できます。

- 早送り/早戻し再生について
  - ・再生中に▶を押すと早送り再生(◀を押すと早戻し再生)になります。もう一度◀/▶を押すと、早送り/早戻し速度が速くなります。(画面表示が▶▶から▶▶▶に変わります)
  - ・▲を押すと、通常再生に戻ります。
  - ・大容量のカードを使用したとき、早戻しが遅くなる場合があります。

お知らせ

- 本機で撮影した動画をパソコンで再生する場合はCD-ROM(付属)のソフトウェア「QuickTime」または「PHOTOfunSTUDIO 5.0 HD Edition」をご使用ください。
- パソコンや他機で記録されたQuickTime Motion JPEG動画は、画質が粗くなったり、本機で再生できない場合があります。

音声付き写真

音声アイコン([♪])が付いた写真を選び、▲を押して再生する

- 音声付き写真の作成方法は、[音声記録](P130)をお読みください。

音声アイコン

お知らせ

- スピーカーから音声が聞こえます。音量調整については、セットアップメニューの[スピーカー音量](P35)をお読みください。
- 他機で撮影された音声付き写真は本機で再生できない場合があります。

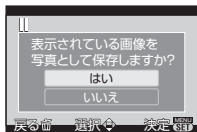
動画から写真を作成する

▲/▼/◀/▶ はカーソルボタンの上下左右を表しています。

撮影した動画から、1 枚の写真を作成できます。

1 動画再生中に ▲ を押して、一時停止にする

2 [MENU/SET] を押す

3 ▲ で [はい] を選び、[MENU/SET] を押す

記録画素数

記録画素数は以下のとおりです。

[AVCHD Lite]	記録画素数
[SH] / [H] / [L]	[S](2 M)

[MOTION JPEG]	記録画素数
[HD] / [WVGA]	[S](2 M)

- [クオリティ]は [ ] になります。

お知らせ

- [MOTION JPEG]の[VGA]、[QVGA]で撮影された動画からは、写真を作成できません。
- 他機で撮影された動画は写真で保存することができない場合があります。

再生メニューを使う

▲/▼/◀/▶ はカーソルボタンの上下左右を表しています。

撮影した画像の回転表示やプロテクト設定など、いろいろな再生機能を使うことができます。

- [文字焼き込み]、[リサイズ(縮小)]、[トリミング(切抜き)]または[横縦比変換]は、編集した画像を新しく作成します。カードの空き容量がない場合、新しい画像を作成することができませんので、容量に余裕があることを確認してから画像の編集を行うことをおすすめします。

スライドショー

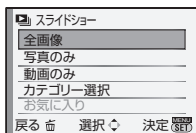
撮影した画像を音楽に合わせて一定間隔で順番に再生することができます。
また、写真のみ、動画のみ、カテゴリーで分類した画像のみ、お気に入りに設定した画像のみをスライドショーで再生することもできます。テレビに接続して画像を見るときにおすすめの再生方法です。

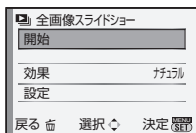
1 再生メニューから[スライドショー]を選ぶ

2 ▲/▼で項目を選び、[MENU/SET]を押す

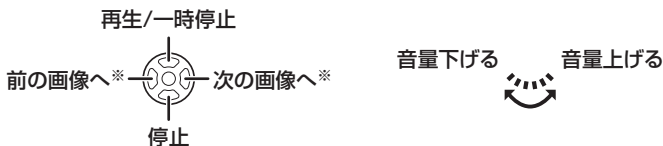
- [お気に入り]は再生メニューの[お気に入り](P153)が[ON]で設定済みの画像があるときのみ、選択できます。
- [カテゴリー選択]時は、▲/▼/◀/▶でカテゴリーを選び、[MENU/SET]を押して手順 **3** へ進んでください。
  カテゴリーの詳細については144ページをお読みください。

3 ▲で[開始]を選び、[MENU/SET]を押す

全画像スライドショー
開始
効果 ナチュラル
設定
戻る 選択 決定

4 ▼を押してスライドショーを終了する

- スライドショーを終了すると、通常再生になります。

■ スライドショー中の操作

再生中に表示されるカーソルは、▲/▼/◀/▶ に対応しています。

音量下げる　音量上げる

※一時停止中および動画再生中のみ操作できます。

- [🗑]を押すとメニュー画面に戻ります。

再生メニューの設定方法はP32へ

■ スライドショーの設定を変更する

スライドショーのメニュー画面で[効果]または[設定]を選ぶと、スライドショー再生時の設定を変更することができます。

スライドショー
開始
効果　おまかせ
設定
戻る　選択

[効果]

画像切り換え時の画面効果を選ぶことができます。

[ナチュラル]、[スロー]、[スウィング]、[アーバン]、[OFF]、[おまかせ]

- [アーバン]を選んだときは、画面効果として画像が白黒になることがあります。
- [おまかせ]は、[カテゴリー選択]選択時のみ使用できます。カテゴリーごとにおすすめの効果で再生します。
- 動画のみのスライドショー時、[効果]は[OFF]に固定されます。
- 縦向きに表示された画像を再生するときは、一部の[効果]は動作しません。

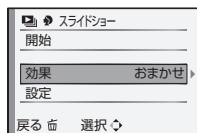
[設定]

再生間隔やリピートを設定できます。

項目	設定
[再生間隔]	1 秒、2 秒、3 秒、5 秒
[リピート]	OFF、ON
[音設定]	[OFF]: 音を出しません。 [AUTO]: 写真再生時は音楽を、動画･音声付き写真再生時は音声を再生します。 [音楽]: 音楽を再生します。 [音声]: 音声（動画･音声付き写真のみ）を再生します。

- [再生間隔]は、[効果]を[OFF]に設定しているときのみ設定できます。

お知らせ

- 音楽を追加することはできません。

再生メニューを使う（つづき）

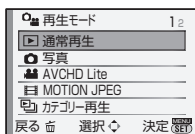
▲/▼/◀/▶ はカーソルボタンの上下左右を表しています。

再生モード

[通常再生]、[写真]、[AVCHD Lite]、[MOTION JPEG]、[カテゴリー再生]または[お気に入り再生]を選び、再生することができます。

1 再生メニューから[再生モード]を選ぶ

2 ▲/▼ で項目を選び、[MENU/SET] を押す

- [お気に入り再生]は再生メニューの[お気に入り](P153)が[ON]で設定済みの画像があるときのみ、選択できます。
- [通常再生]、[写真]、[AVCHD Lite]、[MOTION JPEG]または[お気に入り再生]の画像を再生する方法については、56ページをお読みください。

手順2で[カテゴリー再生]選択時

3 ▲/▼/◀/▶ でカテゴリーを選び、[MENU/SET] を押す

- 画像が見つかったカテゴリーのアイコンが青になります。
- 画像ファイルが多い場合は、検索に時間がかかることがあります。
- 検索中に[▥]を押すと、途中で検索が中止されます。
- 分類されるカテゴリーは以下のとおりです。

カテゴリー	シーンモードなどの撮影情報
(個人認証アイコン)	個人認証※
(人物アイコン)	人物モード、i人物、夜景&人物、i夜景&人物、赤ちゃん、i赤ちゃん
(風景アイコン)	風景モード、i風景、夕焼け、i夕焼け
(夜景&人物アイコン)	夜景&人物モード、i夜景&人物、i夜景
(スポーツ・パーティーアイコン)	スポーツモード、パーティー

カテゴリー	シーンモードなどの撮影情報
(赤ちゃんアイコン)	赤ちゃん、i赤ちゃん
(ペットアイコン)	ペット
(料理アイコン)	料理
(トラベル日付アイコン)	トラベル日付
(動画アイコン)	[AVCHD Lite]、[MOTION JPEG]

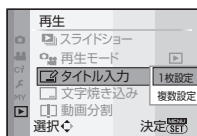
※ ▲/▼/◀/▶ で再生したい人物を選び[MENU/SET]を押して再生してください。
登録している人物でも、表情や環境によっては個人認証ができない、または正しく認証されない場合があります。
また、すでに登録している人物が複数写っている画像の場合には、登録順で1人だけに分類されます。

再生メニューの設定方法はP32へ

タイトル入力

撮影画像に文字(コメント)を入力しておくことができます。入力後、[文字焼き込み](P146)で撮影画像に焼き込むことができます。(ひらがな、カタカナ、英数字、記号のみ入力できます)

1 再生メニューから[タイトル入力]を選ぶ

2 ▲/▼で[1枚設定]または[複数設定]を選び、[MENU/SET]を押す

3 画像を選び、[MENU/SET]で設定する

- すでにタイトルが入力されている画像には[ ]が表示されます。

[複数設定]選択時
[DISPLAY]を押して設定(繰り返す)し、[MENU/SET]を押して決定する

- もう一度[DISPLAY]を押すと設定が解除されます。

[1枚設定]

◀/▶で選びます。

[複数設定]

▲/▼/◀/▶で選びます。

4 文字を入力する(P139)

5 [ ]を押してメニュー画面に戻る※

※[複数設定]選択時は、自動的にメニュー画面に戻ります。

- [MENU/SET]を押してメニューを終了します。

応用・再生

お知らせ

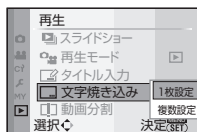
- タイトルを消去するには文字入力画面ですべての文字を消去してください。
- 入力した文字数が多い場合、文字はスライドして表示されます。
- CD-ROM(付属)のソフトウェア「PHOTOfunSTUDIO 5.0 HD Edition」を使って、文字(コメント)をプリントすることができます。
- [複数設定]で一度に設定できるのは50枚までです。
- 動画、プロテクトされた画像、クオリティを[RAW]、[RAW]または[RAW]にして撮影された画像、他機で撮影された画像はタイトル入力できません。

再生メニューを使う（つづき）

文字焼き込み

撮影した画像に、撮影日時、名前、旅行先、トラベル日付などを焼き込むことができます。Lサイズでプリントする場合に適しています。[記録画素数が[S]より大きい画像はリサイズ（縮小）されます]

1 再生メニューから［文字焼き込み］を選ぶ

2 ▲/▼で［1枚設定］または［複数設定］を選び、［MENU/SET］を押す

3 画像を選び、［MENU/SET］で設定する

- すでに文字焼き込みされた画像には、画面に［ ］が表示されます。

［複数設定］選択時
［DISPLAY］を押して設定（繰り返す）し、［MENU/SET］を押して決定する

- もう一度［DISPLAY］を押すと設定が解除されます。

［1枚設定］

◀/▶で選びます。

［複数設定］

▲/▼/◀/▶で選びます。

4 ▲/▼で焼き込む項目を選び、▶を押す

5 ▲/▼で設定を選び、［MENU/SET］を押す

項目	設定内容
［撮影日時］	[OFF] [日付]：年月日を焼き込みます。 [日時]：年月日時分を焼き込みます。
［名前］	[OFF] [ ]（個人認証）：[個人認証]で登録された名前を焼き込みます。 [/]（赤ちゃん/ペット）： シーンモードの[赤ちゃん1]/[赤ちゃん2]、[ペット]の名前設定で登録された名前を焼き込みます。
［旅行先］	[OFF] [ON]：[旅行先]で設定された旅行先名を焼き込みます。
［トラベル日付］	[OFF] [ON]：[トラベル日付]で設定されたトラベル日付を焼き込みます。
［タイトル］	[OFF] [ON]：[タイトル入力]で入力されたタイトルを焼き込みます。

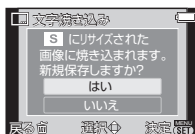
▲/▼/◄/► はカーソルボタンの上下左右を表しています。

6 [MENU/SET]を押す

- 記録画素数が[S]より大きい画像に文字焼き込みを行う場合は、以下のように記録画素数が小さくなります。
  - L/M →S(4:3)
  - L/M →S(3:2)
  - L/M →S(16:9)
  - L/M →S(1:1)
- [ ]または[/]選択時、[月齢/年齢]も焼き込む場合は▲で[はい]を選び、[MENU/SET]を押して手順7へ進んでください。

7 ▲で[はい]を選び、[MENU/SET]を押す

- 記録画素数が[S]で撮影された画像の場合はリサイズ(縮小)されませんので、「新規保存しますか？」のメッセージだけが表示されます。

(例)

8 [ ]を押してメニュー画面に戻る※

※[複数設定]選択時は、自動的にメニュー画面に戻ります。

- [MENU/SET]を押してメニューを終了します。

お知らせ

- 文字焼き込みされた画像をプリントする場合、お店やプリンターで日付プリントを指定すると、日付が重なってプリントされます。
- [複数設定]で一度に設定できるのは50枚までです。
- 文字焼き込みを行うと画質が粗くなることがあります。
- 使用するプリンターによっては文字が切れる場合がありますので、事前にご確認ください。
- 以下の場合、文字や日付情報を焼き込むことができません。
  - 動画
  - 音声付き写真
  - 時計とタイトルを設定せずに撮影された画像
  - 文字焼き込みされた画像
  - クオリティを[RAW]、[RAW]または[RAW]にして撮影された画像
  - 他機で撮影された画像

再生メニューを使う（つづき）

▲/▼/◀/▶ はカーソルボタンの上下左右を表しています。

[動画分割アイコン]動画分割

撮影した動画を2つに分割できます。必要な部分と不要な部分を分割したいときにおすすめです。**分割前の動画は消去されます。**

1 再生メニューから[動画分割]を選ぶ

2 ◀/▶ で分割編集したい動画を選び、[MENU/SET]を押す

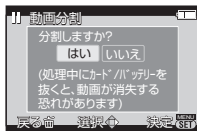
● 動画が再生されます。

3 分割したい位置で ▲ を押す

● 動画が一時停止されます。
もう一度▲を押すと、続きから動画が再生されます。

4 ▼を押し、分割を実行する

5 ◀で[はい]を選び、[MENU/SET]を押す

● 分割処理中にカードまたはバッテリーを抜くと、動画が消失する恐れがあります。

6 [🗑]を押してメニュー画面に戻る

● [MENU/SET]を押してメニューを終了します。

お知らせ

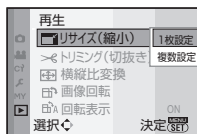
● [プリント設定]で設定された動画を分割すると、[プリント設定]は解除されます。
● 動画の最初や最後のほうでは分割できない場合があります。
● 他機で撮影された動画は、[動画分割]できない場合があります。
● [MOTION JPEG]動画の場合、分割すると画像の順番が変わります。カレンダー再生(P57)や、[再生モード](P144)の[MOTION JPEG]で表示することをおすすめします。
● [AVCHD Lite]動画の場合、画像の順番は変わりません。
● 以下の場合、動画分割はできません。
・[お気に入り]設定された動画
・プロテクトされた動画
・撮影時間が短い動画

再生メニューの設定方法はP32へ

リサイズ(縮小)　画像サイズ(画素数)を小さくする

ホームページ用やメール添付などで送信しやすいように、画像の容量(記録画素数)を小さくします。

1 再生メニューから[リサイズ(縮小)]を選ぶ

2 ▲/▼で[1枚設定]または[複数設定]を選び、[MENU/SET]を押す

3 画像、サイズを選ぶ

[1枚設定]選択時

1 ◀/▶で画像を選び、[MENU/SET]を押す

2 ◀/▶でサイズ※を選び、[MENU/SET]を押す

※リサイズ(縮小)できるサイズのみ表示されます。

[1枚設定]

[複数設定]選択時

1 ▲/▼でサイズを選び、[MENU/SET]を押す

2 ▲/▼/◀/▶で画像を選び、[DISPLAY]を押す

●この手順を繰り返し、[MENU/SET]を押して決定します。

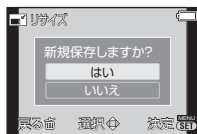
[複数設定]

4 ▲で[はい]を選び、[MENU/SET]を押す

5 [🗑]を押してメニュー画面に戻る※

※[複数設定]選択時は、自動的にメニュー画面に戻ります。

●[MENU/SET]を押してメニューを終了します。

リサイズ
新規保存しますか?
はい
いいえ
戻る　選択　決定

お知らせ

- [複数設定]で一度に設定できるのは50枚までです。
- リサイズ(縮小)を行うと画質が粗くなります。
- 他機で撮影された画像はリサイズ(縮小)できない場合があります。
- 動画、音声付き写真、文字焼き込みされた画像、クオリティを[RAW]、[RAW]または[RAW]にして撮影された画像はリサイズ(縮小)できません。

再生メニューを使う（つづき）

▲/▼/◀/▶ はカーソルボタンの上下左右を表しています。

✂トリミング（切抜き）　画像を切り抜く

撮影した画像の必要な部分を拡大して切り抜くことができます。

1 再生メニューから [トリミング（切抜き）] を選ぶ

2 ◀/▶ で画像を選び、[MENU/SET] を押す

3 後ダイヤルと ▲/▼/◀/▶ で切り抜く部分を選ぶ

後ダイヤル（右回し）: 拡大
後ダイヤル（左回し）: 縮小

▲/▼/◀/▶ : 移動

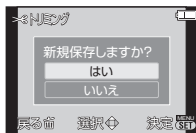
縮小　拡大

位置を移動

4 [MENU/SET] を押す

5 ▲ で [はい] を選び、[MENU/SET] を押す

6 [🗑] を押してメニュー画面に戻る

- [MENU/SET] を押してメニューを終了します。

お知らせ

- トリミング（切抜き）を行うと、切り取るサイズによっては元の画像より記録画素数が小さくなる場合があります。
- トリミング（切抜き）を行うと画質が粗くなります。
- 他機で撮影された画像はトリミング（切抜き）できない場合があります。
- 動画、音声付き写真、文字焼き込みされた画像、クオリティを [RAW▲]、[RAW▲] または [RAW] にして撮影された画像はトリミング（切抜き）できません。
- トリミング（切抜き）を行った画像には、元の画像の個人認証に関する情報はコピーされません。

再生メニューの設定方法はP32へ

横縦比変換

[16:9]で撮影した画像を、プリント用に[3:2]、[4:3]または[1:1]に変換することができます。

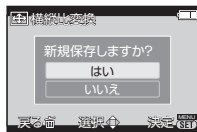
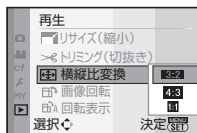
1 再生メニューから[横縦比変換]を選ぶ

2 ▲/▼で[3:2]、[4:3]または[1:1]を選び、[MENU/SET]を押す

3 ◄/►で[16:9]の画像を選び、[MENU/SET]を押す

4 ◄/►で左右の位置を決定し、[MENU/SET]を押して決定する

- 縦に回転されている画像は▲/▼で枠を移動できます。

5 ▲で[はい]を選び、[MENU/SET]を押す

6 [🗑]を押してメニュー画面に戻る

- [MENU/SET]を押してメニューを終了します。

お知らせ

- 横縦比変換を行うと、変換後の画素数が元の画像より大きくなる場合があります。
- 他機で撮影された画像は横縦比変換できない場合があります。
- 動画、音声付き写真、文字焼き込みされた画像、クオリティを[RAW]、[RAW]または[RAW]にして撮影された画像は横縦比変換できません。
- 横縦比変換した画像には、元の画像の個人認証に関する情報はコピーされません。

再生メニューを使う（つづき）

▲/▼/◀/▶ はカーソルボタンの上下左右を表しています。

画像回転/回転表示

本機を縦に構えて撮影した画像を自動で縦向きに表示させたり、画像を手動で90°ごとに回転させることができます。

画像回転（画像を手動で回転する）

1 再生メニューから［画像回転］を選ぶ

- ［回転表示］を［OFF］に設定すると、［画像回転］は選択できません。

2 ◀/▶ で画像を選び、［MENU/SET］を押す

- 動画、プロテクトされた画像は回転できません。

3 ▲/▼ で回転方向を選び、［MENU/SET］を押す

（時計回り矢印）：時計回りに90°回転します。
（反時計回り矢印）：反時計回りに90°回転します。

4 ［削除］を押してメニュー画面に戻る

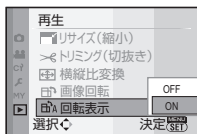
- ［MENU/SET］を押してメニューを終了します。

回転表示（画像を自動で回転して表示する）

1 再生メニューから［回転表示］を選ぶ

2 ▼で［ON］を選び、［MENU/SET］を押す

- ［OFF］に設定すると、画像は回転されずに表示されます。
- 画像を再生する方法については、56ページをお読みください。

3 ［MENU/SET］を押してメニューを終了する

お知らせ

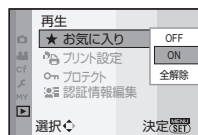
- ［回転表示］は、縦位置検出機能（P41）に対応したレンズ（P19）を使用しているときのみ使えます。
- パソコンで再生するとき、Exifに対応したOSまたはソフトウェアでないと、回転して表示されないことがあります。［Exifとは、（社）電子情報技術産業協会（JEITA）にて制定された、撮影情報などの付帯情報を追加することができる写真用のファイルフォーマットです］
- 他機で撮影された画像は回転できない場合があります。
- マルチ再生（P57）時は、回転表示されません。
- 本機の上下を逆にして撮影した画像は回転表示されません。

★お気に入り

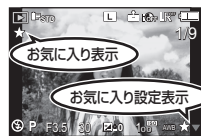
画像にマークを付け、お気に入り画像として設定しておくと、以下のことができます。
- お気に入りに設定した画像のみスライドショーする。
- お気に入りに設定した画像のみ再生する。([お気に入り再生])
- お気に入りに設定した画像以外を消去する。([★以外全消去])

1 再生メニューから[お気に入り]を選ぶ

2 ▼で[ON]を選び、[MENU/SET]を押す

- [OFF]に設定するとお気に入り設定できません。設定済み画像の表示[★]も表示されません。

3 [MENU/SET]を押してメニューを終了する

4 再生中に◀/▶で画像を選び、▼で設定する

- この手順を繰り返します。
- もう一度▼を押すと解除されます。

■ [お気に入り]設定を全解除する

1 手順2で[全解除]を選び、[MENU/SET]を押す
2 ▲で[はい]を選び、[MENU/SET]を押す
3 [MENU/SET]を押してメニューを終了する
- 設定済みの画像が1枚もない場合は、[全解除]を選択できません。
- [再生モード]を設定中は、[全解除]を選択できません。

お知らせ

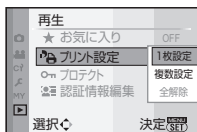
- 999枚まで設定できます。
- お店にプリントを依頼するときに、[★以外全消去](P59)の機能を利用すると、プリントに出したい画像だけをカードに残しておけるので便利です。
- 他機で撮影された画像では、[お気に入り]設定ができない場合があります。
- [クオリティ]を[RAW]にして撮影された画像は、お気に入りに設定できません。

再生メニューを使う（つづき）

プリント設定

DPOFプリントに対応したお店やプリンターでプリントするときに、画像、枚数や日付プリントを指定することができます。詳しくは、お店にお尋ねください。

1 再生メニューから[プリント設定]を選ぶ

2 ▲/▼で[1枚設定]または[複数設定]を選び、[MENU/SET]を押す

3 画像を選び、[MENU/SET]を押す

4 ▲/▼でプリント枚数を設定し、[MENU/SET]で決定する

- [複数設定]選択時は、手順**3**、**4**を繰り返してください。(一括設定することはできません)

[1枚設定]

◀/▶で選びます。

[複数設定]

▲/▼/◀/▶で選びます。

5 [削除]を押してメニュー画面に戻る

- [MENU/SET]を押してメニューを終了します。

■ [プリント設定]を全解除する

1 手順**2**で[全解除]を選び、[MENU/SET]を押す
2 ▲で[はい]を選び、[MENU/SET]を押す
3 [MENU/SET]を押してメニューを終了する

- [プリント設定]で設定された画像が1枚もない場合は、[全解除]を選択できません。

■ 日付をプリントする

プリント枚数設定時、[DISPLAY]を押すごとに日付プリントを設定/解除できます。

- お店にデジタルプリントを依頼するときは、日付プリントすることをお店で指定してください。
- 日付プリントを設定しても、お店やプリンターによっては日付プリントできない場合があります。詳しくは、お店に尋ねるか、プリンターの説明書をお読みください。
- 文字焼き込みされた画像に日付プリントは設定できません。

お知らせ

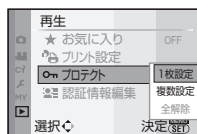
- プリント枚数は0〜999枚まで設定できます。
- PictBridge対応のプリンターでは、プリンター側の日付プリント設定が優先される場合がありますので、確認してください。
- 他機で設定した[プリント設定]は利用できない場合があります。そのときはすべて解除してから再設定してください。
- DCF規格に準拠していないファイルには設定できません。
- [AVCHD Lite]で撮影された動画、[クオリティ]を[RAW]にして撮影された画像は、プリント設定できません。

▲/▼/◄/► はカーソルボタンの上下左右を表しています。

プロテクト

画像を誤って消去することがないように、消去したくない画像にプロテクトを設定することができます。

1 再生メニューから[プロテクト]を選ぶ

2 ▲/▼で[1枚設定]または[複数設定]を選び、[MENU/SET]を押す

3 画像を選び、[MENU/SET]で設定する

[複数設定]選択時
- この手順を繰り返します。
- もう一度[MENU/SET]を押すと設定が解除されます。

[1枚設定]

◄/► で選びます。

[複数設定]

▲/▼/◄/► で選びます。

4 [㎡]を押してメニュー画面に戻る

- [MENU/SET]を押してメニューを終了します。

■[プロテクト]設定を全解除する

1 手順**2**で[全解除]を選び、[MENU/SET]を押す
2 ▲で[はい]を選び、[MENU/SET]を押す
3 [MENU/SET]を押してメニューを終了する

- 全解除中に[MENU/SET]を押すと、途中で全解除が中止されます。

お知らせ

- [プロテクト]設定は本機以外では無効になる場合がありますので、お気をつけください。
- 画像をプロテクトしても、フォーマットした場合は消去されます。
- 画像をプロテクトしなくても、カードの書き込み禁止スイッチを「LOCK」側にしておくと、消去はされません。

再生メニューを使う（つづき）

▲/▼/◀/▶ はカーソルボタンの上下左右を表しています。

再生メニューの設定方法はP32へ

認証情報編集

選択した画像の個人認証に関する情報の解除や入れ換えができます。

1 再生メニューから[認証情報編集]を選ぶ

2 ▲/▼で[入換え]または[解除]を選び、[MENU/SET]を押す

3 ◀/▶で画像を選び、[MENU/SET]を押す
- 個人認証情報が登録されていない画像は選択できません。

4 ◀/▶で人物を選び、[MENU/SET]を押す
- [解除]→手順**6**へ
- 個人認証情報が登録されていない人物は選択できません。

5 ▲/▼/◀/▶で入れ換えたい人物の画像を選び、[MENU/SET]を押す

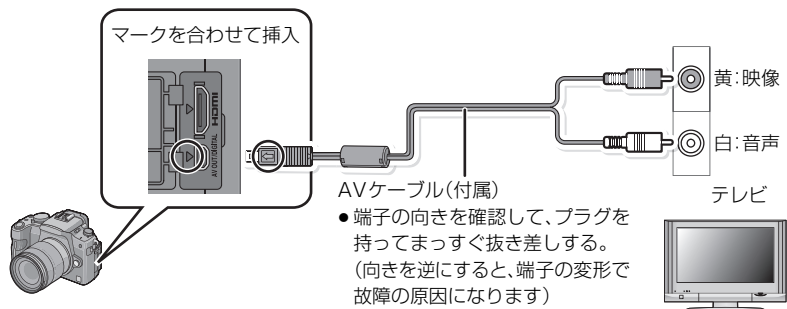
6 ▲で[はい]を選び、[MENU/SET]を押す

7 [ゴミ箱]を押してメニュー画面に戻る
- [MENU/SET]を押してメニューを終了します。

お知らせ
- 解除した個人認証に関する情報は元に戻すことができません。
- 個人認証情報をすべて解除した画像は、[カテゴリー再生]の個人認証に分類されません。
- プロテクトされた画像は認証情報編集できません。

テレビで見る

AVケーブル(付属)を使って見る

準備：[TV画面タイプ](P37)を設定する。
本機の電源を[OFF]にし、テレビの電源も切っておく。

1 テレビの映像入力端子と音声入力端子にAVケーブルを接続する

2 本機の[AV OUT]端子にAVケーブルを確実に接続する

3 テレビの電源を入れ、外部入力にする

4 本機の電源を[ON]にし、[▶]を押す

お知らせ

- [画像横縦比]によっては、画像の上下や左右に黒い帯が付いて表示されることがあります。
- 付属のAVケーブル以外は使わないでください。
- テレビの説明書もお読みください。
- 画像を縦にして再生すると、多少ぼやけることがあります。
- 音声はモノラルで再生されます。
- AVケーブル接続時はファインダー表示はできません。
- テレビ画面に表示されるタッチアイコンをタッチしても操作できません。

SDカードスロット付きテレビで見る

SDカードスロット付きテレビにカードを入れて、撮影した写真を再生することができます。

お知らせ

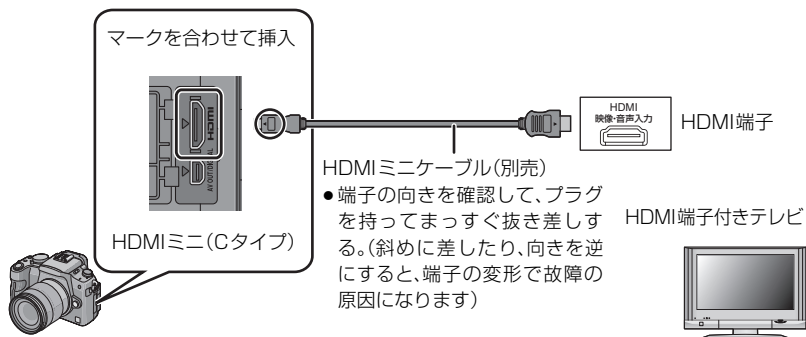
- テレビの機種によって、画像がテレビの全画面で表示されないことがあります。
- [AVCHD Lite]で撮影した動画は、AVCHDのロゴマークが付いている当社製テレビ(ビエラ)で再生することができます。その他の場合、動画を再生するときは、AVケーブル(付属)を使用し、本機をテレビに接続してください。
- SDHCメモリーカードは、SDHCメモリーカードまたはSDXCメモリーカードに対応しているテレビでなければ再生できません。
- SDXCメモリーカードは、SDXCメモリーカードに対応しているテレビでなければ再生できません。

テレビで見る（つづき）

HDMI端子付きテレビで見る

HDMIミニケーブル(別売)を使って本機をHDMI対応のハイビジョンテレビと接続すると、高画質な画像や動画をテレビで楽しむことができます。

HDMIとは
HDMIはデジタル機器向けのインターフェースです。HDMI対応機器と接続すると、デジタル信号で映像や音声を出力することができます。本機をHDMI対応のハイビジョンテレビと接続して再生すると、撮影したハイビジョン映像を高画質･高音質で楽しむことができます。また、ビエラリンク(HDMI)に対応した当社製テレビ(ビエラ)と接続すると連動操作(ビエラリンク)ができます。(P159)

準備：[HDMI出力解像度](P38)を確認する。
本機の電源を[OFF]にし、テレビの電源も切っておく。

1 テレビのHDMI端子にHDMIミニケーブルを接続する

2 本機の[HDMI]端子にHDMIミニケーブルを確実に接続する

3 テレビの電源を入れ、HDMI入力に切り換える

4 本機の電源を[ON]にし、[▶]を押す

- [ビエラリンク](P38)を[ON]に設定していてビエラリンク対応テレビに接続した場合は、テレビの入力切換が自動で切り換わり、再生画面が表示されます。(P159)

お知らせ

- [画像横縦比]によっては、画像の上下や左右に帯が付いて表示されることがあります。
- 当社製HDMIミニケーブル(別売)をお使いください。
  ・品番:RP-CDHM15(1.5 m)、RP-CDHM30(3.0 m)
- AVケーブルとHDMIミニケーブルを同時に接続しているときは、HDMIミニケーブルからの出力が優先されます。
- パソコンやプリンターと接続しているときは、HDMIミニケーブルを接続してもHDMI出力できません。
- HDMIミニケーブルから出力しているときに、USB接続ケーブルを挿入すると、HDMI出力は解除され、USB接続ケーブルでの接続が優先されます。
- HDMI出力しているときは、液晶モニター/ファインダーに画像は表示されません。
- 画像が表示される際、テレビの機種によって画像が乱れる場合があります。
- テレビの説明書もお読みください。
- 音声はモノラルで再生されます。
- ステレオマイクロホン(別売:DMW-MS1)を装着し、[STEREO]で記録された音声は、ステレオで再生されます。ステレオマイクロホンについては、177ページをお読みください。

ビエラリンク(HDMI)(HDAVI Control™)を使う

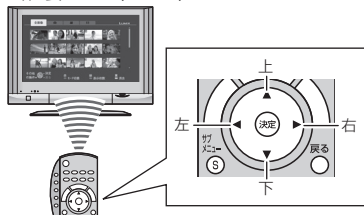
ビエラリンク(HDMI)とは

- 本機とHDMIミニケーブル(別売)を使って接続したビエラリンク対応機器を自動的に連動させて、ビエラのリモコンで簡単に操作できる機能です。(すべての操作ができるものではありません)
- ビエラリンク(HDMI)はHDMI CEC (Consumer Electronics Control)と呼ばれる業界標準のHDMIによるコントロール機能をベースに、当社独自機能を追加したものです。他社製HDMI CEC対応機器との動作保証はしておりません。ビエラリンク(HDMI)に対応した他社製品については、その製品の取扱説明書をご確認ください。
- 本機は、ビエラリンク(HDMI) Ver.5に対応しています。ビエラリンク(HDMI) Ver.5とは、従来の当社製ビエラリンク機器にも対応した最新の当社基準です。(2009年12月現在)

準備: [ビエラリンク](P38)を[ON]に設定する。

1 **HDMIミニケーブルで、本機とビエラリンク(HDMI)に対応した当社製テレビ(ビエラ)をつなぐ(P158)**

2 **本機の電源を[ON]にし、[▶]を押す**

3 **テレビのリモコンで操作する**

テレビで見る（つづき）

■ 使用できる機能

テレビのリモコンで操作します。

マルチ再生	**ビエラリンク使用時にはじめに表示されます** ▲/▼/◀/▶：　画像を選ぶ [決定]：　1 画面表示へ進む [赤]：　再生するデータの種類を切り換える [サブメニュー]：　再生モード選択画面を表示する ● 再生するデータの種類は、 [全画像]→[ ]→[ ]→[ ]→[全画像]の順に切り換わります。 ● [全画像]時の再生モード選択画面では、 [通常再生]/[スライドショー]/[カテゴリー再生]/[お気に入り再生]/[カレンダー検索]のいずれかを選択できます。
1 画面表示 操作アイコン	**マルチ再生時に画像を選び、[決定] を押す** ◀/▶：　画像を送る ▲：　撮影情報を表示する ▼：　マルチ再生に戻る [決定]：　動画を再生する（動画選択時）/ 音声を再生する（音声付き写真選択時） [赤]：　スライドショーを開始する [サブメニュー]：　スライドショー設定画面へ進む ● 動画再生中は ◀/▶ で早戻し / 早送り、▼ で再生を終了します。
スライドショー 操作アイコン	**1 画面表示時に [赤] を押す** ◀/▶：　画像を送る（動画再生時/一時停止時） ▼：　スライドショーを終了し、1 画面表示に戻る [決定]：　一時停止する [サブメニュー]：　スライドショー設定画面へ進む ● 動画の音声を再生するには、スライドショー設定画面で[音設定]を[AUTO]または[音声]に設定してください。

お知らせ

- 操作アイコン表示中に[戻る]を押すか、しばらく何も操作しないと、操作アイコンが非表示になります。また操作アイコン非表示中に以下のボタンのいずれかを押すと、操作アイコンが表示されます。
  - ・▲/▼/◀/▶、[決定]、[サブメニュー]、[戻る]、[赤]、[緑]、[黄]
- テレビに2つ以上のHDMI入力端子がある場合は、本機をHDMI1以外に接続することをおすすめします。
- 本機の[ビエラリンク](P38)を[ON]に設定している場合は、本機のボタンを使っての操作は制限されます。
- 接続したテレビ側のビエラリンク(HDMI)が働くように設定しておいてください。(設定方法などはテレビの取扱説明書をお読みください)
- ビエラリンク(HDMI)を使用しない場合は、本機の[ビエラリンク](P38)を[OFF]に設定してください。

■ その他の連動操作について

電源OFF

テレビのリモコンを使ってテレビの電源を切ると、本機の電源も連動して切れます。(USB接続ケーブルでパソコンと接続時などは電源は切れません)

自動入力切換

- HDMIミニケーブルで接続して本機の電源を入れ、本機の[▶]を押すと、テレビの入力切換を自動で本機の画面に切り換えます。また、テレビの電源が待機状態のときは自動で電源が入ります。(テレビの「電源オン連動」を「する」に設定している場合)
- テレビのHDMI端子によっては、入力切換が自動で切り換わらない場合があります。そのときはテレビのリモコンを使って入力切換してください。(入力切換の方法はテレビの取扱説明書をお読みください)
- ビエラリンク(HDMI)が正しく働かない場合は、191ページをご確認ください。

お知らせ

- お使いのテレビがビエラリンク(HDMI)対応かわからないときは、接続した当社製テレビにビエラリンク(HDMI)のロゴマークが付いているかご確認いただくか、テレビの取扱説明書をお読みください。

- HDMI規格に準拠していないケーブルでは動作しません。
- 当社製HDMIミニケーブル(別売)をお使いください。
  - ・品番:RP-CDHM15(1.5 m)、RP-CDHM30(3.0 m)
- パソコンやプリンターと接続しているときは、HDMIミニケーブルを接続してもビエラリンクが働きません。
- ビエラリンク動作時、本機の[HDMI出力解像度](P38)は自動的に判別されます。
- 本機以外で撮影された[AVCHD Lite]動画を本機で再生する場合、自動的に解像度が切り換わることがあります。その際にしばらくの間、画面が黒くなることがありますが故障ではありません。

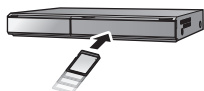
記録した写真や動画を残す

本機で記録した写真や動画は、そのファイル形式(JPEG、RAW、AVCHD Lite、Motion JPEG)によって他の機器への取り込み方法が異なります。お使いの機器により、以下の方法をお選びください。

SDカードをレコーダーに入れてダビングする

取り込み可能なファイル形式: 写真(JPEG)/動画(AVCHD Lite)

当社製ブルーレイディスクレコーダーやDVDレコーダーに本機で撮影したSDカードを入れると、ブルーレイディスクやDVDディスク、ハードディスクにダビングすることができます。

- [AVCHD Lite]で撮影された動画は、AVCHDに対応していない機器(従来のDVDレコーダーなど)では再生できません。また、再生可能なAVCHD対応機器でも、ダビングができない機器もあります。
- SDHCメモリーカードは、SDHCメモリーカードまたはSDXCメモリーカードに対応しているレコーダーでなければ再生できません。
- SDXCメモリーカードは、SDXCメモリーカードに対応しているレコーダーでなければ再生できません。
- ダビングや再生方法など詳しくは、レコーダーの取扱説明書をお読みください。

AVケーブルを使って再生映像をダビングする

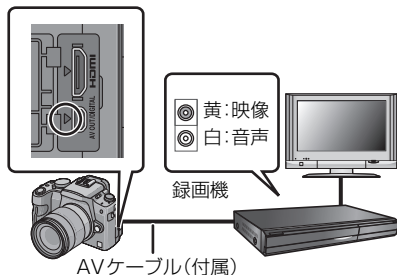
取り込み可能なファイル形式: 動画(AVCHD Lite、Motion JPEG)

本機で再生した映像をブルーレイディスクレコーダーやDVDレコーダー、ビデオなどを使い、ブルーレイディスクやDVDディスク、ハードディスク、ビデオなどにダビングします。ハイビジョン(AVCHD)対応機器以外でも再生できるので、ダビングして配る場合などに便利です。このとき映像はハイビジョンではなく、標準の画質になります。

1 本機と録画機をAVケーブル(付属)で接続する

2 本機で再生を始める

3 録画機で録画を始める

- 録画(ダビング)を終了するときは、録画機の録画を停止したあと、本機の再生を停止してください。

お知らせ

- 横縦比が4:3のテレビでご覧になる場合は、必ず本機の[TV画面タイプ](P37)を[4:3]に設定してダビングしてください。[16:9]に設定してダビングした動画を4:3のテレビで見ると、縦長の映像になります。
- ダビング時は本機の[DISPLAY]を押し、画面表示を消しておくことをおすすめします。(P56)
- ダビングや再生方法など詳しくは、録画機の取扱説明書をお読みください。

「PHOTOfunSTUDIO 5.0 HD Edition」を使って パソコンにコピーする

取り込み可能なファイル形式: 写真 (JPEG、RAW)/動画 (AVCHD Lite、Motion JPEG)

CD-ROM(付属)のソフトウェア「PHOTOfunSTUDIO 5.0 HD Edition」を使ってパソコンに写真や[AVCHD Lite]、[MOTION JPEG]で撮影した動画を取り込んだり、[AVCHD Lite]で撮影した動画から、従来の標準画質のDVDビデオを作成することなどができます。(P164)

またDVDへの画像書き込み、複数の写真をつなぎ合わせて一枚のパノラマ写真に合成やお好みの音楽や効果を付けてスライドショーを作成などができ、それらをDVDに保存することもできます。

1 お使いのパソコンに「PHOTOfunSTUDIO 5.0 HD Edition」をインストールする
- 動作環境やインストールについて、詳しくは別冊の「パソコン接続編取扱説明書」および「付属ソフトについてのお知らせ」をお読みください。

2 本機とパソコンを接続する
- 接続のしかたについては、165ページ「パソコンと接続する」をお読みください。

3 「PHOTOfunSTUDIO 5.0 HD Edition」を使って画像をパソコンにコピーする
- 詳しくは「PHOTOfunSTUDIO 5.0 HD Edition」の取扱説明書(PDF)をお読みください。

お知らせ
- 取り込んだ[AVCHD Lite]動画に関するファイルやフォルダーを、Windowsのエクスプローラーなどで消去、変更、移動をすると再生、編集などができなくなりますので、[AVCHD Lite]動画は必ず「PHOTOfunSTUDIO 5.0 HD Edition」を使って取り込んでください。

パソコンと接続する

本機をパソコンと接続すると、本機の画像をパソコンに取り込むことができます。

- お使いのパソコンによっては、取り出したカードから直接読み込むこともできます。詳しくは、パソコンの説明書をお読みください。
- **SDXCメモリーカードにパソコンが対応していない場合、フォーマットを促すメッセージが表示されることがあります。(撮影した画像が消去されますので、フォーマットしないでください)カードを認識しない場合は、下記のサポートサイトをご覧ください。**
  http://panasonic.jp/support/sd_w/
- 取り込んだ画像はプリントやメール送信などにお使いいただけます。CD-ROM(付属)のソフトウェア「PHOTOfunSTUDIO 5.0 HD Edition」を使うと便利です。
- CD-ROM(付属)のソフトウェアや動作環境、インストールなど詳しくは、**別冊の「パソコン接続編取扱説明書」**および**「付属ソフトについてのお知らせ」**をお読みください。

■ 使用できるパソコン

<table>
<tr><th></th><th colspan="3">Windows</th><th>Macintosh</th></tr>
<tr><td></td><td>98/98SE</td><td>Me/2000</td><td>XP/Vista/7</td><td>OS 9/OS X</td></tr>
<tr><td>PHOTOfunSTUDIOは使える?</td><td colspan="2">使えません</td><td>使えます※1</td><td>使えません</td></tr>
<tr><td>[AVCHD Lite]動画をパソコンに取り込める?</td><td colspan="2">取り込めません</td><td>取り込めます※2</td><td>取り込めません</td></tr>
<tr><td>USB接続ケーブルを使ってデジタルカメラの写真、[MOTION JPEG]動画をパソコンに取り込める?</td><td>取り込めません</td><td colspan="2">取り込めます</td><td>取り込めます(OS 9.2.2/OS X [10.1～10.6])</td></tr>
</table>

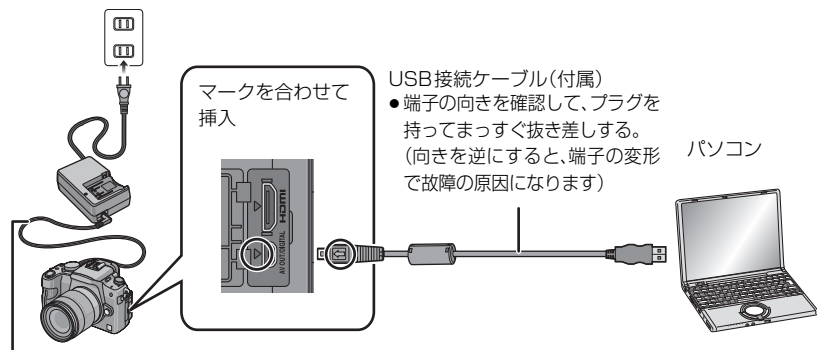
- Windows 98/98SE以前またはMac OS 8.x以前のパソコンは、USB接続はできませんが、SDメモリーカードリーダー/ライターが利用できれば取り込めます。

※1 Internet Explorer 6.0 以上がインストールされている必要があります。
お使いになる機能によっては処理能力が高いパソコンが必要になります。お使いになるパソコンの環境によっては正しく再生されなかったり、正しく動作しない場合があります。

※2 [AVCHD Lite] 動画は必ず「PHOTOfunSTUDIO 5.0 HD Edition」を使って取り込んでください。

▲/▼/◀/▶はカーソルボタンの上下左右を表しています。

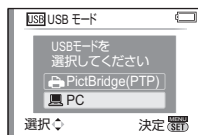
写真、[MOTION JPEG]動画を取り込む([AVCHD Lite]動画以外)

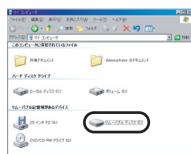
準備：本機の液晶モニターの液晶面を表にする。
本機とパソコンの電源を入れる。

● 十分に充電されたバッテリーまたはACアダプター(P178)を使用してください。バッテリー使用時、USB接続中にバッテリー残量が少なくなると、電源表示ランプが点滅し、警告音が鳴ります。「安全にUSB接続ケーブルを取り外す」(P166)をお読みのうえ、USB接続ケーブルを抜いてください。データが破壊される恐れがあります。

1 USB接続ケーブル(付属)を本機とパソコンに挿入する

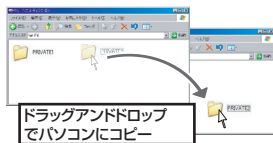
● **付属のUSB接続ケーブル以外は使わないでください。故障の原因になります。**

2 ▲/▼で[PC]を選び、[MENU/SET]を押す

● セットアップメニューで[USBモード](P37)を[PC]に設定しておくと、[USBモード]の選択画面は表示されず、自動的にPCと接続します。接続のたびに設定する必要がないので、便利です。
● [USBモード]を[PictBridge(PTP)]にして接続した場合、パソコンの画面にメッセージが表示される場合があります。
[キャンセル](中止)を選んで画面を閉じ、パソコンとの接続を外してください。[USBモード]を[PC]に設定し直してください。

3 「マイコンピュータ」にある「リムーバブルディスク」をダブルクリックする

● Macintoshの場合は、デスクトップ上にドライブが表示されます。
(「LUMIX」、「NO_NAME」または「名称未設定」と表示されます)

4 「DCIM」フォルダーをダブルクリックする

パソコンと接続する（つづき）

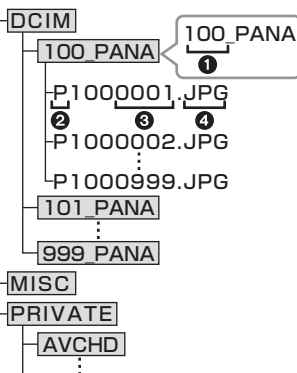
5 取り込みたい画像の入っているフォルダーやファイルを、パソコン上の別のフォルダーにドラッグアンドドロップする

■ 安全にUSB接続ケーブルを取り外す

- パソコンでタスクトレイの「ハードウェアの安全な取り外し」を行ってください。アイコンが表示されていない場合は、デジタルカメラの液晶モニターに[通信中]が表示されていないことを確認してから取り外してください。

お知らせ

- 本機の電源を切ってからACアダプター(P178)を抜き差ししてください。
- カードの抜き差しは電源を切って、USB接続ケーブルを抜いてから行ってください。データが破壊される恐れがあります。

■ カードの中をパソコンで見る(フォルダー構造)

- パソコンで加工したフォルダーや画像はカメラ本体で再生できません。
  パソコンからカードに画像を書き込む際には、CD-ROM(付属)のソフトウェア「PHOTOfunSTUDIO 5.0 HD Edition」を使うことをおすすめします。

❶ フォルダー番号
❷ 色空間
P: sRGB
_: AdobeRGB
❸ ファイル番号
❹ JPG: 画像
MOV: MOTION JPEG 動画
RW2: RAW ファイルの画像
MISC: DPOFプリント
お気に入り
AVCHD: AVCHD Lite 動画

以下の場合に撮影すると新しいフォルダーが作成されます。
- セットアップメニューの[番号リセット](P39)実行後
- 同じフォルダー番号のあるカードを挿入した場合(他社のカメラで撮影した場合など)
- フォルダー内にファイル番号999の画像がある場合

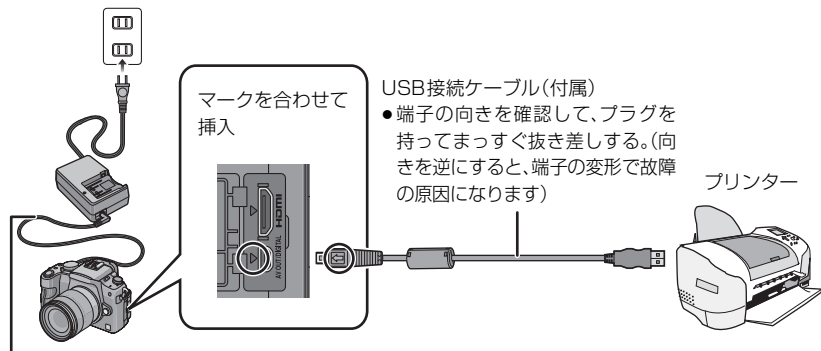
■ PTPモードで接続する
(Windows® XP/Windows Vista®/Windows® 7/Mac OS Xのみ)

[USBモード]を[PictBridge(PTP)]にしてください。
カードからパソコンへの読み込みのみ可能です。
- PTPモードでカードの中に1000枚以上の画像があると、取り込めない場合があります。
- PTPモードでは [AVCHD Lite] で撮影された動画は再生できません。

プリントする

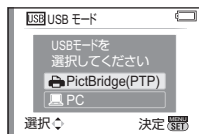
▲/▼/◀/▶ はカーソルボタンの上下左右を表しています。

PictBridgeに対応したプリンターに接続すると、本機の液晶モニター上でプリントする画像を選択したり、プリント開始を指示することができます。
- お使いのプリンターによっては、取り出したカードから直接プリントすることもできます。詳しくは、プリンターの説明書をお読みください。

準備：本機とプリンターの電源を入れる。
　　　あらかじめプリンター側で印字品質などの設定をしておく。

- 十分に充電されたバッテリーまたはACアダプター（P178）を使用してください。接続中にバッテリー残量が少なくなった場合は、電源表示ランプが点滅し、警告音が鳴ります。すぐにプリントを中止してください。プリント中以外のときは、USB接続ケーブルを抜いてください。

1 USB接続ケーブル（付属）を本機とプリンターに挿入する

- プリンターと接続するとケーブル切断禁止アイコン[⊠]が表示されます。[⊠]表示中は、USB接続ケーブルを抜かないでください。

2 ▲/▼で [PictBridge(PTP)] を選び、[MENU/SET] を押す

お知らせ

- 付属のUSB接続ケーブル以外は使わないでください。故障の原因になります。
- 本機の電源を切ってからACアダプター（P178）を抜き差ししてください。
- カードの抜き差しは電源を切って、USB接続ケーブルを抜いてから行ってください。
- [AVCHD Lite]で撮影された動画はプリントできません。

プリントする（つづき）

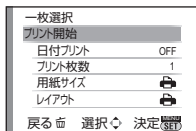
▲/▼/◀/▶ はカーソルボタンの上下左右を表しています。

画像を選んで 1 枚ずつプリントする

1 ◀/▶ で画像を選び、[MENU/SET] を押す

- メッセージは約２秒後に消えます。

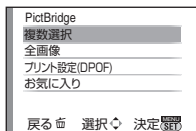
2 ▲で[プリント開始]を選び、[MENU/SET]を押す

- プリント開始前に設定できる項目については169ページをお読みください。
- 途中でプリントを中止するには[MENU/SET]を押してください。
- プリント終了後、USB接続ケーブルを抜いてください。

複数の画像を選んでプリントする

1 ▲を押す

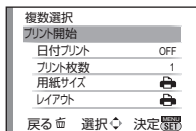
2 ▲/▼ で項目を選び、[MENU/SET] を押す

- プリント確認画面が表示された場合は、[はい]を選んでプリントしてください。

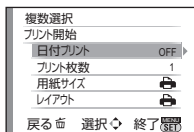
PictBridge
複数選択
全画像
プリント設定(DPOF)
お気に入り
戻る 選択 決定

項目	設定内容
複数選択	複数の画像を選んでプリントします。 ● ▲/▼/◀/▶ で画像を選び、[DISPLAY]を押すとプリントする画像に[ ]が表示されます。(もう一度[DISPLAY] を押すと設定が解除されます) ● 選択が終了したら[MENU/SET]を押してください。
全画像	保存されているすべての画像をプリントします。
プリント設定(DPOF)	[プリント設定]で設定(P154)された画像のみをプリントします。
お気に入り※	[お気に入り]設定(P153)された画像のみをプリントします。

※[お気に入り]が[ON]で、設定済みの画像があるときのみ(P153)

3 ▲で[プリント開始]を選び、[MENU/SET]を押す

- プリント開始前に設定できる項目については169ページをお読みください。
- 途中でプリントを中止するには[MENU/SET]を押してください。
- プリント終了後、USB接続ケーブルを抜いてください。

プリントの各種設定

「画像を選んで1枚ずつプリントする」の手順2、または「複数の画像を選んでプリントする」の手順3の画面でそれぞれの項目を選んで設定してください。

- 本機が対応していない用紙サイズやレイアウト設定でプリントしたい場合は、本機の用紙サイズ、レイアウト設定を[プリンター]にして、プリンター側で設定してください。(詳しくはプリンターの説明書をお読みください)
- [プリント設定(DPOF)]選択時には、[日付プリント]と[プリント枚数]の項目は表示されません。

日付プリント

項目	設定内容
OFF	日付プリントされません。
ON	日付プリントされます。

- プリンターが日付プリントに対応していない場合は、日付をプリントすることができません。
- 日付プリントの設定は、プリンター側の日付プリント設定が優先される場合がありますので、確認してください。
- 文字焼き込みされた画像をプリントする場合、日付プリントを指定すると、日付が重なってプリントされますので、日付プリントを [OFF] にしてください。
- 使用するプリンターによっては、画像横縦比を[1:1]に設定して撮影した画像の日付が、縦方向にプリントされる場合があります。

プリント枚数

プリントする枚数(最大999枚まで)を設定できます。

- 後ダイヤルでも設定できます。

用紙サイズ

項目	設定内容
(プリンター)	プリンターの設定が優先されます。
L/3.5″×5″	89 mm×127 mm
2L/5″×7″	127 mm×178 mm
はがき	100 mm×148 mm
16:9	101.6 mm×180.6 mm
A4	210 mm×297 mm

項目	設定内容
A3	297 mm×420 mm
10×15cm	100 mm×150 mm
4″×6″	101.6 mm×152.4 mm
8″×10″	203.2 mm×254 mm
レター	216 mm×279.4 mm
カード	54 mm×85.6 mm

- プリンターが対応していない用紙サイズは表示されません。

プリントする（つづき）

レイアウト（本機で設定可能なレイアウト）

項目	設定内容
[プリンター]	プリンターの設定が優先されます。
[1面ふちなし]	1面ふちなし印刷
[1面ふちあり]	1面ふちあり印刷
[2面]	2面印刷
[4面]	4面印刷

- プリンターが対応していない場合は、選択できない項目があります。

■ レイアウト印刷について

1枚の用紙に同じ画像を印刷する場合

例えば、1枚の用紙に同じ画像を4枚印刷する場合、[レイアウト]を[4面]、[プリント枚数]を4枚に設定してください。

1枚の用紙に異なる画像を印刷する場合

例えば、1枚の用紙に異なる画像を4枚印刷する場合、[レイアウト]を[4面]、[プリント枚数]を1枚に設定してください。

お知らせ

- プリント中にオレンジ色の[●]が表示されたときは、プリンターからエラーメッセージを受け取っています。プリント終了後にプリンターに異常がないか確認してください。
- プリント枚数が多い場合、複数回に分けてプリントされることがあります。このとき、残り枚数の表示は設定枚数と異なります。
- RAWファイルをプリントする場合、本機で同時に記録されたJPEG画像がプリントされます。JPEG画像がない場合はプリントできません。

画像に日付を入れるには

画像に日付を焼き込む

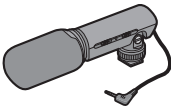
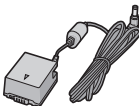
[文字焼き込み]を使って、画像に日付を焼き込むことができます。

- **お店やプリンターでプリントする場合は、日付が重なってプリントされますので日付プリントを指定しないでください。**

日付プリントを設定する

[プリント設定]のプリント枚数設定時に[DISPLAY]を押すと、押すごとに日付プリントを設定/解除できます。

→ **お店に依頼する場合**

設定さえしておけば、カードを取り出して、お店に日付入りで依頼するだけです。([個人認証]またはシーンモードの[赤ちゃん1]/[赤ちゃん2]、[ペット]の[月齢/年齢]や[名前]、[トラベル日付]、[旅行先]、または[タイトル入力]で入力した文字のプリントはお店では依頼できません)

→ **自宅でプリントする場合**

日付プリントに対応しているプリンターに本機を接続して、プリントするだけで日付プリントができます。

- CD-ROM(付属)のソフトウェア「PHOTOfunSTUDIO 5.0 HD Edition」を使って日付プリントすることができます。

※日付プリントを設定しても、お店やプリンターによっては日付プリントできない場合があります。詳しくは、お店に尋ねるか、プリンターの説明書をお読みください。

別売品のご紹介

品名:
バッテリーパック
品番:
DMW-BLB13

品名:
シャッターリモコン
品番:
DMW-RSL1

品名:
ステレオ
マイクロホン
品番:
DMW-MS1

品名:
DC ケーブル
品番:
DMW-DCC3

品名:
本革バッグ
品番:
DMW-BAL1

品名:
ソフトバッグ
品番:
DMW-BAG1

品名:
ソフトケース
品番:
DMW-CG1※1
DMW-CG2※2

品名:
三脚アダプター
品番:
DMW-TA1

- 取り付けたレンズが三脚の台座に接触する場合にお使いください。

品名:
フラッシュライト
品番:
DMW-FL220、DMW-FL360、DMW-FL500

品名:
ショルダーストラップ
品番:
DMW-SSTL1、
DMW-SSTG1、DMW-SSTG2、
DMW-SSTG3、DMW-SSTG5

品名:
ロングショルダーストラップ
品番:
DMW-SSTG6

- 斜め掛けに適したロングタイプのショルダーストラップです。

※1 DMC-G2KおよびDMC-G2Wに同梱の交換レンズ 14–42 mm/F3.5–5.6装着時
※2 DMC-G2Wに同梱の交換レンズ 45–200 mm/F4.0–5.6装着時

別売品のご紹介（つづき）

品名:
MCプロテクター
品番:
DMW-LMC52

品名:
NDフィルター
品番:
DMW-LND52

品名:
PLフィルター（サーキュラータイプ）
品番:
DMW-LPL52

● DMC-G2KおよびDMC-G2Wに同梱の交換レンズでは、これらのフィルターをお使いいただくことをおすすめします。
その他のレンズをお使いの場合は、お使いのレンズに対応したフィルターをお使いください。

品名:
HDMIミニケーブル
品番:
RP-CDHM15、RP-CDHM30

品名:
SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカード

品名:
交換レンズ
品番:
H-H020、H-FS014045、H-FS045200、H-VS014140、H-F007014、H-ES045

品名:
マウントアダプター
品番:
DMW-MA1（フォーサーズマウント用）

品名:
ライカ用マウントアダプター
品番:
DMW-MA2M（ライカMマウント用）
DMW-MA3R（ライカRマウント用）

マウントアダプターを使うと、以下のレンズが使えます。（一部の機能に制限があります）
· DMW-MA1 使用時
→ L-ES014050、L-X025、L-RS014050、L-RS014150

● 別売品の最新情報は、カタログ/ホームページなどをご覧ください。
http://panasonic.jp/support/dsc/

記載の品番は2010年3月現在のものです。変更されることがあります。

別売品は販売店でお買い求めいただけます。パナソニックの家電製品直販サイト「パナセンス」でお買い求めいただけるものもあります。
詳しくは「パナセンス」のサイトをご覧ください。

CLUB Panasonic
http://club.panasonic.jp/mall/sense/

携帯電話からもお買い求めできます。

http://p-mp.jp/cpm

外部フラッシュ（別売）を使う

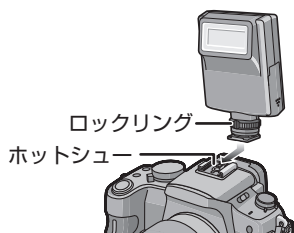
▲/▼/◄/► はカーソルボタンの上下左右を表しています。

外部フラッシュを使用すると、内蔵フラッシュに比べてフラッシュ撮影可能範囲が広がります。

準備:
- 本機の電源を[OFF]にし、内蔵フラッシュを閉じる。

■ 専用フラッシュライト(別売:DMW-FL220)を使う場合

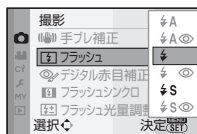
1 ホットシューに専用フラッシュライトを取り付け、本機と専用フラッシュライトの電源を入れる

- 専用フラッシュライトのロックリングは、確実に締め込んでください。

2 撮影メニューから[フラッシュ]を選ぶ(P32)

3 ▲/▼ でモードを選び、[MENU/SET] を押す

- 外部フラッシュ接続中は以下のアイコンが表示されます。

ϟ:外部フラッシュ強制発光
ϟS:外部フラッシュスローシンクロ

撮影
手ブレ補正
フラッシュ
デジタル赤目補正
フラッシュシンクロ
フラッシュ光量調整
選択 決定

4 [MENU/SET] を押して、メニューを終了する

- シャッターボタン半押しでも終了できます。

■ 本体(DMC-G2)との通信機能のない市販の外部フラッシュを使う場合

- 外部フラッシュ使用時の露出は、外部フラッシュ側で設定する必要があります。外部フラッシュをオートモードでお使いになる場合は、本体側で設定されている絞り値とISO感度に合わせることのできる製品をお使いください。
- 絞り優先AEまたはマニュアル露出モードにして使用し、本機で設定した絞り値とISO感度を外部フラッシュ側でも設定してください。(シャッター優先AEモードでは絞り値が変化するので適正露出が得られません。またプログラムAEモードでは絞り値が固定できないので、外部フラッシュの調光が適切に働きません。)

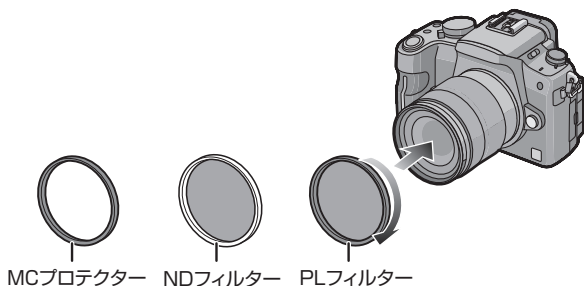
外部フラッシュ（別売）を使う（つづき）

お知らせ

- 外部フラッシュ装着時も本機の絞り値やシャッタースピード、ISO感度を設定できます。
- 市販の外部フラッシュには、シンクロ端子が高圧のものや、極性が逆のものがあります。このようなフラッシュを使用した場合、本機を故障させる原因になったり、正常に動作しない場合があります。
- 専用フラッシュライト以外の通信機能のある外部フラッシュを使用すると正常に動作しないだけでなく、故障の原因になる場合がありますので、使用しないでください。
- 外部フラッシュの電源が[OFF]でも、装着すると外部フラッシュモードになるものがあります。外部フラッシュを使用しないときは、外部フラッシュを外してください。
- 外部フラッシュ装着時は、内蔵フラッシュは使えません。
- 外部フラッシュ装着時は、内蔵フラッシュを開かないでください。
- 外部フラッシュを装着すると置いたときに不安定になるため、撮影時は三脚の使用をおすすめします。
- 取り外しの際は、本機の電源を[OFF]にしてから行ってください。
- 持ち運びするときは、外部フラッシュを取り外してください。
- 外部フラッシュ装着時は、脱落の恐れがありますので、外部フラッシュのみを持たないようにしてください。
- 外部フラッシュ使用時にホワイトバランスを[⚡WB]に設定した場合、撮影結果によってはホワイトバランスを微調整してください。（P87）
- 広角時に近くで撮影すると、画面の下部がケラレる場合があります。
- 外部フラッシュはステレオマイクロホン（別売：DMW-MS1）との併用はできません。
- 詳しくは、外部フラッシュの説明書をお読みください。

フィルター（別売）を使う

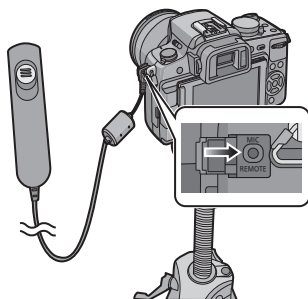
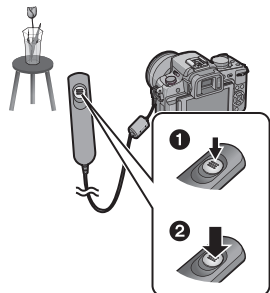
MCプロテクター(別売)は、色調や光量にほとんど変化を与えない透明なフィルターで、レンズ保護用として使うことができます。
NDフィルター(別売)は、色調に変化を与えずに、光量だけを1/8(3絞り分)に減少させることができます。
PLフィルター(別売)は、金属や球面以外(平らな非金属、水蒸気や空気中の見えない微粒子など)からの反射光をおさえ、コントラストを強調する写真を撮影することができます。

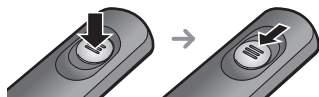
フィルターを取り付ける

お知らせ

- 複数のフィルターを同時に取り付けないでください。
- フィルターを強く締めすぎると、外れなくなる恐れがありますので、強く締めないようにしてください。
- フィルターが落下すると、壊れる恐れがあります。取り付けるときは、落とさないようにお気をつけください。
- フィルターに指紋やほこりなどの汚れがついていると、フィルター面にピントが合ってしまい被写体にピントが合わないことがありますので、お気をつけください。
- フィルターを付けたまま、レンズキャップやレンズフードを取り付けることができます。
- 詳しくは、各種フィルターの説明書をお読みください。
- DMC-G2KおよびDMC-G2Wに同梱の交換レンズでは、MCプロテクター(別売:DMW-LMC52)、NDフィルター(別売:DMW-LND52)、PLフィルター(別売:DMW-LPL52)をお使いいただくことをおすすめします。
- フィルター以外のコンバージョンレンズなどを装着して使用することはできません。故障する恐れがあります。

シャッターリモコン（別売）を使う

シャッターリモコン(別売:DMW-RSL1)を使用すると、三脚使用時に手ブレを防いだり、B(バルブ)撮影時や連写時にシャッターボタンを全押しした状態で固定することができます。本体のシャッターボタンと同様の働きをします。

1 本機の[REMOTE]端子にシャッターリモコンを奥まで確実に接続する

2 撮影する
❶軽く押して半押しする
❷全押しで撮影する
（奥まで押し込む）

■ シャッターボタンの[LOCK]について

- シャッターボタンを全押しした状態で、固定することができます。
  連写時(P70)やB(バルブ)撮影時(P96)に有効です。
- シャッターボタンを全押ししたまま、[LOCK]側にスライドさせてください。
- [LOCK]を解除するときは[LOCK]と反対側にスライドさせてください。

お知らせ

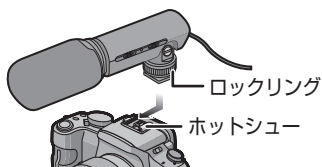
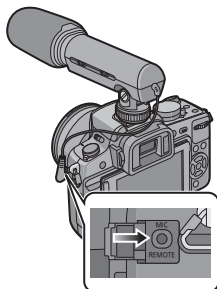
- 以下の場合、シャッターリモコンでは操作できません。
  ・スリープモードを解除するとき
- 動画撮影に使用する場合は、動画Pモード(P115)に設定してください。シャッターリモコンで動画撮影開始/終了をすることができます。
- シャッターリモコンはステレオマイクロホン(別売:DMW-MS1)との併用はできません。

外部マイク（別売）を使う

ステレオマイクロホン(別売:DMW-MS1)を使用すると、ステレオ集音とモノラル集音を切り換えて集音することができます。
また、風音低減スイッチを[ON]に切り換えると、風雑音を効果的に低減することができます。

準備: 本機の電源を[OFF]にし、内蔵フラッシュを閉じる。

1 ホットシューにステレオマイクロホンを取り付ける

● ステレオマイクロホンのロックリングは、確実に締め込んでください。

2 本機の[MIC]端子にステレオミニプラグコードを奥まで確実に接続する

3 本機とステレオマイクロホンの電源を入れる

● 外部マイク接続中は、画面に[🎤]が表示されます。

■ 電源/マイク設定スイッチについて

OFF:　　ステレオマイクロホンの電源を切ります。
MONO:　カメラの正面方向の音をモノラルで集音します。
STEREO: 広い範囲の音をステレオで集音します。

バッテリーチェックランプについて

● 電源/マイク設定スイッチを[OFF]から[MONO]または[STEREO]に切り換えたとき、電池が十分あると、バッテリーチェックランプが一瞬点灯します。バッテリーチェックランプが点灯しなくなったら、新しい電池と交換してください。

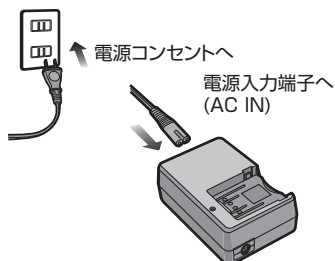
お知らせ

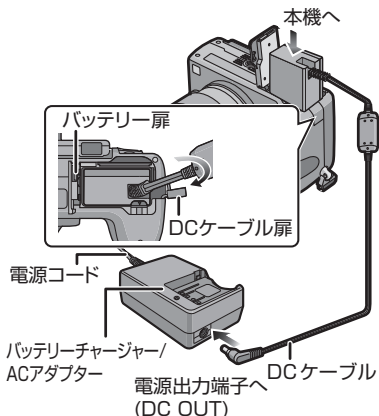
● ステレオマイクロホン装着時は、脱落の恐れがありますので、ステレオマイクロホンのみを持たないようにしてください。
● 風音低減はステレオマイクロホン側のみで設定してください。
● ステレオマイクロホン装着時は、内蔵フラッシュを開かないでください。
● ステレオマイクロホンは外部フラッシュ(別売)との併用はできません。
● ステレオマイクロホンはシャッターリモコン(別売:DMW-RSL1)との併用はできません。
● 音声をステレオで再生するには、HDMIミニケーブル(別売)を使ってテレビに接続するか、パソコンで再生してください。
● 詳しくは、ステレオマイクロホンの説明書をお読みください。

ACアダプターを使う

DCケーブル(別売:DMW-DCC3)を使ってバッテリーチャージャー/ACアダプターに接続し電源コンセントにつなぐと、本機をパソコンやプリンターに接続するときに、バッテリーの消耗を気にせず使うことができます。

- 電源が[OFF]になっていることを確認する。
- フラッシュを閉じる。

1 電源コードをつなぐ

2 DCケーブルをつなぐ

- DCケーブル扉を引っ張り出してからDCケーブルをバッテリーと同じ手順で本体へ入れ(P28)、右図のようにケーブルを外に出し、バッテリー扉を閉じてください。
- バッテリー扉を閉じるときに、ケーブルを挟まないようにお気をつけください。
- DCケーブル(別売:DMW-DCC3)をつなぐとバッテリーの充電はできなくなります。

お知らせ

- DCケーブル(別売:DMW-DCC3)を使用してください。それ以外のDCケーブルを使用すると、故障の原因になります。
- 使用中は本機が温かくなりますが、異常ではありません。
- バッテリーチャージャー/ACアダプターは海外でも使うことができます。(P179)
- 必要がない場合はバッテリーチャージャー/ACアダプターとDCケーブルを抜いておいてください。
- 動画を撮影する際は、十分に充電されたバッテリーまたはACアダプターの使用をおすすめします。
- ACアダプターを使用して動画を撮影している最中に、停電やACアダプターを抜くなどして電源の供給がとだえると、撮影途中の動画は記録されません。

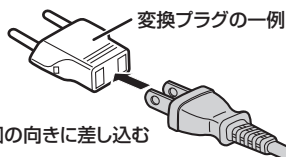
電源コードは、本機専用ですので、他の機器には使用しないでください。また、他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。

海外旅行先で使う

チャージャーは、日本国内で使用することを前提として設計されておりますが、海外旅行等での一時的な使用は問題ありません。
- 電源電圧(100 V～240 V)、電源周波数(50 Hz、60 Hz)でご使用いただけます。
- 市販の変圧器などを使用すると、故障する恐れがあります。

ただし、国、地域によって電源コンセントの形状は異なるため変換プラグが必要です。

■ 変換プラグの付けかた

- ご使用にならないときは変換プラグをACコンセントから外してください。

■ 主な国、地域の代表的な電源コンセントのタイプ

北米											
アメリカ合衆国	A	カナダ	A	ハワイ	A						
ヨーロッパ											
イギリス	BF, B3	イタリア	C	オーストリア	C,SE	オランダ	C,SE	ギリシャ	A,B, B3,C, SE	スイス	A,B, C,SE
スウェーデン	B,C, SE	スペイン	A,C, SE	デンマーク	C	ドイツ	A,C, SE	ノルウェー	C	ハンガリー	C
フィンランド	B,C	フランス	A,C, SE	ベルギー	B,C, SE	ロシア	A,C, SE				
アジア											
インド	B,BF, B3,C	インドネシア	B,B3, C,SE	シンガポール	B,BF, B3	タイ	A,BF, C	大韓民国	A,C, SE	台湾	A,C, O
中華人民共和国	すべて	フィリピン	A,O	ベトナム	A,BF, C, SE	香港特別行政区	B,BF, B3,C	マカオ特別行政区	B,BF, B3,C	マレーシア	B,BF, B3,C
オセアニア											
オーストラリア	O	グァム島	A	サイパン島	A	トンガ	O	ニュージーランド	O	フィジー	A,B, C,O
中南米											
アルゼンチン	BF,C, SE	プエルトリコ	A,BF, C	ブラジル	A,C, SE	メキシコ	A,C, SE				
中東・アフリカ											
アラブ首長国連邦	B,BF, B3	エジプト	BF,B3, C,SE	クウェート	B,B3, C	トルコ	A,B, C,SE	南アフリカ共和国	B,BF, B3,C	モロッコ	A,C, SE

タイプ	A	B	BF	B3	C	SE	O
	アメリカンタイプ	U.K. タイプ			ヨーロピアンタイプ		オーストラリアンタイプ
コンセント形状							
プラグ形状	不要です						

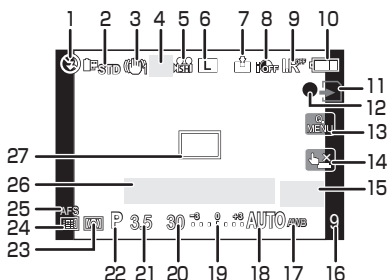
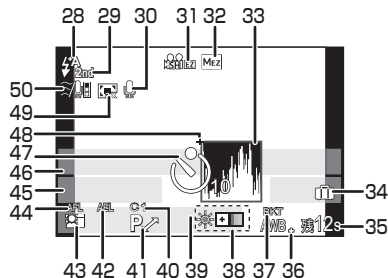
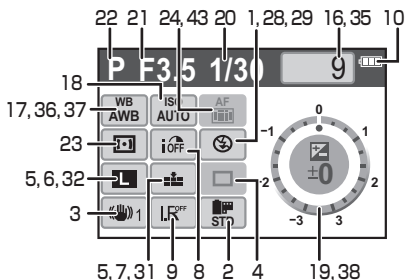
■ 時計を海外旅行先の時刻に合わせる

セットアップメニューの[ワールドタイム]で旅行先を設定すると、旅行先の時刻に切り換わります。

液晶モニター/ファインダーの表示

液晶モニター/ファインダーの画面表示は、本機の操作状態を示しています。

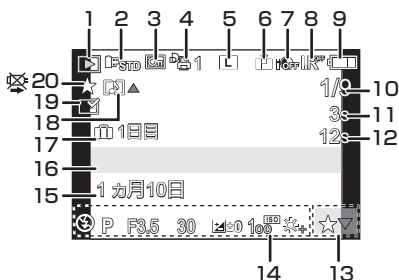
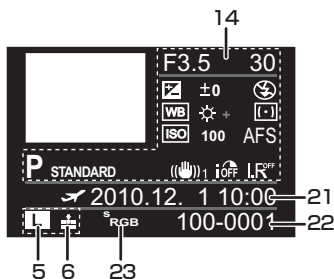
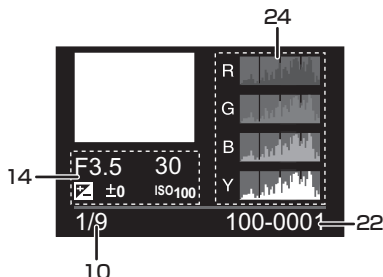
●画面は液晶モニターで表示画面を [ ](液晶モニタースタイル)に設定時の例です。

プログラムAEモード[P]時(お買い上げ時)

撮影時 (各種設定後)

LCD撮影情報画面

■ 撮影時

1 フラッシュモード(P63)
2 フィルムモード(P91)
3 手ブレ補正(P126)
手ブレ警告(P51):
4 単写(P49)※1:
連写(P70):
オートブラケット(P72):
セルフタイマー(P74):
5 撮影モード(動画撮影時)(P112)
画質設定(P112)
6 記録画素数(P124)
7 クオリティ(P125)
8 暗部補正(P128)
9 超解像(P127)
10 バッテリー残量(P26)
11 カード(P29)(記録時のみ表示)
12 記録動作(赤点滅)/
フォーカス(P51)(緑点灯)
13 タッチクイックメニュー(P34)※2
14 タッチシャッター(P52)※2
15 ダイヤル操作ガイド(P138)/
記録経過時間(P110)
16 記録可能枚数(P199)※3
17 ホワイトバランス(P85)
18 ISO感度(P89)
19 露出補正値(P69)/
マニュアル露出アシスト(P95)
20 シャッタースピード(P51)
21 絞り値(P51)
22 撮影モード(P43)
23 測光モード(P126)
24 オートフォーカスモード(P75)
25 フォーカスモード(P50)
26 露出メーター(P135)
27 AFエリア(P51、75)

28 フラッシュ光量調整(P67)
29 後幕(P68)
30 音声記録(P130)
31 EX光学ズーム(動画時)(P54、129)
32 EX光学ズーム(写真時)(P54、129)
33 ヒストグラム(P62)
34 トラベル日付(P121)
追尾AF操作(P47、77)
35 記録可能時間(P110)※3: 残XXhXXm
36 ホワイトバランス微調整(P87)
37 ホワイトバランスブラケット(P88)
38 マイカラーモード調整表示(P105)
39 現在日時/旅行先設定(P123)※2、4: ✈
40 カスタムセット(P108)
41 プログラムシフト(P53)
42 AEロック(P83)
43 個人認証(P116)
44 AFロック(P83)
45 月齢/年齢(P103)※2、5
旅行先(P121)※2、4
46 名前(P103)※2、5
トラベル経過日数(P121)※2、4
47 セルフタイマー(P74)※6
48 スポット測光ターゲット(P126)
49 デジタルズーム(P54、129)
50 風音低減(P131)

※1 LCD撮影情報画面にのみ表示されます。
※2 液晶モニターにのみ表示されます。
※3 カスタムメニューの[残枚数/残時間切換]の設定で、記録可能枚数または記録可能時間の表示を切り換えることができます。
LCD撮影情報画面以外では、残り枚数が10000枚以上の場合は、[9999+]と表示されます。
※4 電源を入れたとき/時計設定後/再生から撮影モードへ切り換え後、約5秒間表示されます。
※5 シーンモードの[赤ちゃん1]/[赤ちゃん2]や[ペット]で電源を入れた場合に約5秒間表示されます。
※6 カウントダウン中に表示されます。

再生時

詳細情報表示

ヒストグラム表示

■ 再生時

1 再生モード(P56)
2 フィルムモード(P91)
3 プロテクト(P155)
4 プリント枚数(P154)
5 記録画素数(P124)
撮影モード(動画撮影時)(P112)/
画質設定(P112)：
6 クオリティ(P125)
7 暗部補正(P128)
8 超解像(P127)
9 バッテリー残量(P26)
10 画像番号/トータル枚数
11 再生経過時間(P140)：XXhXXmXXs
12 動画記録時間(P140)：XXhXXmXXs
13 お気に入り設定(P153)
14 撮影情報※7
15 月齢/年齢(P103)
16 名前※8(P103、118)
旅行先※8(P121)
タイトル※8(P145)
17 トラベル経過日数(P121)
18 音声再生(P140)
動画再生(P140)：▲/▲
19 文字焼き込み済み表示(P146)
20 お気に入り表示(P153)
ケーブル切断禁止アイコン(P167)
21 撮影日時/ワールドタイム(P123)
22 フォルダー・ファイル番号(P166)※7
23 色空間(P130)※9
24 ヒストグラム(P62)

※7 [AVCHD Lite]で撮影した動画には表示されません。
※8 [タイトル]、[旅行先]、[名前](赤ちゃん/ペット)、[名前](個人認証)の優先順位で表示されます。
※9 撮影した動画には表示されません。

メッセージ表示

確認/エラー内容を液晶モニター/ファインダーに文章で表示します。
ここではその主なメッセージを例として説明しています。

メッセージ	実行していただきたいこと
このメモリーカードは書込み禁止スイッチが「禁止」になっています	カードの書き込み禁止スイッチの「LOCK」を解除してください。(P29)
表示できる画像がありません	画像を記録する、または画像が記録されたカードを入れてから再生してください。
この画像はプロテクトされています	画像のプロテクトを解除してから(P155)消去をしてください。
消去できない画像があります/この画像は消去できません	DCF規格に準拠していない画像は消去できません。 パソコンなどに必要なデータを保存してから本機でフォーマット(P39)してください。
設定枚数をこえました	[複数消去](P59)、[お気に入り](P153)、[タイトル入力](P145)、[文字焼き込み](P146)、[リサイズ(縮小)](P149)の複数設定時に一度に設定できる枚数を超えています。 設定枚数を減らしてから、もう一度操作を行ってください。 お気に入り設定が999枚を超えています。
この画像には設定できません	DCF規格に準拠していない画像は[タイトル入力]、[文字焼き込み]、[プリント設定]ができません。
メモリーカードエラー・フォーマットしますか?	本機では使用できないフォーマットです。パソコンなどを使って必要なデータを保存してから本機でフォーマット(P39)し直してください。
レンズが確認できません C🔧レンズ無しレリーズがオフになっています/ レンズが正しく装着されていません レンズ装着時はレンズ取り外しボタンを押さないでください/ レンズの装着をご確認ください	● 撮影中はレンズ取り外しボタンを押さないでください。 ● ライカレンズ用マウントアダプター(別売:DMW-MA2M、DMW-MA3R)使用時は、カスタムメニューの[レンズ無しレリーズ](P138)を[ON]に設定してください。 ● レンズを一度外し、レンズ取り外しボタンを押さずに再度付け直してください。(P22) 再度電源を入れ直し、それでも表示される場合は、お買い上げの販売店にご連絡ください。
メモリーカードエラー カードのパラメータが異常です/ このカードは使用できません	本機に対応したカードをお使いください。(P29) ● SDメモリーカード(8 MB～2 GB) ● SDHCメモリーカード(4 GB～32 GB) ● SDXCメモリーカード(48 GB～64 GB)
カードを入れ直してください/ 別のカードでお試しください	● カードへのアクセスに失敗しました。もう一度カードを入れ直してください。 ● miniSDカード/microSDカード/microSDHCカードは、必ずアダプターに入れてから本機に挿入してください。 ● 別のカードを入れてお試しください。
リードエラー/ライトエラー カードを確認してください	● データの読み込みまたは書き込みに失敗しました。電源を[OFF]にしてからカードを抜いてください。再度カードを入れ、電源を[ON]にして記録または読み込みしてください。 ● カードが破壊されている可能性があります。 ● 別のカードを入れてお試しください。

メッセージ表示（つづき）

メッセージ	実行していただきたいこと
放送方式(NTSC/PAL)の異なるデータが存在するため、記録できません。	●パソコンなどに必要なデータを保存してから本機でフォーマット(P39)してください。 ●別のカードを入れてお試しください。
カードの書込み速度不足のため記録を終了しました	●[AVCHD Lite]で動画撮影の際は、SDスピードクラス※が「Class4」以上のカードをお使いください。 また、[MOTION JPEG]で動画撮影の際は、SDスピードクラスが「Class6」以上のカードをお使いください。 ※ SDスピードクラスとは、連続的な書き込みに関する速度規格です。 ●「Class4」以上のカードを使用しても停止した場合は、データ書き込み速度が低下しているので、バックアップをとりフォーマット(P39)することをおすすめします。 カードの種類によっては、途中で動画撮影が終了する場合があります。
このカードは本機でフォーマットされていないため動画記録には適しません	パソコンやその他の機器でフォーマットされたカードを使用している場合、書き込み速度が低下しているため、途中で動画撮影が終了する場合があります。そのときはバックアップをとり、本機でフォーマット(P39)してください。
フォルダーを作成できません	使用できるフォルダー番号がなくなったため、フォルダーを作成できません。(P166) パソコンなどを使って必要なデータを保存してから本機でフォーマット(P39)してください。フォーマットを行ったあとにセットアップメニューの[番号リセット]を実行すると、フォルダー番号が100にリセットされます。(P39)
16:9TV用で出力します/ 4:3TV用で出力します	●本機にAVケーブルが接続されました。メッセージをすぐに消したい場合は、[MENU/SET]を押してください。 ●[TV画面タイプ]を変更したい場合は、セットアップメニューで変更してください。(P37) ●USB接続ケーブルが本機のみに接続された場合も、メッセージが表示されます。 USB接続ケーブルのもう一方をパソコンやプリンターに接続すると、このメッセージは消えます。(P165、167)
バッテリー残量が不足しています	バッテリー残量が少なくなっています。充電してください。
このバッテリーは使えません	●本機では認識できないバッテリーです。パナソニック純正品のバッテリーをお使いください。それでも表示される場合は、お買い上げの販売店にご連絡ください。 ●バッテリーの端子部が汚れているため、認識できません。端子部のごみなどを取り除いてください。
外部マイクは電源オンでご使用ください	●ステレオマイクロホン(別売:DMW-MS1)装着時は、電池の状態および電源が入っていることをご確認のうえご使用ください。(P177)

Q & A　故障かな？と思ったら

まず、以下の方法(P185～192)をお試しください。

それでも解決できない場合は、**セットアップメニューの[設定リセット](P39)を行うと症状が改善する場合があります。**
これらの処置をしても直らないときは、207、209ページをお読みください。

■ バッテリー、電源について

Q(質問)	A(回答)
電源を[ON]にしても動作しない。	●バッテリーが正しい向きに入っていません。(P28) ●バッテリーが消耗しています。充電してください。 ●ACアダプターが正しく接続されていません。(P178)
電源を[ON]にしているのに、液晶モニターが消灯している。	●ファインダー表示になっていませんか？ →[LVF/LCD]を押して、液晶モニター表示に切り換えてください。(P42) ●[エコモード]の[自動液晶OFF](P36)が働いていませんか？ →シャッターボタンを半押しして、解除してください。 ●液晶モニターが消灯になっていませんか？ →[DISPLAY]を押して表示情報を切り換えてください。(P60) ●バッテリーが消耗しています。充電してください。
電源を[ON]にしてもすぐに切れる。	●バッテリーが消耗しています。充電してください。 ●電源を入れたまま放置しているとバッテリーは消耗します。 →[エコモード](P36)を使うなどして、こまめに電源を切ってください。
電源が勝手に切れる。	●ビエラリンク(HDMI)対応のテレビとHDMIミニケーブル(別売)で接続した場合、テレビのリモコンを使ってテレビの電源を切ると、本機の電源も連動して切れます。 →ビエラリンク(HDMI)を使用しない場合は、本機の[ビエラリンク]を[OFF]に設定してください。(P38)
充電[CHARGE]ランプが点滅する。	●バッテリーが高温、あるいは低温になりすぎていませんか？その場合、充電時間が通常よりも長くなるか、充電が完了しない場合もあります。 ●チャージャーやバッテリーの端子部が汚れていませんか？ →乾いた布でふき取ってください。

■ 撮影について

Q(質問)	A(回答)
撮影できない。シャッターを押しても、すぐにシャッターが切れない。	●ピントは合っていますか？ →お買い上げ時は、[フォーカス優先]が[ON]に設定されているため、ピントが合うまで撮影されません。ピントが合っていない場合でもシャッターボタンの全押しで撮影されるようにしたいときは、[フォーカス優先]を[OFF]に設定してください。(P134)
撮影した画像が白っぽい。	●レンズや撮像素子に指紋などの汚れが付くと画像が白っぽくなることがあります。 →汚れたときは、電源を[OFF]にし、レンズの表面を乾いた柔らかい布で軽くふき取ってください。撮像素子が汚れたときは、193ページをお読みください。

Q ＆ A　故障かな？と思ったら（つづき）

■ 撮影について(つづき)

Q(質問)	A(回答)
撮影した画像が明るすぎたり、暗すぎる。	→ 露出が正しく補正されているか確認してください。(P69) ● 不適切な状態でAEロック(P83)がかかっていませんか？
1回の撮影で、複数の画像が撮れるときがある。	→ ホワイトバランスブラケット(P88)の設定を解除してください。
ピントが合わない。	● ピントが合う範囲から外れています。(P49) ● 手ブレや被写体ブレしています。(P51) ● [フォーカス優先]が[OFF]になっていませんか？(P134) この場合、フォーカスモードを[AFS]または[AFC]に設定していても、ピントが合っていないことがあります。 ● 不適切な状態でAFロック(P83)がかかっていませんか？
撮影した画像がブレている。 手ブレ補正が効かない。	● 特に暗い場所で撮影すると、シャッタースピードが遅くなり、手ブレ補正が十分に働かないことがあります。 → 本機を両手でしっかり持って撮影してください。(P40) → 遅いシャッタースピードで撮影するときは三脚を使用し、セルフタイマー(P74)を使って撮影してください。
ホワイトバランスブラケット撮影ができない。	● 記録可能枚数が2枚以下ではありませんか？
撮影した画像が粗い。 ノイズが出る。	● ISO感度が高い、またはシャッタースピードが遅くないですか？ (お買い上げ時は、ISO感度が[AUTO]に設定されているため、室内などの撮影ではノイズが出ます) → ISO感度を低くしてください。(P89) → フィルムモードの[ノイズリダクション]をプラス方向にするか、[ノイズリダクション]以外の各項目をマイナス方向に調整してください。(P92) → 明るい場所で撮影してください。 → [長秒ノイズ除去]を[ON]に設定してください。(P128) ● [記録画素数](P124)または[クオリティ](P125)を低く設定していませんか？ ● [デジタルズーム]を設定していませんか？(P129)
蛍光灯下でちらつきや横しまが出る。	● これは、本機の撮像素子であるMOSセンサーの特徴であり、異常ではありません。 ● 動画撮影中にちらつきや横しまが目立つ場合、フリッカー軽減機能(P115)を[ON]に設定すると、フリッカー軽減機能を強制的に働かせることができ、シャッタースピードを1/100に調整します。このとき後ダイヤルを回すと、調整するシャッタースピードを1/50、1/60、1/100、1/120から選択できます。

■ 撮影について(つづき)

Q(質問)	A(回答)
撮影した画像の明るさや色合いが実際とは異なる。	●蛍光灯下での撮影時、シャッタースピードが速くなると、明るさや色合いが多少変化する場合があります。これは蛍光灯の特性により発生するものであり、異常ではありません。
撮影時に、液晶モニターに赤っぽい横すじが出る。	●これは、本機の撮像素子であるMOSセンサーの特徴であり、被写体に明るい部分があると出ます。周辺にムラが発生する場合がありますが、異常ではありません。 動画撮影では記録されますが、写真には記録されません。 ●太陽光などの強い光源が画面付近に入らないように撮影することをおすすめします。
被写体にない明るい点が記録される。	●撮像素子の画素欠けの可能性があります。カスタムメニューの[ピクセルリフレッシュ](P138)を行ってください。
露出補正ができない。	●露出補正操作になっていますか？ →後ダイヤルを押して露出補正操作に切り換えてください。(P69)
被写体をロックできない。(動体追尾できない)	●周囲と異なる色の部分がある場合は、その部分を追尾AF枠に合わせるなど、被写体の特徴的な色の部分を追尾AF枠に合わせて設定してください。(P77)

■ 動画について

Q(質問)	A(回答)
動画撮影が途中で止まる。	●[AVCHD Lite]で動画撮影の際は、SDスピードクラス※が「Class4」以上のカードを使用してください。 また、[MOTION JPEG]で動画撮影の際は、SDスピードクラスが「Class6」以上のカードを使用してください。 ※ SDスピードクラスとは、連続的な書き込みに関する速度規格です。 ●使用するカードによっては、途中で動画撮影が終了する場合があります。 →「Class4」以上のカードを使用しても停止した場合やパソコンやその他の機器でフォーマットされたカードを使用している場合は、データ書き込み速度が低下しているので、バックアップをとり本機でフォーマット(P39)することをおすすめします。
被写体がゆがんで見える。	●本機の撮像素子にMOSを使用しているため、被写体がすばやく横切った場合、少しゆがんで見えることがありますが、故障ではありません。
動画に「カチッ」、「ジー」などの異常音が録音される。 録音される音声が非常に小さい。	●静かな環境下での撮影や、使用するレンズによっては、絞りやフォーカスの動作音が動画に録音されることがあります。これは異常ではありません。動画撮影中のフォーカス動作は[AF連続動作](P131)で[OFF]に設定することができます。 ●動画撮影中にズームやボタン、ダイヤル操作などをすると、その動作音が記録される場合がありますのでお気をつけください。 ●動画撮影中にマイクの穴を指でふさぐと音声が小さく録音されたり、録音されない場合があります。またこのとき、レンズの動作音が録音されやすくなりますのでお気をつけください。

Q & A　故障かな？と思ったら（つづき）

■ レンズについて

Q(質問)	A(回答)
撮影された画像がゆがんだり、被写体の周りに実際にはない色が付く。	●使用するレンズによっては、ズームの倍率によりレンズの特性上わずかにゆがんだり、輪郭などに着色して撮影されることがあります。また広角では遠近感が強調されるため、画面の周辺がゆがんだように写る場合もあります。これらは異常ではありません。
レンズを他のデジタルカメラに取り付けたときに、手ブレ補正をオフにできない、または手ブレ補正が働かない。	●DMC-G2KおよびDMC-G2Wに同梱の交換レンズ14–42 mm/F3.5–5.6は、対応したカメラでのみ手ブレ補正機能が正しく働きます。 →従来の当社製デジタルカメラ（DMC-GF1、DMC-GH1、DMC-G1）をご使用の場合は、撮影メニューの[手ブレ補正]（P126）を[OFF]に設定できません。下記サイトにてデジタルカメラのファームウェアアップデートを行うことをおすすめします。 http://panasonic.jp/support/dsc/download/ →他社製デジタルカメラに本レンズを装着時は、手ブレ補正機能は働きません。（2010年3月現在） 詳しくは、各製造元へお問い合わせください。

■ フラッシュについて

Q(質問)	A(回答)
フラッシュが発光しない。	●フラッシュを閉じていませんか？ →[ϟOPEN]レバーをスライドさせて、フラッシュを開いてください。（P63）
フラッシュが2回発光する。	●フラッシュは2回発光します。特に赤目軽減（P63）に設定している場合は、発光間隔が長くなりますので、2回目の発光終了まで動かないようにしてください。

■ 液晶モニター/ファインダーについて

Q(質問)	A(回答)
電源[ON]中に、液晶モニターが消える。	●[エコモード]の[自動液晶OFF]（P36）では、液晶モニターが消灯します。[ただし、ACアダプター（P178）使用時を除く] ●アイセンサーの近くに手や物があると、ファインダー表示に切り換わります。（P42）
液晶モニター/ファインダーが明るすぎたり、暗すぎる。	→液晶モニター/ファインダーの明るさなどを正しく調整してください。（P35） ●[パワーLCD]になっていませんか？（P36）
一瞬ちらつく、または一瞬画面の明るさが大きく変化することがある。	●シャッターボタンを半押ししたときや、被写体の明るさが変化したときにレンズの絞りが変化することで発生する現象です。故障ではありませんので、安心してお使いください。

■ 液晶モニター/ファインダーについて(つづき)

Q(質問)	A(回答)
液晶モニターに画像が出ない。	●ファインダー表示になっていませんか? →[LVF/LCD]を押して、液晶モニター表示に切り換えてください。(P42) ●液晶モニターが消灯になっていませんか? →[DISPLAY]を押して表示情報を切り換えてください。(P60)
[LVF/LCD]を押しても液晶モニターとファインダーが切り換わらない。	●[露出設定切換]が[LVF/LCDボタン押し]に設定されていませんか?(P136) ●パソコンやプリンターと接続しているときは、本機の画面は液晶モニター表示のみになります。
液晶モニターの画面上に黒、赤、青、緑の点が現れる。	●これは故障ではありません。これらの点は記録されませんので、安心してご使用ください。
液晶モニターにノイズが出る。	●暗い場所では、液晶モニターの明るさを維持するためにノイズが出ることがあります。
ファインダー撮影で目を動かしたり、カメラを速く動かしたときに赤や緑、青のちらつきが見える。	●これは本機ファインダーの駆動方式の特徴であり異常ではありません。記録される画像には問題ありません。

■ 再生について

Q(質問)	A(回答)
再生した画像が回転しない/意図しない方向に回転して表示される。	●[回転表示](P152)を[OFF]にすると画像は回転せずに表示されます。 ●[画像回転](P152)で画像を回転することができます。 ●縦位置検出機能(P41)に対応したレンズ(P19)のみ[回転表示]を[ON]にすると画像が回転されて表示できます。
再生できない。 撮影した画像がない。	●[▶]を押しましたか? ●カードは入っていますか? ●カードに再生できる画像はありますか? ●パソコンでファイル名を変更した画像ではないですか?その場合、本機で再生することはできません。 ●[再生モード]を設定していませんか? →[通常再生]に設定してください。(P144)
フォルダー・ファイル番号が[—]で表示されたり、画面が黒くなる。	●規格外の画像やパソコンで編集された画像、または他社のデジタルカメラで撮影した画像ではないですか? ●撮影直後にバッテリーを取り出したり、残量が少なくなったバッテリーで撮影していませんか? →このような画像を消去するには、フォーマット(P39)してください。(他の画像も消去され、元に戻すことができませんので、よく確認してからフォーマットしてください)

Q & A　故障かな？と思ったら（つづき）

■ 再生について(つづき)

Q(質問)	A(回答)
カレンダー再生で、撮影した日付と異なる日付に画像が表示される。	● 本機の時計設定を正しい日時に設定して撮影しましたか？(P30) ● パソコンで編集された画像や他機で撮影された画像では、カレンダー再生時、撮影した日付と異なる日付で表示されることがあります。
撮影した画像にシャボン玉のような白く丸い点が写り込んでいる。	● 室内や暗い場所でフラッシュを使い撮影した場合に、空気中のほこりがフラッシュに反射して白く丸い点として写り込む場合がありますが、異常ではありません。 撮影ごとに丸い点の位置や数が変化するのが特徴です。
画面に「サムネイル表示」と表示される。	● 他機で撮影された写真ではないですか？その場合、画質が劣化して表示されることがあります。
撮影した画像の赤い部分が黒く変色している。	● デジタル赤目補正([⚡A◎]、[⚡◎]、[⚡S◎])が動作しているとき、肌色に近い色とその内側に赤い模様などがある被写体を撮影した場合、デジタル赤目補正機能の働きにより、その赤い部分が黒く補正される場合があります。 → フラッシュモードを[⚡A]、[⚡]、[⊛]または[デジタル赤目補正]を[OFF]にして撮影することをおすすめします。(P127)

■ テレビ、パソコン、プリンターについて

Q(質問)	A(回答)
テレビに画像が出ない。テレビ画面が流れたり色が付かない。	● 正しく接続されていますか？ → テレビの入力切換を外部入力にしてください。 ● パソコンやプリンターと接続しているとき、[HDMI]端子からの出力はできません。 → 本機をテレビにのみ接続してください。
テレビ画面と本機の液晶モニターの表示される領域が違う。	● テレビの機種によっては、画像が縦や横に伸びたり、画像の端が切れて表示されることがあります。
テレビで動画の再生ができない。	● カードを直接テレビに差し込んで再生していませんか？ → AVケーブル(付属)またはHDMIミニケーブル(別売)をテレビに接続し、本機で動画を再生してください。(P157、158) → [AVCHD Lite]で撮影した動画は、AVCHDのロゴマークが付いている当社製テレビ(ビエラ)で再生することができます。
テレビ画面いっぱいに画像が表示されない。	→ 本機の[TV画面タイプ]を確認してください。(P37)

■ テレビ、パソコン、プリンターについて(つづき)

Q(質問)	A(回答)
ビエラリンク(HDMI)が働かない。	● HDMIミニケーブル(別売)で正しく接続されていますか?(P158) → HDMIミニケーブル(別売)が奥まで確実に入っていることを確認してください。 → 本機の[▶]を押してください。 ● 本機の[ビエラリンク]を[ON]に設定していますか?(P38) → テレビのHDMI端子によっては、入力切換が自動で切り換わらない場合があります。そのときはテレビのリモコンを使って入力切換してください。(入力切換の方法はテレビの取扱説明書をお読みください) → 接続した機器側のビエラリンク(HDMI)の設定を確認してください。 → 本機の電源を入れ直してください。 → テレビ(ビエラ)の「ビエラリンク制御(HDMI機器制御)」の設定を「しない」に変更し、再度「する」に設定してください。(詳しくはビエラの取扱説明書をお読みください)
パソコンに接続して画像を転送できない。	● 正しく接続されていますか? ● パソコンが本機を正常に認識していますか? → 本機の[USBモード]を[PC]に設定してください。(P37、165)
パソコンにカードが認識されない。	→ USB接続ケーブルを抜き、カードを入れた状態でUSB接続ケーブルを接続し直してください。
パソコンにカードが認識されない。(SDXCメモリーカードを使用している)	→ お使いのパソコンが SDXCメモリーカードに対応しているか確認してください。 http://panasonic.jp/support/sd_w/ → 接続時にカードのフォーマットを促すメッセージが表示されることがありますが、フォーマットしないでください。 → 液晶モニターの「通信中」の表示が消えない場合、電源を切ってからUSB接続ケーブルを抜いてください。
プリンターに接続して、プリントができない。	● PictBridgeに対応していないプリンターではプリントできません。 → 本機の[USBモード]を[PictBridge(PTP)]に設定してください。(P37、167)
プリントすると、画像の端が切れる。	→ トリミング(切抜き)や「ふちなし」印刷機能のあるプリンターをお使いのときは、トリミング(切抜き)または「ふちなし」の設定を解除してお試しください。(プリンターの説明書をお読みください) → お店によっては、横縦比を[16:9]に設定して撮影した画像を16:9のサイズでプリントできる場合がありますので、事前にお店にお尋ねください。

Q & A　故障かな？と思ったら（つづき）

■ その他

Q(質問)	A(回答)
電源[ON]時に、本体から音がする。	●ダストリダクション機能(P194)が動作する音で、故障ではありません。
レンズ部から音がする。	●電源[ON]または[OFF]時にレンズ移動や絞り動作を行う音で、故障ではありません。 ●ズーム操作や本機を動かしたときなどで明るさが変化した場合、レンズ部から音がして、液晶モニター内の画像が急激に変わることがありますが、撮影に影響はありません。このときの音は本機の自動絞り動作によるもので、異常ではありません。
画像の一部が白と黒に点滅する。	●白とびが起こっている部分を示す、ハイライト表示機能です。(P133) ●[ハイライト表示]が[ON]になっていませんか？
シャッターボタンを半押しすると、赤いランプが点灯することがある。	●暗い場所ではピントを合わせやすくするために、AF補助光ランプ(P134)が赤く点灯します。
AF補助光が点灯しない。	●カスタムメニューの[AF補助光]を[ON]に設定していますか？(P134) ●明るい場所ではAF補助光は点灯しません。
本機が熱くなる。	●ご使用中、本機表面や液晶の裏側が多少熱くなることがありますが、性能・品質には問題ありません。
時計が合っていない。	●本機を長期間放置すると、時計がリセットされることがあります。 →「時計を設定してください」とメッセージが出ますので、再度時計設定をしてください。(P30)時計設定をしない状態で撮影すると、[0. 0. 0　0:00]の日付が記録されます。
ファイル番号が連続して記録されない。	●特定の操作を行ったあとに操作を行うと、それまでとは異なった番号のフォルダーの中に画像が記録されることがあります。(P166)
ファイル番号がさかのぼって記録される。	●電源を[OFF]にせずバッテリーを出し入れした場合、撮影していたフォルダー・ファイル番号を記憶することができません。従って、再度電源を[ON]にして撮影した場合、ファイル番号がさかのぼって記録される場合があります。
月齢/年齢が正しく表示されない。	●時計設定(P30)または誕生日設定(P103)を確認してください。
タッチしたものと違うものが選択される。	→タッチパネル調整(P39)を行ってください。

使用上のお願い

本機について

本機を落としたり、ぶつけたりしない
また、本機に強い圧力をかけない

- 強い衝撃が加わると、レンズや液晶モニター、外装ケースが壊れ、故障の原因になります。
- 本機を入れたかばんを落としたり、ぶつけたりすると、本機に衝撃が加わりますのでお気をつけください。

磁気が発生するところや電磁波が発生するところ（電子レンジ、テレビやゲーム機など）からはできるだけ離れて使う

- テレビの上や近くで操作すると、電磁波の影響で画像や音声が乱れることがあります。
- スピーカーや大型モーターなどが出す強い磁気により、記録が損なわれたり、画像がゆがんだりします。
- マイコンを含めたデジタル回路の出す電磁波により、お互いに影響を及ぼし、画像や音声が乱れることがあります。
- 本機が影響を受け、正常に動作しないときは、バッテリーを取り出したりACアダプター（P178）を一度抜いてから、あらためて挿入または接続し、電源を入れ直してください。

電波塔や高圧線が近くにあるときは、なるべく使わない

- 近くで撮ると、電波や高電圧の影響で撮影画像や音声が悪くなることがあります。

付属のコード、ケーブルを必ず使用してください。別売品をお使いの場合は、別売品に付属のコード、ケーブルを使用してください。
また、コード、ケーブルは延長しないでください。

周囲で殺虫剤や揮発性のものを使うときは、本機にかけない

- かかると、外装ケースが変質したり、塗装がはげる恐れがあります。
- ゴム製品やビニール製品などを長期間接触させたままにしないでください。

お手入れについて

お手入れの際は、バッテリーを取り出しておく、または電源プラグをコンセントから抜き、乾いた柔らかい布でふいてください。

- 汚れがひどいときは、水にひたした布をよく絞ってから汚れをふき取り、そのあと、乾いた布でふいてください。
- ズームリングやフォーカスリングに付いたほこりや汚れは、ほこりの出にくい乾いた布でふいてください。
- ベンジン、シンナー、アルコール、台所洗剤などの溶剤は、外装ケースが変質したり、塗装がはげる恐れがありますので使用しないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。

■ 撮像素子のごみの付着について

本機はレンズ交換方式のため、レンズ交換の際に本体の内部にごみが入り込むことがあり、撮影条件によっては、撮像素子に付着したごみが写り込む場合があります。
本体の内部にごみやほこりが付着するのを防ぐために、ほこりの多い場所でのレンズ交換は避け、レンズを外して本体を保管するときは、必ずボディキャップを付けてください。その際、ボディキャップのごみも必ず除去してください。

使用上のお願い（つづき）

ダストリダクション機能について
本機は、撮像素子前面に付着したごみやほこりを払い落とすダストリダクション機能を備えています。この機能は、電源を[ON]にすると自動的に働きますが、特にごみが気になる場合はカスタムメニューの[センサークリーニング](P138)を行ってください。

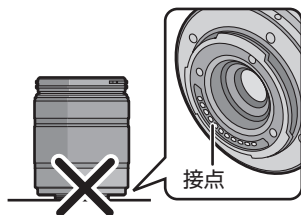
撮像素子のごみの除去
撮像素子は非常に精密で、傷つきやすいので、やむを得ずご自身でクリーニングされる場合は、以下のことを必ずお守りください。
- ブロワー（市販）で撮像素子の表面のほこりを吹き飛ばします。強く吹きすぎないようにお気をつけください。
- ブロワーをレンズマウントより中に入れないでください。
- ブロワーが撮像素子に触れないようにしてください。万一、ブロワーが撮像素子に触れると傷が付きます。
- ブロワー以外のものは使用しないでください。
- ブロワーでもごみやほこりを除去できない場合は、お買い上げの販売店または修理ご相談窓口(P210〜212)にお問い合わせください。

■ ファインダーのアイカップのお手入れについて
- アイカップは取り外しできませんので、汚れた場合などお手入れの際は、乾いた柔らかい布で軽くふき、外れないようお気をつけください。
- 万一、強くこすってアイカップが外れた場合は、お買い上げの販売店または修理ご相談窓口にお問い合わせください。

液晶モニター/ファインダーについて
- 液晶モニターを強く押さえないでください。画面にムラが出たり、故障の原因になります。
- 寒冷地などで本機が冷えきっている場合、電源を入れた直後は液晶モニター/ファインダーが通常より少し暗くなります。内部の温度が上がると通常の明るさに戻ります。

液晶モニター/ファインダーは、精密度の高い技術で作られていますが、液晶モニターの画面上に黒い点が現れたり、常時点灯（赤や青、緑の点）することがあります。これは故障ではありません。液晶モニター/ファインダーの画素については99.99%以上の高精度管理をしておりますが、0.01%以下で画素欠けするものがあります。またこれらの点は、カードの画像には記録されませんのでご安心ください。

レンズについて
- レンズ面を強く押さないでください。
- レンズを太陽に向けたまま放置すると、集光により故障の原因になります。屋外や窓際に置くときにはお気をつけください。
- レンズ表面に汚れ（水、油、指紋など）がついた場合、画像に影響を及ぼすことがあります。撮影前後は、レンズの表面を乾いた柔らかい布で軽くふき取ってください。

● レンズ取付部を下にして置かないでください。また、レンズの接点を汚さないようにお気をつけください。

バッテリーについて

本機で使用するバッテリーは、充電式リチウムイオン電池です。
このバッテリーは温度や湿度の影響を受けやすく、温度が高くなる、または、低くなるほど影響が大きくなります。

使用後は、必ずバッテリーを取り出す

出かけるときは予備のバッテリーを準備する
- スキー場などの寒冷地では撮影できる時間がより短くなりますので、お気をつけください。
- 旅行をされるときは、現地でバッテリーを充電できるようにチャージャー(付属)および電源コード(付属)も忘れずに準備してください。海外で使う場合は、変換プラグが必要な場合があります。(P179)

バッテリーを誤って落下させてしまった場合、端子部が変形していないか確認する
- 端子部が変形したまま本機に入れると、本機をいためます。

不要になった電池は、捨てないで充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

使用済み充電式電池の届け先
最寄りのリサイクル協力店へ
詳細は、一般社団法人JBRCのホームページをご参照ください。
- ホームページ　http://www.jbrc.net/hp

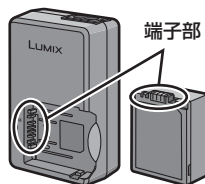
充電式
リチウムイオン
電池使用
Li-ion 20

使用済み充電式電池の取り扱いについて
- 端子部をセロハンテープなどで絶縁してください。
- 分解しないでください。

本機で使用できるバッテリーについて
- 専用バッテリー(DMW-BLB13)以外に当社が認定する他社製バッテリーについては、当社ホームページでご確認ください。
  http://panasonic.jp/support/info/cer_battery.html
  なお、純正品以外の他社製バッテリーの品質・性能・安全性などについては、当社では一切保証できませんので、あらかじめご了承ください。
  品質・性能・安全性などについては、その製造者が責任を負います。

使用上のお願い（つづき）

チャージャーについて

- ラジオ（特にAM受信中）の近くで使うと、ラジオに雑音が入る場合があります。使用時は 1 m以上離してください。
- 使用中、チャージャーの内部で発振音がする場合がありますが、異常ではありません。
- 使用後は、必ず電源コンセントから抜いてください。（接続したままにしておくと、最大約0.1 Wの電力を消費しています）
- チャージャーやバッテリーの端子部を汚さないでください。汚れた場合は、乾いた布でふいてください。

カードについて

カードを高温になるところや直射日光のあたるところ、電磁波や静電気の発生しやすいところに放置しない
また、折り曲げたり、落としたり、強い振動を与えない

- カードが破壊される恐れがあります。また、カードの内容が破壊されたり、消失する恐れがあります。
- 使用後や保管、持ち運びするときはケースや収納袋に入れてください。
- カード裏の端子部にごみや水、異物などを付着させないでください。また手などで触れないでください。

メモリーカードを廃棄／譲渡するときのお願い
本機やパソコンの機能による「フォーマット」や「消去」では、ファイル管理情報が変更されるだけで、メモリーカード内のデータは完全には消去されません。

廃棄／譲渡の際は、メモリーカード本体を物理的に破壊するか、市販のパソコン用データ消去ソフトなどを使ってメモリーカード内のデータを完全に消去することをおすすめします。
メモリーカード内のデータはお客様の責任において管理してください。

個人情報について

赤ちゃんモード／個人認証機能で名前または誕生日を設定した場合は、カメラ内および撮影した画像に個人情報が含まれます。

免責事項

- 個人情報を含む情報は、誤操作、静電気の影響、事故、故障、修理、その他の取り扱いによって変化、消失することがあります。
  個人情報を含む情報の変化、消失が生じても、それらに起因する直接または間接の損害については、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

修理依頼または譲渡／廃棄されるとき

- 個人情報保護のため、設定をリセットしてください。（P39）
- メモリーカードは、本機より取り出してください。
- 修理をすると、設定はお買い上げ時の状態に戻る場合があります。
- 故障の状態により、本機の操作が困難な場合は、お買い上げの販売店までご相談ください。

メモリーカードを譲渡／廃棄する際は、上記の「メモリーカードを廃棄／譲渡するときのお願い」をお読みください。

長期間使用しないときは

- バッテリーは涼しくて湿気がなく、なるべく温度が一定のところに保管してください。
（推奨温度：15 ℃～25 ℃、推奨湿度：40%～60%です）
- バッテリーとカードは必ず本機から取り出してください。
- バッテリーを入れたままにしておくと、本機の電源が[OFF]であっても、絶えず微少電流が流れています。これをそのままにしておくと過放電になり、充電してもバッテリーが使用できなくなる恐れがあります。
- 長期間保管する場合、1年に1回は充電し、バッテリー残量がなくなってから、本機から取り出して再保管することをおすすめします。
- 押入れや戸棚に保管するときは、乾燥剤（シリカゲル）と一緒に入れることをおすすめします。
- **長期間使用していないときは、撮影前に各部を点検してから使用してください。**

画像データについて

- 不適切な取り扱いにより故障した結果、記録したデータが破壊されたり、消滅したりすることがあります。記録したデータの消滅による損害については、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

三脚/一脚について

- 三脚を使用する場合は、本機を取り付けた状態で三脚が安定していることを確認してください。
- 三脚/一脚使用時は、カードやバッテリーが取り出せないことがあります。
- 三脚/一脚の取り付けまたは取り外し時に、ねじが斜めにならないようお気をつけください。無理な力で回すと本機のねじを損傷する恐れがあります。締めすぎると本体や定格ラベルを傷つけたり、はがしたりすることがありますので、お気をつけください。
- 本機に径の大きなレンズを取り付けた場合、三脚/一脚によっては台座にレンズが接触するものがあります。接触した状態でねじを締めると、本機やレンズを損傷することがありますので、三脚アダプター（別売：DMW-TA1）を取り付けてから三脚/一脚に装着することをおすすめします。
- 三脚/一脚の説明書もよくお読みください。

ショルダーストラップについて

- 本体に重いレンズ（約1 kg以上）を付けた場合、ショルダーストラップだけを持ってつり下げないでください。本体とレンズを持って持ち運びしてください。

－このマークがある場合は－

ヨーロッパ連合以外の国の廃棄処分に関する情報

このシンボルマークはEU域内でのみ有効です。
製品を廃棄する場合には、最寄りの市町村窓口、または販売店で、正しい廃棄方法をお問い合わせください。

使用上のお願い（つづき）

- 本製品に付属するソフトウェアを無断で営業目的として複製（コピー）したり、ネットワークに転載したりすることを禁止します。
- 本製品の使用、または故障により生じた直接、間接の損害につきましては、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本製品によるデータの破損につきましては、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本書で説明する製品の外観と仕様は、改良により実際とは異なる場合があります。

- マイクロフォーサーズTM 及びマイクロフォーサーズ ロゴマークはオリンパスイメージング（株）の日本・米国・EU・その他各国の商標または登録商標です。
- フォーサーズTM 及びフォーサーズ ロゴマークはオリンパスイメージング（株）の日本・米国・EU・その他各国の商標または登録商標です。
- SDXCロゴはSD-3C, LLCの商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、米国およびその他の国におけるHDMI Licensing LLC の商標または、登録商標です。
- HDAVI ControlTM は商標です。
- Adobeは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Microsoft Windowsは、米国Microsoft Corporationの商標です。
- Macintosh、Mac OSはApple Inc.の登録商標または商標です。
- その他、本書に記載されている各種名称、会社名、商品名などは各社の商標または登録商標です。
- Microsoft Corporationのガイドラインに従って画面写真を使用しています。

本製品は、AVC Patent Portfolio License に基づきライセンスされており、お客様が個人的かつ非営利目的において以下に記載する行為にかかわる個人使用を除いてはライセンスされておりません。
- AVC 規格に準拠する動画（以下、AVC ビデオ）を記録する場合
- 個人的かつ非営利的活動に従事する消費者によって記録された AVC ビデオを再生する場合
- ライセンスを受けた提供者から入手された AVC ビデオを再生する場合
  詳細については米国法人 MPEG LA, LLC (http://www.mpegla.com) をご参照ください。

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

G MICRO SYSTEMは、マイクロフォーサーズシステム規格に準拠したLUMIXのレンズ交換式デジタルカメラシステムです。

記録可能枚数・記録可能時間

- 記録可能枚数·時間は目安です。（撮影条件、カードの種類によって変化します）
- 被写体により記録可能枚数·時間は変動します。

■ 記録可能枚数（写真：枚）

- LCD撮影情報画面以外では、残り枚数が 10000枚以上の場合は、[9999+] と表示されます。

画像横縦比		4:3											
記録画素数		L (12M)				M EZ (6M)				S EZ (3M)			
クオリティ		▲▲	▲	RAW▲▲	RAW▲	▲▲	▲	RAW▲▲	RAW▲	▲▲	▲	RAW▲▲	RAW▲
カード	512 MB	70	140	22	26	125	250	26	29	200	400	28	30
	1 GB	140	280	45	54	250	510	52	59	400	800	57	61
	2 GB	290	570	92	105	520	1020	105	120	820	1610	115	125
	4 GB	570	1130	180	210	1030	2000	210	230	1620	3170	220	240
	6 GB	870	1720	270	320	1560	3050	320	350	2470	4820	340	370
	8 GB	1160	2310	370	440	2090	4090	430	480	3310	6460	460	500
	12 GB	1760	3490	550	660	3160	6170	650	720	5000	9740	700	750
	16 GB	2350	4660	740	880	4220	8230	860	960	6670	13000	940	1010
	24 GB	3410	6760	1080	1280	6130	11950	1260	1400	9690	18880	1360	1460
	32 GB	4710	9350	1490	1770	8470	16520	1740	1930	13390	26080	1880	2020
	48 GB	6740	13000	2160	2560	12140	22760	2520	2800	18210	33110	2710	2910
	64 GB	9150	17650	2940	3480	16470	30890	3430	3800	24710	44930	3680	3950

画像横縦比		3:2											
記録画素数		L (10.5M)				M EZ (5M)				S EZ (2.5M)			
クオリティ		▲▲	▲	RAW▲▲	RAW▲	▲▲	▲	RAW▲▲	RAW▲	▲▲	▲	RAW▲▲	RAW▲
カード	512 MB	77	150	24	29	135	270	29	32	210	410	31	34
	1 GB	155	310	50	60	270	540	58	65	420	820	63	68
	2 GB	310	620	100	120	550	1070	115	130	850	1610	125	135
	4 GB	620	1220	200	240	1090	2110	230	260	1670	3170	250	270
	6 GB	940	1870	300	360	1660	3210	350	390	2540	4820	380	410
	8 GB	1270	2500	410	490	2230	4300	470	530	3400	6460	510	550
	12 GB	1910	3770	620	740	3360	6490	720	800	5140	9740	780	840
	16 GB	2550	5040	830	980	4490	8660	960	1070	6860	13000	1040	1120
	24 GB	3710	7320	1200	1430	6520	12580	1400	1560	9960	18880	1510	1630
	32 GB	5130	10110	1660	1980	9010	17390	1930	2150	13760	26080	2090	2250
	48 GB	7280	14000	2390	2840	12550	22760	2780	3080	19170	33110	3010	3220
	64 GB	9880	19010	3250	3860	17040	30890	3770	4180	26010	44930	4080	4370

記録可能枚数・記録可能時間（つづき）

画像横縦比		16:9											
記録画素数		L (9M)				M EZ (4.5M)				S EZ (2M)			
クオリティ		ファイン	スタンダード	RAWファイン	RAWスタンダード	ファイン	スタンダード	RAWファイン	RAWスタンダード	ファイン	スタンダード	RAWファイン	RAWスタンダード
カード	512 MB	86	170	29	35	145	290	33	38	440	860	40	42
	1 GB	175	340	58	70	290	580	68	77	900	1720	81	84
	2 GB	350	700	115	140	600	1180	135	155	1800	3410	160	170
	4 GB	700	1380	230	280	1180	2310	270	300	3540	6700	320	330
	6 GB	1060	2100	350	430	1790	3520	410	460	5390	10190	490	510
	8 GB	1420	2820	480	570	2400	4720	550	620	7220	13640	650	680
	12 GB	2150	4250	720	860	3630	7120	830	940	10890	20580	990	1030
	16 GB	2870	5670	960	1150	4840	9500	1120	1260	14530	27450	1320	1380
	24 GB	4170	8240	1400	1680	7030	13790	1620	1830	21100	39860	1920	2000
	32 GB	5760	11390	1930	2320	9710	19060	2240	2530	29150	55070	2650	2770
	48 GB	8270	15830	2780	3310	13490	26010	3190	3600	36420	60710	3750	3910
	64 GB	11230	21490	3770	4490	18300	35300	4330	4890	49430	82380	5090	5310

画像横縦比		1:1											
記録画素数		L (9M)				M EZ (4.5M)				S EZ (2M)			
クオリティ		ファイン	スタンダード	RAWファイン	RAWスタンダード	ファイン	スタンダード	RAWファイン	RAWスタンダード	ファイン	スタンダード	RAWファイン	RAWスタンダード
カード	512 MB	95	185	29	34	170	330	34	37	410	790	38	40
	1 GB	190	380	59	69	340	670	68	76	830	1580	77	81
	2 GB	380	760	120	140	690	1360	135	150	1650	3070	155	165
	4 GB	760	1500	230	270	1360	2680	270	300	3260	6030	300	320
	6 GB	1160	2290	350	420	2080	4070	410	460	4950	9170	470	490
	8 GB	1560	3060	480	560	2780	5450	550	610	6630	12270	630	660
	12 GB	2350	4620	720	850	4200	8230	840	930	10010	18520	950	990
	16 GB	3140	6170	970	1140	5610	10980	1120	1240	13350	24700	1270	1320
	24 GB	4560	8960	1400	1660	8150	15940	1630	1800	19390	35870	1840	1920
	32 GB	6310	12390	1940	2290	11260	22020	2250	2490	26790	49560	2540	2660
	48 GB	8880	16550	2780	3250	15170	28010	3190	3530	36420	60710	3640	3790
	64 GB	12050	22460	3770	4410	20590	38020	4330	4780	49430	82380	4940	5140

画像横縦比		4:3	3:2	16:9	1:1
クオリティ		RAW			
カード	512 MB	33	37	44	42
	1 GB	67	75	89	86
	2 GB	135	150	180	170
	4 GB	260	300	350	340
	6 GB	400	450	540	520
	8 GB	540	610	720	690
	12 GB	820	920	1090	1050
	16 GB	1090	1220	1450	1400
	24 GB	1590	1780	2110	2030
	32 GB	2190	2460	2920	2810
	48 GB	3190	3570	4180	4040
	64 GB	4330	4840	5680	5490

記録可能枚数・記録可能時間（つづき）

■ 記録可能時間(動画撮影時)

ファイル形式		AVCHD Lite		
画質設定		SH	H	L
カード	512 MB	3分00秒	4分00秒	6分00秒
	1 GB	7分00秒	9分00秒	13分00秒
	2 GB	15分00秒	19分00秒	28分00秒
	4 GB	30分00秒	39分00秒	57分00秒
	6 GB	46分00秒	1時間00分	1時間27分
	8 GB	1時間2分	1時間21分	1時間58分
	12 GB	1時間34分	2時間3分	2時間58分
	16 GB	2時間6分	2時間45分	3時間58分
	24 GB	3時間3分	4時間00分	5時間47分
	32 GB	4時間13分	5時間32分	7時間59分
	48 GB	6時間13分	8時間8分	11時間45分
	64 GB	8時間27分	11時間3分	15時間57分

ファイル形式		MOTION JPEG			
画質設定		HD	WVGA	VGA	QVGA
カード	512 MB	1分55秒	4分50秒	5分00秒	14分00秒
	1 GB	3分55秒	10分00秒	10分20秒	28分50秒
	2 GB	8分10秒	20分40秒	21分30秒	59分30秒
	4 GB	16分20秒	40分50秒	42分30秒	1時間57分
	6 GB	24分50秒	1時間2分	1時間4分	2時間59分
	8 GB	33分20秒	1時間23分	1時間26分	4時間00分
	12 GB	50分20秒	2時間6分	2時間11分	6時間3分
	16 GB	1時間7分	2時間48分	2時間55分	8時間4分
	24 GB	1時間37分	4時間4分	4時間14分	11時間44分
	32 GB	2時間15分	5時間38分	5時間51分	16時間13分
	48 GB	3時間18分	8時間16分	8時間36分	23時間51分
	64 GB	4時間30分	11時間14分	11時間41分	32時間22分

- [AVCHD Lite]で動画を連続で撮影できるのは、最大13時間3分20秒までです。画面には13時間3分20秒までしか表示されません。ただし、バッテリー残量によっては、撮影が途中で終了する場合があります。(P26)
- [MOTION JPEG]で動画を連続で撮影できるのは、最大2 GBまでです。画面には、2 GBで記録できる最大記録可能時間までしか表示されません。

お知らせ

- 画面に表示される記録可能枚数･時間は、規則正しく減少しない場合があります。
- [EX光学ズーム](P129)を[ON]に設定している場合は、各画像横縦比の[L]以外の記録画素数に[EZ]が表示されます。

仕様

電源 DC 9.3 V

消費電力 2.6 W（液晶モニター撮影時）
[DMC-G2KおよびDMC-G2Wに同梱の交換レンズ14–42 mm/F3.5–5.6装着時]
2.8 W（液晶モニター撮影時）
[DMC-G2Wに同梱の交換レンズ45–200 mm/F4.0–5.6装着時]
1.6 W（液晶モニター再生時）
[DMC-G2KおよびDMC-G2Wに同梱の交換レンズ14–42 mm/F3.5–5.6装着時]
1.8 W（液晶モニター再生時）
[DMC-G2Wに同梱の交換レンズ45–200 mm/F4.0–5.6装着時]

カメラ有効画素数	1210万画素
撮像素子	4/3型 Live MOSセンサー　総画素数1306万画素、 原色カラーフィルター
デジタルズーム	最大4倍
EX光学ズーム （各画像横縦比設定の最大記録画素数以外）	ON/OFF単純拡大（他社レンズにも対応）
フォーカス	オートフォーカス/マニュアルフォーカス 顔認識/追尾AF/23点/1点（タッチフォーカスエリア選択可能）
シャッターシステム	フォーカルプレーンシャッター
連写撮影：連写速度 **連写枚数**	3.2コマ/秒（高速）、2.6コマ/秒（中速）、2コマ/秒（低速） 最大7コマ（RAWファイルあり） カードの空き容量に依存（RAWファイルなし）
ISO感度 **（標準出力感度）**	オート/インテリジェントISO/100/200/400/800/1600/ 3200/6400（1/3 EV ステップに変更可能）
シャッタースピード	B（バルブ）（最大約 4 分間）、60 ～ 1/4000秒 動画撮影中の写真記録：1/30 ～ 1/16000秒
測光範囲	EV 0 ～ EV 18
ホワイトバランス	オートホワイトバランス/晴天/曇り/日陰/白熱灯/フラッシュ/ ホワイトセット1/ホワイトセット2/色温度設定
露出	プログラムAE（P）、絞り優先 AE（A）、シャッター優先 AE（S）、 マニュアル露出（M）、オート 露出補正（1/3 EVステップ、–3 EV～+3 EV）
測光方式	マルチ測光/中央重点測光/スポット測光
液晶モニター	3.0型 TFT液晶（約46万ドット）（視野率約100%）　タッチパネル
ファインダー	カラー液晶ビューファインダー（約144万ドット相当） （視野率約100%） （視度調整付き –4～+4diopter）

仕様（つづき）

フラッシュ	内蔵ポップアップ式　GN11相当（ISO100・m） 撮影可能範囲：約45 cm～約6.2 m [DMC-G2KおよびDMC-G2Wに同梱の交換レンズ14–42 mm/F3.5–5.6装着、W端、[ISO AUTO]設定時] 撮影可能範囲：約1.0 m～約5.5 m [DMC-G2Wに同梱の交換レンズ45–200 mm/F4.0–5.6装着、W端、[ISO AUTO]設定時]
	オート/赤目軽減オート/強制発光/赤目軽減強制発光/ スローシンクロ/赤目軽減スローシンクロ/発光禁止
フラッシュ同調速度	1/160 秒以下
マイク	モノラル
スピーカー	モノラル
記録メディア	SDメモリーカード/SDHCメモリーカード/SDXCメモリーカード
記録画素数 **写真**	 画像横縦比[4:3]設定時 4000×3000画素/2816×2112画素/2048×1536画素 画像横縦比[3:2]設定時 4000×2672画素/2816×1880画素/2048×1360画素 画像横縦比[16:9]設定時 4000×2248画素/2816×1584画素/1920×1080画素 画像横縦比[1:1]設定時 2992×2992画素/2112×2112画素/1504×1504画素
画質設定 **動画**	 AVCHD Lite（音声付き） [SH]設定時　1280×720画素（60p記録※/約17 Mbps） [H]設定時　1280×720画素（60p記録※/約13 Mbps） [L]設定時　1280×720画素（60p記録※/約9 Mbps） ※イメージセンサーからの出力は 30コマ/秒です MOTION JPEG（音声付き） [HD]設定時　1280×720画素（30コマ/秒） [WVGA]設定時　848×480画素（30コマ/秒） [VGA]設定時　640×480画素（30コマ/秒） [QVGA]設定時　320×240画素（30コマ/秒）
クオリティ（圧縮率）	RAW/RAW+ファイン/RAW+スタンダード/ファイン/スタンダード
記録画像ファイル形式 **写真** **音声付き写真** **音声付き動画**	 JPEG（DCF準拠、Exif2.21準拠）/DPOF対応 JPEG（DCF準拠、Exif2.21準拠）+QuickTime AVCHD Lite/QuickTime Motion JPEG

インターフェース 　デジタル 　アナログビデオ 　オーディオ	 USB 2.0（High Speed） NTSC コンポジット オーディオライン出力（モノラル）
端子 　MIC/REMOTE 　AV OUT/DIGITAL 　HDMI 　DC IN	 Ø2.5 mm ジャック 専用ジャック（8pin） miniHDMI Cタイプ なし（ACアダプター使用時は別売DCケーブル使用）
寸法	約 幅124 mm×高さ83.6 mm×奥行き74.0 mm （突起部除く）
質量	約593 g［カード、DMC-G2KおよびDMC-G2Wに同梱の交換レンズ 14–42 mm/F3.5–5.6、バッテリー含む］ 約810 g［カード、DMC-G2Wに同梱の交換レンズ 45–200 mm/F4.0–5.6、バッテリー含む］ 約371 g（本体）
推奨使用温度	0 ℃～40 ℃
許容相対湿度	10%～80%
言語切換	なし（日本語のみ）

専用バッテリーチャージャー/AC アダプター: DE-A49A

定格出力	DC 9.3 V　1.2 A（デジタルカメラ時） DC 8.4 V　0.65 A（充電時）
定格入力	AC100 V— 240 V　50/60 Hz
入力容量	25 VA（100 V）、34 VA（240 V）

リチウムイオンバッテリーパック : DMW-BLB13

電圧/ 容量	7.2 V/1250 mAh

仕様（つづき）

交換レンズ　H-FS014042
(LUMIX G VARIO 14–42 mm/F3.5–5.6 ASPH./MEGA O.I.S.)

焦点距離	f=14 mm ～ 42 mm （35 mm フィルムカメラ換算：28 mm ～ 84 mm）
絞り形式	7枚羽根　虹彩絞り/円形絞り
開放絞り	F3.5（W 端時）～ F5.6（T 端時）
最小絞り値	F22
レンズ構成	9 群　12枚（非球面1枚）
撮影範囲	0.3 m ～∞（撮像面から）
最大撮影倍率	0.16×（35 mm フィルムカメラ換算：0.32×）
手ブレ補正	あり
O.I.S.スイッチ	なし（手ブレ補正の設定は撮影メニューで行います）
マウント	マイクロフォーサーズマウント
画角	75 °（W端時）～ 29°（T端時）
フィルター径	52 mm
最大径	約60.6 mm
全長	約63.6 mm（レンズ先端からレンズマウント基準面まで）
質量	約165 g

交換レンズ　H-FS045200
(LUMIX G VARIO 45–200 mm/F4.0–5.6/MEGA O.I.S.)

焦点距離	f=45 mm ～ 200 mm （35 mm フィルムカメラ換算：90 mm ～ 400 mm）
絞り形式	7枚羽根　虹彩絞り/円形絞り
開放絞り	F4.0（W 端時）～ F5.6（T 端時）
最小絞り値	F22
レンズ構成	13 群　16枚（非球面なし）
撮影範囲	1.0 m ～∞（撮像面から）
最大撮影倍率	0.19×（35 mm フィルムカメラ換算：0.38×）
手ブレ補正	あり
O.I.S.スイッチ	あり（ON/OFF切り換え）
マウント	マイクロフォーサーズマウント
画角	27 °（W端時）～ 6.2°（T端時）
フィルター径	52 mm
最大径	約70 mm
全長	約100 mm（レンズ先端からレンズマウント基準面まで）
質量	約380 g

修理を依頼されるときは

まず「Q & A 故障かな？と思ったら」をお読みください。それでも解決しない場合は故障の可能性があります。
お買い上げの販売店または修理ご相談窓口(P210 ～ 212)にお問い合わせください。
万一、故障が発生し、修理をご依頼される場合は、円滑な対応をさせていただくために、下記内容をご記入のうえ、製品に添付していただきますようお願いいたします。

- 修理の際に、セットアップメニュー、撮影メニュー、再生メニューなどの設定を出荷状態に戻さなければならない場合があります。あらかじめご了承ください。
- 画質・ピント・手ブレ関連の故障の場合、支障のない範囲でできるだけご指摘の画像を製品に添付していただきますようお願いいたします。

ご記入日：　　年　月　日

きりとり線

■ 商品に関して

機種名	DMC-G2K DMC-G2W DMC-G2
お買い上げ日	年　月　日
製造番号 （保証書または本体底面に記載）	
保証書添付	□有り　□無し

■ 確認事項

修理代金の見積もり （有償修理時のみ）	□不要　□____万円以上必要　□必要
修理ご依頼時の添付品 （本体以外の添付品をご記入ください）	

裏面につづく

保証とアフターサービス（よくお読みください）

修理・使いかた・お手入れなどは・・・

■ まず、お買い上げの販売店へご相談ください。

▼お買い上げの際に記入されると便利です

販売店名			
電話	（　　　）	ー	
お買い上げ日	年	月	日

修理を依頼されるときは・・・

「メッセージ表示」「Q & A 故障かな？と思ったら」（183～192ページ）でご確認のあと、直らないときは、まず接続している電源を外して、お買い上げ日と下の内容をご連絡ください。

項目	内容
●製品名	デジタルカメラ/レンズキット/ ダブルズームレンズキット/ ボディ
●品　番	DMC-G2K DMC-G2W DMC-G2
●故障の状況	できるだけ具体的に

●**保証期間中は、保証書の規定に従ってお買い上げの販売店が修理をさせていただきますので、おそれ入りますが、製品に保証書を添えてご持参ください。**
保証期間：お買い上げ日から本体１年間
（但し、CD-ROM内のソフトウェアの内容は含みません）

●**保証期間終了後は、診断をして修理できる場合はご要望により修理させていただきます。**

※修理料金は次の内容で構成されています。

技術料	**診断・修理・調整・点検などの費用**
部品代	**部品および補助材料代**
出張料	**技術者を派遣する費用**

※**補修用性能部品の保有期間** 8年
当社は、このデジタルカメラ/レンズキット/ダブルズームレンズキット/ボディの補修用性能部品（製品の機能を維持するための部品）を、製造打ち切り後8年保有しています。

保証とアフターサービス（よくお読みください）（つづき）

■ 転居や贈答品などでお困りの場合は、次の窓口にご相談ください。

※「よくあるご質問」「メールでのお問い合わせ」などはホームページをご活用ください。
http://panasonic.jp/support/

●修理に関するご相談は・・・

パナソニック 修理ご相談窓口

電話 フリーダイヤル 携帯・PHS OK **0120-878-554**
※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

- 上記電話番号がご利用いただけない場合は、各地の「修理ご相談窓口」におかけください。

●使いかた・お手入れなどのご相談は・・・

パナソニック LUMIX（ルミックス）相談窓口 365日 受付9時～20時

電話 フリーダイヤル 携帯・PHS OK **0120-878-638**
※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

■上記番号がご利用いただけない場合 **06-6907-1187**
■FAX フリーダイヤル **0120-878-236**

Help desk for foreign residents in Japan
Tokyo (03) 3256-5444 **Osaka** (06) 6645-8787
Open : 9:00 - 17:30 (closed on Saturdays/Sundays/national holidays)
※上記の内容は、予告なく変更する場合があります。ご了承ください。

※ ご使用の回線（IP電話やひかり電話など）によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。

ご相談窓口における個人情報のお取り扱い
パナソニック株式会社およびパナソニックグループ関係会社（以下「当社」）は、お客様の個人情報をパナソニック製品に関するご相談対応や修理サービスなどに利用させていただきます。併せて、お問い合わせ内容を正確に把握するため、ご相談内容を録音させていただきます。
また、折り返し電話をさせていただくときのために発信番号を通知いただいておりますので、ご了承願います。
当社は、お客様の個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に個人情報を開示・提供いたしません。
個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

■ 各地域の 修理ご相談窓口

※電話番号をよくお確かめの上、おかけください。

• 地区・時間帯によって、集中修理ご相談窓口に転送させていただく場合がございます。

地区	拠点	電話番号	住所
北海道地区	札 幌	☎(011)894-1251	札幌市厚別区厚別南2丁目17-7
	旭 川	☎(0166)22-3011	旭川市2条通16丁目1166
	帯 広	☎(0155)33-8477	帯広市西20条北2丁目23-3
	函 館	☎(0138)48-6631	函館市西桔梗589番地241 （函館流通卸センター内）
東北地区	青 森	☎(017)775-0326	青森市大字浜田字豊田364
	秋 田	☎(018)868-7008	秋田市外旭川字小谷地3-1
	岩 手	☎(019)645-6130	盛岡市厨川5丁目1-43
	宮 城	☎(022)387-1117	仙台市宮城野区扇町7-4-18
	山 形	☎(023)641-8100	山形市平清水1丁目1-75
	福 島	☎(024)991-9308	郡山市亀田1丁目51-15
首都圏地区	栃 木	☎(028)689-2555	宇都宮市上戸祭3丁目3-19
	群 馬	☎(027)254-2075	前橋市箱田町325-1
	茨 城	☎(029)864-8756	つくば市筑穂3丁目15-3
	埼 玉	☎(048)728-8960	桶川市赤堀2丁目4-2
	千 葉	☎(043)208-6034	千葉市中央区末広5丁目9-5
	東 京	☎(03)5477-9700	東京都世田谷区宮坂2丁目26-17
	山 梨	☎(055)222-5822	甲府市宝1丁目4-13
	神奈川	☎(045)847-9720	横浜市港南区日野5丁目3-16
	新 潟	☎(025)286-0180	新潟市東区東明1丁目8-14
中部地区	石 川	☎(076)280-6608	金沢市玉鉾2丁目266番地
	富 山	☎(076)424-2549	富山市根塚町1丁目1-4
	福 井	☎(0776)21-0622	福井市問屋町2丁目14
	長 野	☎(0263)86-9209	松本市寿北7丁目3-11
	静 岡	☎(054)287-9000	静岡市葵区千代田7丁目7-5
	愛 知	☎(052)819-0225	名古屋市瑞穂区塩入町8-10
	岐 阜	☎(058)278-6720	岐阜市中鶉4丁目42
	高 山	☎(0577)33-0613	高山市花岡町3丁目82
	三 重	☎(059)254-5520	津市久居野村町字山神421
近畿地区	滋 賀	☎(077)582-5021	守山市水保町1166番地の1
	京 都	☎(075)646-2123	京都市南区上鳥羽中河原3番地
	大 阪	☎(06)6359-6225	大阪市城東区関目2丁目15-5
	奈 良	☎(0743)59-2770	大和郡山市筒井町800番地
	和歌山	☎(073)475-2984	和歌山市中島499-1
	兵 庫	☎(078)796-3140	神戸市須磨区弥栄台3丁目13-4

保証とアフターサービス（よくお読みください）（つづき）

地区	拠点	電話番号	所在地
中国地区	鳥 取	☎(0857)26-9695	鳥取市安長295-1
	米 子	☎(0859)34-2129	米子市米原4丁目2-33
	松 江	☎(0852)23-1128	松江市平成町182番地14
	出 雲	☎(0853)21-3133	出雲市渡橋町416
	浜 田	☎(0855)22-6629	浜田市下府町327-93
	岡 山	☎(086)242-6236	岡山市北区田中138-110
	広 島	☎(082)295-5011	広島市西区南観音1丁目13-5
	山 口	☎(083)973-2720	山口市小郡下郷220-1
四国地区	香 川	☎(087)868-6388	高松市勅使町152-2
	徳 島	☎(088)624-0253	徳島市沖浜2丁目36
	高 知	☎(088)834-3142	高知市仲田町2-16
	愛 媛	☎(089)905-7544	愛媛県伊予郡砥部町八倉75-1
九州地区	福 岡	☎(092)593-8002	春日市春日公園3丁目48
	佐 賀	☎(0952)26-9151	佐賀市鍋島町大字八戸字上深町3044
	長 崎	☎(095)830-1658	長崎市東町1919-1
	大 分	☎(097)556-3815	大分市萩原4丁目8-35
	宮 崎	☎(0985)63-1213	宮崎市本郷北方字草葉2099-2
	熊 本	☎(096)367-6067	熊本市健軍本町12-3
	天 草	☎(0969)22-3125	天草市港町18-11
	鹿児島	☎(099)250-5657	鹿児島市与次郎1丁目5-33
	大 島	☎(0997)53-5101	奄美市名瀬朝仁町11-2
沖縄地区	沖 縄	☎(098)877-1207	浦添市城間4丁目23-11

所在地、電話番号は変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。
最新の「各地域の修理ご相談窓口」はホームページをご活用ください。
http://panasonic.co.jp/cs/service/area.html　1109

さくいん

さくいん（つづき）

会員サイト「CLUB Panasonic」で「ご愛用者登録」をしてください

PC http://club.panasonic.jp/ 携帯

※このサービスはWEB限定のサービスです。

お役に立つ、いろいろな情報は次のサイトで！

■ 撮りかたのコツや新製品情報　http://panasonic.jp/
■ サポート情報　http://panasonic.jp/support/
■ 便利なLUMIX修理サービス　http://lumix.jp/repair/

AVCHD Lite ™

"AVCHD", "AVCHD Lite"および"AVCHD", "AVCHD Lite"ロゴはパナソニック株式会社とソニー株式会社の商標です。

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

QuickTimeおよびQuickTimeロゴは、ライセンスに基づいて使用されるApple Inc.の商標または登録商標です。

愛情点検　長年ご使用のデジタルカメラ/レンズキット/ダブルズームレンズキット/ボディの点検を！

こんな症状はありませんか	・煙が出たり、異常なにおいや音がする ・映像や音声が乱れたり出ないことがある ・内部に水や異物が入った ・本体やチャージャーが破損した ・その他の異常や故障がある
ご使用中止	故障や事故防止のため、電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店に点検をご相談ください。

パナソニック株式会社
AVCネットワークス社　ネットワーク事業グループ
〒571-8504　大阪府門真市松生町1番15号

F0310HN1060 (2100 ©)